

令和 6 年度
過労死等に関する実態把握のための
労働・社会面の調査研究

調査報告書

(就業者調査)

令和 7 年 5 月

労働安全衛生総合研究所
社会労働衛生研究グループ

令和 6 年度 過労死等に関する実態把握のための労働・社会面の調査研究
調査報告書(就業者調査)

令和 7 年 5 月 31 日発行

研究班構成

高橋 正也（労働安全衛生総合研究所 社会労働衛生研究グループ 部長）
加島 遼平（労働安全衛生総合研究所 社会労働衛生研究グループ 研究員）
高田 琢弘（同研究所 同グループ 研究員）
王 薈琳 （同研究所 同グループ 研究員）
佐々木 毅（同研究所 産業保健研究グループ 部長）

独立行政法人労働者健康安全機構

労働安全衛生総合研究所 社会労働衛生研究グループ

214-8585 川崎市多摩区長尾 6-21-1

目次

1 本調査の背景・目的	1
2 方法	2
2.1 調査の概要	2
2.2 調査項目	3
3 結果	7
3.1 基礎統計	7
3.1.1 就業形態、在職年月数、副業の有無、職種、企業規模、事業場規模	7
3.1.2 実労働時間数	9
3.1.3 所定時間外労働が生じる理由	10
3.1.4 労働時間制度	10
3.1.5 労働時間の把握	11
3.1.6 夜勤等の状況	12
3.1.7 不規則勤務の状況	13
3.1.8 休日勤務、連続勤務の状況	14
3.1.9 年次有給休暇の付与・取得日数	15
3.1.10 勤務間インターバル制度の有無	16
3.1.11 現在の満足度	17
3.1.12 仕事のストレス状況	19
3.1.13 サポートの状況	21
3.1.14 けがや病気による休業等の状況	22
3.1.15 ワーク・エンゲイジメント、心理的安全性、抑うつ・不安傾向(K6)、主観的健康感、主観的幸福感	23
3.1.16 睡眠の状況、疲労の回復状況	26
3.1.17 ハラスメントの状況、ハラスメントへの取り組み	29
3.1.18 既往歴、健康診断の実施状況、ストレスチェックの状況、時間外・休日労働時間が月 80 時間超の労働者に対しての医師による面接指導の状況	34
3.1.19 転職希望	35

3.1.20	テレワークの状況	36
3.1.21	年間収入.....	36
3.1.22	各種習慣	37
3.1.23	最終学歴、配偶者の有無、世帯人数	38
3.1.24	1年前との比較(労働時間・主観的健康感).....	39
3.2	性別とのクロス集計	40
3.2.1	実労働時間数、所定時間外労働の生じる理由	40
3.2.2	抑うつ・不安傾向(K6)	42
3.2.3	主観的幸福感.....	42
3.2.4	現在の満足度(職業生活全体)	43
3.2.5	主観的健康感.....	43
3.2.6	仕事のストレスとサポートの状況.....	44
3.2.7	睡眠の状況.....	45
3.2.8	ワーク・エンゲイジメントの状況.....	47
3.2.9	心理的安全性の状況.....	47
3.2.10	ハラスメントの経験状況	48
3.3	年齢とのクロス集計	49
3.3.1	実労働時間数、所定時間外労働が生じる理由	49
3.3.2	抑うつ・不安傾向(K6)	51
3.3.3	主観的幸福感.....	52
3.3.4	現在の満足度(職業生活全体)	52
3.3.5	主観的健康感.....	53
3.3.6	仕事のストレスとサポートの状況.....	53
3.3.7	ワーク・エンゲイジメントの状況.....	55
3.3.8	心理的安全性の状況.....	56
3.3.9	ハラスメントの経験状況	57
3.4	業種とのクロス集計	58
3.4.1	実労働時間数、所定時間外労働の生じる理由	58

3.4.2	抑うつ・不安傾向(K6)	61
3.4.3	主観的幸福感	62
3.4.4	現在の満足度(職業生活全体)	63
3.4.5	主観的健康感	64
3.4.6	仕事のストレスとサポートの状況	65
3.4.7	睡眠の状況	68
3.4.8	ワーク・エンゲイジメントの状況	69
3.4.9	心理的安全性の状況	70
3.4.10	ハラスメントの経験状況	71
3.5	雇用形態とのクロス集計	73
3.5.1	実労働時間数、所定時間外労働の生じる理由	73
3.5.2	抑うつ・不安傾向(K6)	75
3.5.3	主観的幸福感	76
3.5.4	現在の満足度(職業生活全体)	77
3.5.5	主観的健康感	77
3.5.6	仕事のストレスとサポートの状況	78
3.5.7	睡眠の状況	80
3.5.8	ワーク・エンゲイジメントの状況	81
3.5.9	心理的安全性の状況	82
3.5.10	ハラスメントの経験状況	83
3.6	実労働時間数とのクロス集計	84
3.6.1	所定時間外労働の生じる理由	84
3.6.2	抑うつ・不安傾向(K6)	85
3.6.3	主観的幸福感	85
3.6.4	現在の満足度(職業生活全体)	86
3.6.5	主観的健康感	86
3.6.6	仕事のストレスとサポートの状況	87
3.6.7	睡眠の状況	89

3.6.8	ワーク・エンゲイジメントの状況.....	91
3.6.9	心理的安全性の状況.....	92
3.6.10	ハラスメントの経験状況.....	93
3.7	上司のサポート状況とのクロス集計.....	94
3.7.1	実労働時間数、所定時間外労働の生じる理由.....	94
3.7.2	抑うつ・不安傾向(K6).....	96
3.7.3	主観的幸福感.....	96
3.7.4	現在の満足度(職業生活全体).....	97
3.7.5	主観的健康感.....	97
3.7.6	仕事のストレスとサポートの状況.....	98
3.7.7	ワーク・エンゲイジメントの状況.....	99
3.7.8	心理的安全性の状況.....	99
3.7.9	ハラスメントの経験状況.....	100
3.8	各状況や尺度とのクロス集計.....	101
3.8.1	睡眠時間と抑うつ・不安傾向(K6).....	101
3.8.2	ワーク・エンゲイジメントの状況.....	101
3.8.3	心理的安全性の状況.....	103
3.8.4	ハラスメントの経験状況.....	105

1 本調査の背景・目的

個人にとって労働は生計の営みの根幹であるのみならず、社会との接点を提供し、生活を充実させて、生涯にわたって生きがいや自己実現、喜びをもたらすものである。個人が労働を通じて健康で文化的な生活を享受できるようにすることは成熟期を迎えた社会の責務であり、また、個々人の労働を結集することによって社会はより豊かなものになろう。しかし、労働には、個人を生きがいや自己実現、福祉の達成とは正反対の極地に追い込む負の作用があり、その一つが過労死である。過剰な労働が労働者を時として死に迫りやることは我が国において 1980 年代後半に大きく注目され、労働と健康との観点から過労死防止のための研究や制度設計が進められてきた。しかしながら、過労死はいまだに後を絶たず、その実態は必ずしも十分に把握されているとは言えない状況であった。

こうした状況に鑑み、平成 26 年に過労死等防止対策推進法が制定され、翌年には過労死等の防止のための対策に関する大綱(以下「大綱」という。)が閣議決定された。以降、過労死等の防止対策が進められるとともに、その課題を整理しながら議論され、令和 6 年 8 月には大綱が見直された。大綱では、長時間労働の削減、過重労働による健康障害の防止、メンタルヘルス対策・ハラスメント対策に重点的に取り組むこととされ、そのために過労死等事案の分析や疫学研究と並んで、労働・社会分野の調査・分析を進めることが盛り込まれている。

本就業者調査においては、各種メンタルヘルス対策等の基礎情報提供を目的として、日本の就業者全体の働き方・健康状況・ハラスメントの状況等についての調査を実施した。

2 方法

2.1 調査の概要

全国の就業者 20,000 人を対象に自記式調査票を用いたウェブ調査を行った。この就業者 20,000 人は労働力調査基本集計全都道府県全国月次統計より令和 5 年平均の性別・年齢階級別・産業別就業者数(基本集計第 II-2-1 表)に基づいて割付された(表 2.1.A)。調査の趣旨・目的・個人情報の保護・回答は任意であること等を記した説明文を読み、同意が得られたモニターから回答を得た。調査は令和 6 年 11 月 14 日より令和 6 年 11 月 28 日まで実施した。割付に基づいた回収数を表 2.1.B に、回収割合を表 2.1.C に示す。割付に対しての不足は、同業種・同性別の隣接年齢層で補填を優先し、その後に第一に年齢層を緩和し第二に業種を緩和するという順で回収困難な場合に同性内での補填を行い、最終的に 20,000 名を回収した。割付 192 セルにおいて、最終的にセルの充足率は 88.5%であった。各セルに対しての回収割合が30%以下と特に回収状況が不良であったセルは次の通りである。

「男性」・「20～29 歳」:「宿泊業, 飲食サービス業」(30%)

「女性」・「65 歳以上」:「農業, 林業, 漁業, 鉱業, 採石業, 砂利採取業」(3%)、「宿泊業, 飲食サービス業」(23%)

回収結果について、『性別』は、「男性」が 54.5%、「女性」が 45.5%であり、「男性」の回答割合が高かった。性別の全体回収数については、割付数との差異が生じていなかった。『年齢』は、「50～59 歳」(23.9%)、「40～49 歳」(23.7%)、「30～39 歳」(19.0%)の順に回答割合が高かった。割付と比較しての特徴は、男性では「20～29 歳」の回収が不足し隣接する「30～39 歳」の超過割合が高く、女性では「65 歳以上」の回収が不足していた。『業種』は、「製造業(16.8%)」、「卸売業・小売業」(16.4%)、「医療・福祉」(14.8%)の順に回答割合が高かった。割付と比較しての特徴は、男性の『業種』の全体回収数については、就業者一般との差異が生じていなかったものの、女性では、「農業, 林業, 漁業, 鉱業, 採石業, 砂利採取業」と「宿泊業, 飲食サービス業」といった 65 歳以上の女性の就業比率の高い業種の回収が不足を

していた。また、女性の性別回収数を割付と合致させることを意図し、「製造業」、「卸売業、小売業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「教育、学習支援業」、「医療、福祉」の業種から割付を超過しての取得を行った。

割付を基に調査を実施したため、性別や業種の大枠では本調査は就業者を概ね代表できていると考えられる。他方で、web モニター調査という調査形式においては登場のしにくい属性については、回収の不良が起きているという調査上の限界点が存在する。また、学歴や就業形態といった項目を本調査においては割付属性として用いることができていないという限界点も存在する。これらの限界点に留意して、報告書の集計結果を解釈することが望まれる。

2.2 調査項目

本年度調査で用いた調査票を付録 1 に示す。調査票は以下の質問事項から構成される。

- 1: 個人特性(性別・年齢・学歴等)、2: 副業の有無、3: 業種・職種、4: 雇用形態、
- 5: 事業場・企業規模、6: 勤続年数、7: 労働時間、8: 1 年前との状況の比較、
- 9: 労働時間制度、10: 労働時間の把握方法・正確性、
- 11: 所定外労働時間の発生する理由、12: 深夜残業等、13: 休日出勤、
- 14: 連続勤務日数、15: 年次有休休暇取得状況、16: 不規則勤務、
- 17: 勤務間インターバル、18: 仕事の満足感、19: 職業性ストレスの状況、
- 20: サポートの状況、21: 労災休業、22: アブセンティズム、23: プレゼンティズム、
- 24: ワーク・エンゲイジメント、25: 心理的安全性、26: ハラスメント経験、
- 27: ハラスメントへの取組、28: 生活習慣、29: 睡眠、30: 疲労の回復、
- 31: K6、32: 主観的健康感、33: 健康状態(既往歴)、34: 定期健診、
- 35: ストレスチェック、36: 長時間労働由来の面接指導の有無、
- 37: 主観的幸福感、38: テレワーク、39: 転職希望、40: 所得

表 2.1 割付状況

(単位:人)

	男性						計
	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	
農業, 林業, 漁業, 鉱業, 採石業, 砂利採取	26	42	51	48	35	208	410
建設業	141	179	284	316	118	217	1,255
製造業	336	467	578	591	185	182	2,339
電気・ガス・熱供給・水道業	10	13	16	26	6	3	74
情報通信業	131	150	157	137	35	16	626
運輸業, 郵便業	83	125	208	246	89	112	863
卸売業, 小売業	246	268	342	339	128	211	1,534
金融業, 保険業	35	42	48	64	22	13	224
不動産業, 物品賃貸業	29	32	48	48	22	77	256
学術研究, 専門・技術サービス業	58	86	111	109	48	83	495
宿泊業, 飲食サービス業	125	58	80	73	29	64	429
生活関連サービス業, 娯楽業	45	45	54	48	22	61	275
教育, 学習支援業	80	83	80	89	51	61	444
医療, 福祉	112	157	163	131	58	115	736
複合サービス事業	10	16	22	29	10	3	90
サービス業(他に分類されないもの)	96	125	160	175	83	214	853
全体	1,563	1,888	2,402	2,469	941	1,640	10,903

	女性						計
	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	
農業, 林業, 漁業, 鉱業, 採石業, 砂利採取	10	16	26	32	22	124	230
建設業	32	45	67	67	22	42	275
製造業	147	179	249	249	77	99	1,000
電気・ガス・熱供給・水道業	3	0	6	6	0	0	15
情報通信業	83	70	54	38	10	6	261
運輸業, 郵便業	35	42	61	67	19	19	243
卸売業, 小売業	275	288	377	409	141	211	1,701
金融業, 保険業	45	58	61	73	22	13	272
不動産業, 物品賃貸業	22	32	35	38	16	42	185
学術研究, 専門・技術サービス業	51	73	83	67	19	22	315
宿泊業, 飲食サービス業	165	93	144	134	51	118	705
生活関連サービス業, 娯楽業	77	73	86	80	32	80	428
教育, 学習支援業	109	109	150	163	54	51	636
医療, 福祉	332	390	521	505	192	227	2,167
複合サービス事業	10	10	16	16	6	3	61
サービス業(他に分類されないもの)	73	96	131	137	51	115	603
全体	1,469	1,574	2,067	2,081	734	1,172	9,097

表 2.1.B 回収状況

(単位:人)

	男性						計
	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	
農業, 林業, 漁業, 鉱業, 採石業, 砂利採取	26	42	51	48	44	199	410
建設業	128	190	286	316	118	217	1,255
製造業	336	467	578	591	185	182	2,339
電気・ガス・熱供給・水道業	10	13	16	26	6	3	74
情報通信業	131	150	157	137	35	16	626
運輸業, 郵便業	83	125	208	246	89	112	863
卸売業, 小売業	103	385	344	363	128	211	1,534
金融業, 保険業	35	42	48	64	22	13	224
不動産業, 物品賃貸業	29	32	48	48	22	77	256
学術研究, 専門・技術サービス業	28	88	125	123	48	83	495
宿泊業, 飲食サービス業	37	116	110	73	29	64	429
生活関連サービス業, 娯楽業	31	54	57	50	22	61	275
教育, 学習支援業	34	108	101	89	51	61	444
医療, 福祉	102	164	165	132	58	115	736
複合サービス事業	10	16	22	29	10	3	90
サービス業(他に分類されないもの)	96	125	160	175	83	214	853
全体	1,219	2,117	2,476	2,510	950	1,631	10,903

	女性						計
	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	
農業, 林業, 漁業, 鉱業, 採石業, 砂利採取	19	28	53	35	9	4	148
建設業	33	48	68	70	30	26	275
製造業	169	179	249	249	105	71	1,022
電気・ガス・熱供給・水道業	3	0	6	6	0	0	15
情報通信業	83	70	54	38	10	6	261
運輸業, 郵便業	35	42	61	68	21	16	243
卸売業, 小売業	277	320	421	485	147	89	1,739
金融業, 保険業	45	58	61	73	22	13	272
不動産業, 物品賃貸業	22	32	35	38	16	42	185
学術研究, 専門・技術サービス業	32	75	100	67	19	22	315
宿泊業, 飲食サービス業	112	131	193	153	40	27	656
生活関連サービス業, 娯楽業	79	92	87	92	54	33	437
教育, 学習支援業	111	111	151	166	57	54	650
医療, 福祉	335	387	583	585	228	97	2,215
複合サービス事業	10	10	16	16	6	3	61
サービス業(他に分類されないもの)	73	96	131	137	83	83	603
全体	1,438	1,679	2,269	2,278	847	586	9,097

表 2.1.C 割付に対しての回収状況

(単位:%)

	男性						
	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	計
農業、林業、漁業、鉱業、採石業、砂利採取	100.0	100.0	100.0	100.0	125.7	95.7	100.0
建設業	90.8	106.1	100.7	100.0	100.0	100.0	100.0
製造業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
電気・ガス・熱供給・水道業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
情報通信業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
運輸業、郵便業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
卸売業、小売業	41.9	143.7	100.6	107.1	100.0	100.0	100.0
金融業、保険業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
不動産業、物品賃貸業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
学術研究、専門・技術サービス業	48.3	102.3	112.6	112.8	100.0	100.0	100.0
宿泊業、飲食サービス業	29.6	200.0	137.5	100.0	100.0	100.0	100.0
生活関連サービス業、娯楽業	68.9	120.0	105.6	104.2	100.0	100.0	100.0
教育、学習支援業	42.5	130.1	126.3	100.0	100.0	100.0	100.0
医療、福祉	91.1	104.5	101.2	100.8	100.0	100.0	100.0
複合サービス事業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
サービス業(他に分類されないもの)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
全体	78.0	112.1	103.1	101.7	101.0	99.5	100.0

	女性						
	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	計
農業、林業、漁業、鉱業、採石業、砂利採取	190.0	175.0	203.8	109.4	40.9	3.2	64.3
建設業	103.1	106.7	101.5	104.5	136.4	61.9	100.0
製造業	115.0	100.0	100.0	100.0	136.4	71.7	102.2
電気・ガス・熱供給・水道業	100.0	-	100.0	100.0	-	-	100.0
情報通信業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
運輸業、郵便業	100.0	100.0	100.0	101.5	110.5	84.2	100.0
卸売業、小売業	100.7	111.1	111.7	118.6	104.3	42.2	102.2
金融業、保険業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
不動産業、物品賃貸業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
学術研究、専門・技術サービス業	62.7	102.7	120.5	100.0	100.0	100.0	100.0
宿泊業、飲食サービス業	67.9	140.9	134.0	114.2	78.4	22.9	93.0
生活関連サービス業、娯楽業	102.6	126.0	101.2	115.0	168.8	41.3	102.1
教育、学習支援業	101.8	101.8	100.7	101.8	105.6	105.9	102.2
医療、福祉	100.9	99.2	111.9	115.8	118.8	42.7	102.2
複合サービス事業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
サービス業(他に分類されないもの)	100.0	100.0	100.0	100.0	162.7	72.2	100.0
全体	97.9	106.7	109.8	109.5	115.4	50.0	100.0

3 結果

3.1 基礎統計

3.1.1 就業形態、在職年月数、副業の有無、職種、企業規模、事業場規模

調査回答者の『就業形態』、『在職年月数』、『副業の有無』、働いている『企業規模』と『事業場規模』を表 3.1.1.A～表 3.1.1.F に示す。

『就業形態』は、「正社員・正職員」(66.7%)、「契約社員・嘱託」(10.3%)、「自営業主(雇い人なし)」(7.8%)の順に回答割合が高かった。

『在職年月数』は、「3 年以上 10 年未満」(31.3%)、「10 年以上 20 年未満」(25.1%)、「20 年以上」(22.9%)の順に回答割合が高く、3 年以上と回答した者が全体の 79.3%を占めていた。

『副業の有無』は、「仕事は 2 つ以上(副業・兼業をしている)」と回答した者は 8.3%であった。

『職種』は、「事務従事者」(25.0%)、「専門的・技術的職業従事者」(19.4%)、「サービス職業従事者」(11.4%)の順に回答割合が高かった。

『企業規模』は、「1,000 人以上」(24.6%)、「1～9 人」(19.4%)、「100～299 人」(12.8%)の順に回答割合が高かった。

『事業場規模』は、「1～9 人」(28.6%)、「10～29 人」(19.6%)、「100～299 人」(11.8%)の順に回答割合が高かった。50 人未満の事業場が 58.0%を占めていた。

表 3.1.1.A 就業形態

(単位:%)										
	N	正社員・ 正職員	契約社員 ・嘱託	パート・ア ルバイト	臨時・日 雇社員	労働者派 遣事業所 の派遣社 員	会社など の役員	自営業主 (雇い人 あり)	自営業主 (雇い人 なし)	自家営業 の手伝い
全体	20,000	66.7	10.3	5.7	0.2	3.3	2.1	2.5	7.8	1.4

表 3.1.1.B 在職年月数

(単位:%)

	N	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上
全体	20,000	7.8	12.9	31.3	25.1	22.9

表 3.1.1.C 副業の有無

(単位:%)

	N	仕事は1つだけ	仕事は2つ以上 (副業・兼業を している)
全体	20,000	91.8	8.3

表 3.1.1.D 職種

(単位:%)

	N	管理的職業 従事者	専門的・技術 的職業従事 者	事務従事者	販売従事者	サービス職業 従事者	保安職業従 事者
全体	20,000	9.6	19.4	25.0	11.0	11.4	0.5

		農林漁業従 事者	生産工程従 事者	輸送・機械運 転従事者	建設・採掘従 事者	運搬・清掃・ 包装等従事 者	分類不能の職 業
全体		1.9	6.9	2.4	3.0	2.4	6.6

表 3.1.1.E 企業規模

(単位:%)

	N	1～9人	10～ 29人	30～ 49人	50～ 99人	100～ 299人	300～ 999人	1,000人 以上	わからない
全体	20,000	19.4	8.9	5.8	8.9	12.8	11.9	24.6	7.6

表 3.1.1.F 事業場規模

(単位:%)

	N	1～9人	10～ 29人	30～ 49人	50～ 99人	100～ 299人	300～ 999人	1,000人 以上	わからない
全体	20,000	28.6	19.6	9.8	11.3	11.8	6.9	7.6	4.3

3.1.2 実労働時間数

『実労働時間数』について、総労働時間・本業の労働時間・副業の労働時間について表 3.1.2.A～表 3.1.2.C に示す。就業形態を「正社員・正職員」と回答し、総労働時間が 10 時間未満の回答者は集計対象外とした。

『過去 1 か月の平均的な 1 週間の実労働時間数』は、総労働時間では「20～40 時間未満」(51.7%)、本業の労働時間では「20～40 時間未満」(54.1%)、副業の労働時間では「20 時間未満」(91.0%)回答割合が最も高かった。「60 時間以上」との回答者の割合は、総労働時間では 3.6%、本業の労働時間では 2.8%、副業の労働時間では 0.7%であった。各平均労働時間は、総労働 38.8 時間、本業 38.0 時間、副業 9.3 時間であった。

表 3.1.2.A 過去 1 か月の平均的な 1 週間の実労働時間数の状況(総労働)

(単位:%)						
	N	平均	20時間未満	20～40時間 未満	40～60時間 未満	60時間以上
全体	17,992	(38.8時間)	12.0	51.7	32.6	3.6

(注) 就業形態を「正社員・正職員」と回答し、総労働時間が 10 時間未満の回答者は集計対象外とした。

表 3.1.2.B 過去 1 か月の平均的な 1 週間の実労働時間数の状況(本業)

						(単位:%)
	N	平均	20時間未満	20～40時間 未満	40～60時間 未満	60時間以上
全体	17,992	(38.0時間)	12.9	54.1	30.2	2.8

(注) 就業形態を「正社員・正職員」と回答し、総労働時間が 10 時間未満の回答者は集計対象外とした。

表 3.1.2.C 過去 1 か月の平均的な 1 週間の実労働時間数の状況(副業)

(単位:%)						
	N	平均	20時間未満	20～40時間 未満	40～60時間 未満	60時間以上
全体	1,565	(9.3時間)	91.0	7.5	0.8	0.7

(注) 就業形態を「正社員・正職員」と回答し、総労働時間が 10 時間未満の回答者は集計対象外とした。

3.1.3 所定時間外労働が生じる理由

『所定時間外労働が生じる理由』を表 3.1.3 に示す。「業務量が多いため」(33.3%)、「人員が不足しているため」(29.3%)、「所定時間外労働はない」(28.9%)、「仕事の繁閑の差が大きいため」(19.4%)の順に回答割合が高かった。

表 3.1.3 所定時間外労働が生じる理由

</

(注) 複数回答を得た結果。

3.1.4 労働時間制度

『労働時間制度』を表 3.1.4 に示す。「固定勤務」(61.4%)、「フレックスタイム制」(11.7%)、「変形労働時間制」(9.3%)の順に回答割合が高かった。

表 3.1.4 労働時間制度

(単位:%)

	N	固定勤務	フレックス タイム制	変形労働 時間制	事業場外労働のみなし労働時間制	裁量労働制
全体	20,000	61.4	11.7	9.3	1.1	2.3
		交替勤務	管理監督者 等で適用 除外者	高度プロフェッショナル制度	契約で決められていない	その他
全体		4.3	1.7	0.2	3.6	4.5

3.1.5 労働時間の把握

『労働時間把握』について、表 3.1.5.A～表 3.1.5.C に示す。

『労働時間の把握方法』について、「タイムカード、IC カード」(43.9%)、「PC のログイン・ログアウト」(18.7%)、「出勤簿」(16.2%)の順に回答割合が高かった。

『労働時間把握の正確性』について、「おおむね正確である」(43.4%)、「正確である」(31.4%)、「あまり正確でない」(12.4%)の順に回答割合が高かった。

『労働時間把握不正確の理由』について、「名目上は休憩等の時間であるものの、実際にはその時間も業務に従事しているため」(25.0%)、「労働時間が記録されない形での業務が可能であるため」(20.3%)、「職場が労働時間を積極的に把握しようとしていないため」(17.1%)の順に回答割合が高かった。

表 3.1.5.A 労働時間の把握方法

(単位:%)

	N	所属長、 上司等が 目視で確認	タイムカード、 ICカード	PCのログイン・ ログアウト	出勤簿	労働者(本人) の自己申告	その他の方法	把握して いない
全体	20,000	6.0	43.9	18.7	16.2	12.4	5.2	11.1

(注) 複数回答を得た結果。

表 3.1.5.B 労働時間把握の正確性

(単位: %)

	N	まったく正確でない	あまり正確でない	おおむね正確である	正確である	わからない
全体	20,000	5.7	12.4	43.4	31.4	7.1

表 3.1.5.C 労働時間把握不正確の理由

(単位: %)

	N	自己申告できる時間外労働の時間数に限が設けられているため	上司から注意・叱責される可能性を考え、労働時間を過少に申告しているため	査定への影響を考え、労働時間を過少に申告しているため	名目上は休憩等の時間であるものの、実際にはその時間も業務に従事しているため	業務時間外に顧客・取引先から電話やメール等の連絡があるため	業務時間外に上司・同僚から電話やメール等の連絡があるため	持ち帰り残業があり、労働時間が正確に記録されないため	出張や外出（外回り）があり、労働時間が正確に記録されないため
全体	20,000	16.3	16.5	8.8	25.0	14.8	9.8	9.0	9.0

	在宅勤務等があり、労働時間が正確に記録されないため	労働時間が記録されない形態での業務が可能であるため	職場で労働時間を正確に把握できる方法が用いられていないため	職場が労働時間を積極的に把握しようとしていないため	時間外労働手当の定額払い制度（みなし残業制度）が適用されているため	その他	わからない
全体	8.2	20.3	16.8	17.1	8.8	9.5	10.2

(注) 複数回答を得た結果。

3.1.6 夜勤等の状況

『夜勤等の状況』として各時間帯に勤務を経験した頻度を表 3.1.6.A～表 3.1.6.C に示す。

各時間帯で「全くなかった」との回答割合が最も高く「19:00-22:00」(51.1%)、「22:00-5:00」(82.7%)、「5:00-8:00」(76.7%)であった。

各時間帯で何らかの頻度で「あり」と回答した割合は、『19:00-22:00』(48.9%)、『22:00-5:00』(17.3%)、『5:00-8:00』(23.3%)であった。

各時間帯で「ほぼ毎日」と回答した割合は、『19:00-22:00』(10.7%)、『22:00-5:00』(3.1%)、『5:00-8:00』(6.6%)であった。

表 3.1.6 夜勤等の状況

表 3.1.6.A 19:00-22:00

(単位:%)

	N	全くなかった	月1～ 3回程度	週1～ 2回程度	週3回 程度	ほぼ毎日
全体	20,000	51.1	18.1	11.7	8.4	10.7

表 3.1.6.B 22:00-5:00

(単位:%)

	N	全くなかった	月1～ 3回程度	週1～ 2回程度	週3回 程度	ほぼ毎日
全体	20,000	82.7	6.5	4.8	3.0	3.1

表 3.1.6.C 5:00-8:00

(単位:%)

	N	全くなかった	月1～ 3回程度	週1～ 2回程度	週3回 程度	ほぼ毎日
全体	20,000	76.7	7.2	5.6	3.9	6.6

3.1.7 不規則勤務の状況

『不規則勤務の状況』を表 3.1.7.A～表 3.1.7.D に示す。

各出来事で「なかった」との回答割合が最も高く、『日によって勤務時間帯が大きく異なる』(55.8%)、『出勤時間が直前まで決まらない』(83.0%)、『仕事で突然出勤を求められる』(77.2%)、『仕事・シフトを突然キャンセルされる』(83.4%)であった。

各出来事で少しでも「ある」との回答割合は、『日によって勤務時間帯が大きく異なる』(44.2%)、『出勤時間が直前まで決まらない』(17.0%)、『仕事で突然出勤を求められる』(22.8%)、『仕事・シフトを突然キャンセルされる』(16.6%)であった。

各出来事を「頻繁にある」と回答した割合は、『日によって勤務時間帯が大きく異なる』(8.1%)、『出勤時間が直前まで決まらない』(2.2%)、『仕事で突然出勤を求められる』(1.9%)、『仕事・シフトを突然キャンセルされる』(1.5%)であった。

表 3.1.7 不規則勤務の状況

表 3.1.7.A 日によって勤務時間帯が大きく異なる

(単位:%)

	N	なかった	少しある	時々ある	頻繁にある
全体	20,000	55.8	23.2	12.9	8.1

表 3.1.7.B 出勤時間が直前まで決まらない

(単位:%)

	N	なかった	少しある	時々ある	頻繁にある
全体	20,000	83.0	9.7	5.1	2.2

表 3.1.7.C 仕事で突然出勤を求められる

(単位:%)

	N	なかった	少しある	時々ある	頻繁にある
全体	20,000	77.2	15.0	5.8	1.9

表 3.1.7.D 仕事・シフトを突然キャンセルされる

(単位:%)

	N	なかった	少しある	時々ある	頻繁にある
全体	20,000	83.4	10.5	4.7	1.5

3.1.8 休日勤務、連続勤務の状況

過去 1 か月の『休日勤務の状況』を表 3.1.8.A、『連続勤務の状況』を表 3.1.8.B に示す。

『休日勤務の状況』は、「全くなかった」(75.1%)、「月 1～2 回」(18.4%)、「月 4 回以上」(3.8%)の順に回答割合が高かった。

『連続勤務の状況』は、「6 日以内」(83.5%)、「7～12 日」(9.5%)、「13～24 日」(5.0%)、「25 日以上」(2.0%)の順に回答割合が高かった。

表 3.1.8.A 休日勤務の状況

(単位:%)					
	N	全くなかった	月1～2回	月3回	月4回以上
全体	20,000	75.1	18.4	2.7	3.8

表 3.1.8.B 連続勤務の状況(Q19)

	N	6日以内	7～12日	13～24日	25日以上
全体	20,000	83.5	9.5	5.0	2.0

3.1.9 年次有給休暇の付与・取得日数

雇用関係を持つ者に絞りこみ、『年次有給休暇の付与・取得日数』を表 3.1.9.A～表 3.1.9.C に示す。

『付与日数』は、「20 日」(40.5%)、「1～10 日」(28.7%)、「11～19 日」(16.0%)、「0 日」(14.9%)の順に回答割合が高く、「10 日以上」の回答割合は 73.5%、平均値は 12.6 日であった。

『取得日数』は、「1～10 日」(53.6%)、「0 日」(18.4%)、「11～19 日」(17.8%)、「20 日以上」(10.3%)の順に回答割合が高く、「10 日以上」の回答割合は 42.4%、平均値は 8.1 日であった。

『年次有給休暇が 10 日以上付与された労働者における取得日数』は、「1～10 日」(58.2%)、「11～19 日」(23.6%)、「20 日以上」(13.4%)、「0 日」(4.9%)の順に回答割合が高く、「5 日以上」の回答割合は 87.2%、平均値は 10.2 日であった。

表 3.1.9.A 年次有給休暇の付与日数

(単位:%)						
	N	平均	0日	1～10日	11～19日	20日
全体	17,237	(12.6日)		14.9	28.7	16.0
						40.5
						(再掲)10日以上
						73.5

(注) 本設問は『就業形態』に「正社員・正職員」、「契約社員・嘱託」、「パート・アルバイト」、「臨時・日雇社員」、「労働者派遣事業所の派遣社員」と回答した者のみのデータを集計した。

表 3.1.9.B 年次有給休暇の取得日数

(単位:%)								
	N	平均	0日	1～10日	11～19日	20日以上	(再掲)10日以上	
全体	17,237	(8.1日)		18.4	53.6	17.8	10.3	42.4

(注) 本設問は『就業形態』に「正社員・正職員」、「契約社員・嘱託」、「パート・アルバイト」、「臨時・日雇社員」、「労働者派遣事業所の派遣社員」と回答した者のみのデータを集計した。

表 3.1.9.C 年次有給休暇の取得日数(10 日以上付与者)

(単位:%)								
	N	平均	0日	1～10日	11～19日	20日以上	(再掲)5日以上	
全体	12,660 (10.2日)			4.9	58.2	23.6	13.4	87.2

(注) 本設問は『就業形態』に「正社員・正職員」、「契約社員・嘱託」、「パート・アルバイト」、「臨時・日雇社員」、「労働者派遣事業所の派遣社員」と回答した者のうち、『年次有給休暇の付与日数』に 10 日以上と回答した者のみのデータを集計した。

3.1.10 勤務間インターバル制度の有無

勤務間インターバル制度の有無を表 3.1.10 に示す。回答割合は、「ない」(68.1%)、「ある」(14.8%)、「わからない」(17.1%)であり、「ない」の回答割合が高かった。

表 3.1.10 勤務間インターバル制度の有無の状況

(単位:%)					
	N	ある	ない	わからない	
全体	20,000		14.8	68.1	17.1

3.1.11 現在の満足度

『現在の満足度』を表 3.1.11.A～表 3.1.11.Iに示す。

『仕事の内容・やりがい』は、「不満」・「やや不満」が 20.1%、「やや満足」・「満足」が 43.4%であった。

『賃金・福利厚生』は、「不満」・「やや不満」が 34.6%、「やや満足」・「満足」が 29.5%であった。

『労働時間・休日等の労働条件』は、「不満」・「やや不満」が 20.4%、「やや満足」・「満足」が 41.8%であった。

『人事評価・処遇のあり方』は、「不満」・「やや不満」が 28.9%、「やや満足」・「満足」が 24.4%であった。

『職場の環境(照明、空調、騒音等)』は、「不満」・「やや不満」が 21.5%、「やや満足」・「満足」が 37.7%であった。

『職場での指揮命令系統の明確性』は、「不満」・「やや不満」が 25.4%、「やや満足」・「満足」が 29.9%であった。

『教育訓練・能力開発のあり方』は、「不満」・「やや不満」が 26.0%、「やや満足」・「満足」が 23.2%であった。

『雇用の安定性』は、「不満」・「やや不満」が 18.4%、「やや満足」・「満足」が 39.3%であった。

『職業生活全体』は、「不満」・「やや不満」が 20.2%、「やや満足」・「満足」が 35.0%であった。

以上のように、項目により違いがみられ、「不満」・「やや不満」の割合は『賃金・福利厚生』、『人事評価・処遇のあり方』、『教育訓練・能力開発のあり方』で高く、一方、「やや満足」・「満足」の割合は『仕事の内容・やりがい』、『労働時間・休日等の労働条件』で高い。

表 3.1.11 現在の満足度

表 3.1.11.A 仕事の内容・やりがい

(単位:%)						
	N	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
全体	20,000	8.4	11.7	36.5	30.2	13.2

表 3.1.11.B 賃金・福利厚生

(単位:%)						
	N	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
全体	20,000	14.2	20.4	35.9	21.3	8.2

表 3.1.11.C 労働時間・休日等の労働条件

(単位:%)						
	N	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
全体	20,000	7.8	12.6	37.8	26.9	14.9

表 3.1.11.D 人事評価・処遇のあり方

(単位:%)						
	N	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
全体	20,000	12.5	16.4	46.7	16.9	7.5

表 3.1.11.E 職場の環境(照明、空調、騒音等)

(単位:%)						
	N	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
全体	20,000	7.8	13.7	40.8	25.5	12.2

表 3.1.11.F 職場での指揮命令系統の明確性

(単位:%)						
	N	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
全体	20,000	10.0	15.4	44.6	20.7	9.2

表 3.1.11.G 教育訓練・能力開発のあり方

(単位:%)						
	N	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
全体	20,000	9.9	16.1	50.8	16.1	7.1

表 3.1.11.H 雇用の安定性

(単位:%)						
	N	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
全体	20,000	7.4	11.0	42.3	26.4	12.9

表 3.1.11.I 職業生活全体

(単位:%)						
	N	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
全体	20,000	7.8	12.4	44.9	25.3	9.7

3.1.12 仕事のストレス状況

ストレスチェックにおいて使用の推奨される職業性ストレス簡易調査の調査項目を用いて、各『仕事のストレス状況』を表 3.1.12.A～表 3.1.12.I に示した。

「高ストレス」の割合は、「自覚的身体負荷」(15.1%)、「働きがい」(10.5%)、「職場環境ストレス」(8.4%)、「技能の活用度」(8.0%)、「仕事の質の要求度」(7.9%)、「仕事の適正度」(7.4%)、「仕事の量の要求度」(6.8%)、「仕事の裁量度」(5.8%)、「対人関係ストレス」(5.4%)の順に高かった。

表 3.1.12 仕事のストレス状況

表 3.1.12.A 仕事の要求度(量)

(単位:%)			
	N	高ストレス	問題無し
全体	20,000	6.8	93.2

表 3.1.12.B 仕事の要求度(質)

(単位:%)			
	N	高ストレス	問題無し
全体	20,000	7.9	92.1

表 3.1.12.C 自覚的身体負荷

(単位:%)			
	N	高ストレス	問題無し
全体	20,000	15.1	84.9

表 3.1.12.D 仕事の裁量度

(単位:%)			
	N	高ストレス	問題無し
全体	20,000	5.8	94.2

表 3.1.12.E 技能の活用度

(単位:%)			
	N	高ストレス	問題無し
全体	20,000	8.0	92.0

表 3.1.12.F 対人関係ストレス

(単位:%)			
	N	高ストレス	問題無し
全体	20,000	5.4	94.6

表 3.1.12.G 職場環境ストレス

(単位:%)			
	N	高ストレス	問題無し
全体	20,000	8.4	91.6

表 3.1.12.H 仕事の適正度

(単位:%)			
	N	高ストレス	問題無し
全体	20,000	7.4	92.7

表 3.1.12.I 働きがい

(単位:%)			
	N	高ストレス	問題無し
全体	20,000	10.5	89.5

3.1.13 サポートの状況

ストレスチェックにおいて使用の推奨される職業性ストレス簡易調査の調査項目を用いて、上司・同僚・家族等による『サポート状況』を表 3.1.13.A～表 3.1.13.Cに示した。

サポート状況が「不良」である割合は、「家族友人」(24.9%)、「同僚」(22.7%)、「上司」(17.8%)の順に高かった。

表 3.1.13 サポートの状況

表 3.1.13.A 上司からのサポート

(単位:%)			
	N	不良	問題無し
全体	20,000	17.8	82.2

表 3.1.13.B 同僚からのサポート

(単位:%)			
	N	不良	問題無し
全体	20,000	22.7	77.4

表 3.1.13.C 家族友人からのサポート

(単位:%)			
	N	不良	問題無し
全体	20,000	24.9	75.1

3.1.14 ケガや病気による休業等の状況

『ケガによる休業』、『病気による休業』、『病気やけがに仕事の出来への影響』について、表 3.1.14.A～表 3.1.14.C に示した。

『ケガによる休業』は、「ない」(94.4%)、「4 日未満」(3.4%)、「4 日以上」(2.2%)の順に高かった。

『病気による休業』は、「0 日」(63.2%)、「1～10 日」(33.1%)、「21 日以上」(2.1%)、「11～20 日」(1.6%)の順に高かった。

『病気やけがに仕事の出来への影響』は「病気やけががないときに発揮できる仕事の出来を 100%として過去 4 週間の自身の仕事を評価してください。」との質問によって回答を得た。「100%」(37.6%)、「80～89%」(23.5%)、「90～99%」(15.2%)の順に高く、「50%未満の割合」は 4.8%であった。

表 3.1.14.A ケガによる休業

(単位:%)				
	N	ない	4日未満	4日以上
全体	20,000	94.4	3.4	2.2

表 3.1.14.B 病気による休業(Q27)

(単位:%)					
	N	0日	1～10日	11～20日	21日以上
全体	20,000	63.2	33.1	1.6	2.1

表 3.1.14.C 病気やけがに仕事の出来への影響(Q28)

(単位:%)							
	N	0～9%	10～19%	20～29%	30～39%	40～49%	50～59%
全体	20,000	1.5	0.8	0.9	0.8	0.7	6.4
		60～69%	70～79%	80～89%	90～99%	100%	(再掲) 50%未満
全体		4.3	8.3	23.5	15.2	37.6	4.8

3.1.15 ワーク・エンゲイジメント、心理的安全性、抑うつ・不安傾向(K6)、主観的健康感、主観的幸福感

『ワーク・エンゲイジメント』を測定するために、本調査では「3 項目版 Utrecht Work Engagement Scale(UWES-3)^{1,2)}」を用いた。UWES-3 は 3 項目(例:「仕事をしていると、活力がみなぎるように感じる」)で構成される尺度であり、各項目について「0: 全くない」～「6: いつも感じる」の 7 段階で回答を求めた。この得点が高いほど『ワーク・エンゲイジメント』が高い状態であることを意味し、本調査では 0～6 点を「低い」、7～11 点を「中程度」、12～18 点を「高い」とみなして集計した。『ワーク・エンゲイジメント』の合計得点を算出した結果を表 3.1.15.A に示す。『ワーク・エンゲイジメント』は、「0～6 点(低い)」(30.2%)、「7～11 点(中程度)」(61.0%)、「12～18 点(高い)」(8.8%)の順に回答割合が高く、平均値は 8.2 点であった。

『心理的安全性』を測定するために、本調査では「心理的安全性尺度日本語版 (Japanese version of the psychological safety scale)^{3,4)}」を用いた。心理的安全性尺度は 5 項目(例:「私の職場では、自分の仕事についての本音を話すこと

¹ Schaufeli WB, Shimazu A, Hakanen J, Salanova M, De Witte H. An ultra-short measure for work engagement: The UWES-3 validation across five countries. *Eur J Psychol Assess.* 2019; 35: 577-591.

² Shimazu A, Schaufeli WB, Kosugi S. et al. Work engagement in Japan: Validation of the Japanese version of Utrecht Work Engagement Scale. *Appl Psychol: Int Rev.* 2008; 57: 510-523.

³ Liang J, Farh CIC, Farh JL. Psychological antecedents of promotive and prohibitive voice: a two-wave examination. *Acad Manage J.* 2012; 55: 71-92.

⁴ Ochiai Y, Otsuka Y. Reliability and validity of the Japanese version of the psychological safety scale for workers. *Ind Health.* 2021; 60: 436-446.

ができる」)で構成される尺度であり、各項目について「1: 全く当てはまらない」～「5: 非常によく当てはまる」の 5 段階で回答を求めた。この得点が高いほど『心理的安全性』が高い状態であることを意味し、本調査では 5～10 点を「低い」、11～15 点を「やや低い」、16～20 点を「やや高い」、21～25 点を「高い」とみなして集計した。『心理的安全性』の合計得点を算出した結果を表 3.1.15.B に示す。『心理的安全性』は、「11～15 点(やや低い)」(46.5%)、「16～20 点(やや高い)」(32.2%)、「5～10 点(低い)」(11.6%)の順に回答割合が高く、平均値は 15.3 点であった。

『抑うつ・不安傾向』を測定するために、本調査では「日本語版 K6^{5,6}」を用いた。K6 は 6 項目(例:「神経過敏に感じましたか」)で構成される尺度であり、各項目について「0: 全くない」～「4: いつも」の 5 段階で回答を求めた。この得点が高いほど『抑うつ・不安傾向』が高い状態であることを意味し、5～9 点で「抑うつ・不安傾向あり」、10～12 点で「抑うつ・不安傾向あり」、13 点以上で「重度の抑うつ・不安障害疑い」とされる。『抑うつ・不安傾向(K6)』の合計得点を算出した結果を表 3.1.15.C に示す。『抑うつ・不安傾向(K6)』は、「0～4 点(抑うつ・不安傾向なし)」(50.3%)、「5～9 点(抑うつ・不安傾向あり)」(20.6%)、「10～12 点(抑うつ・不安障害疑い)」(15.2%)の順に回答割合が高く、「13 点以上(重度の抑うつ・不安障害疑い)」の回答割合は 13.8%、平均値は 6.0 点であった。

『主観的健康感』を測定するために、本調査では 1 項目の質問(「あなたの現在の健康状態はいかがですか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。」)を用い、「1: よくない」～「5: よい」の 5 段階で回答を求めた。『主観的健康感』を表 3.1.15.D に示す。『主観的健康感』は、「ふつう」(49.6%)、「まあよい」(21.2%)、「あまりよくない」(18.0%)の順に回答割合が高く、「よくない」・「あまりよくない」と回答した者が 21.6%、「まあよい」・「よい」と回答した者が 28.8%であり、よい傾向の者が多かった。

⁵ Kessler D, Bennewith O, Lewis G, Sharp D. Detection of depression and anxiety in primary care: follow up study. *BMJ*. 2002; 325: 1016-1017.

⁶ Furukawa TA, Kawakami N, Saitoh M, et al. The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. *Int J Methods Psychiatr Res*. 2008; 17: 152-158.

『主観的幸福感』を測定するために、本調査では1項目の質問(「あなたはどの程度幸せですか。」「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。)」を用い、「0: とても不幸」～「10: とても幸せ」の11段階で回答を求めた。この得点が高いほど『主観的幸福感』が高い状態であることを意味する。『主観的幸福感』を表3.1.15.Eに示す。『主観的幸福感』は、「8点」(19.6%)、「7点」(18.6%)、「5点」(15.9%)の順に回答割合が高く、平均値は6.2点であった。

表 3.1.15.A ワーク・エンゲイジメントの状況

		(単位:%)		
	N	平均	0～6点 (低い)	7～11点 (中程度)
全体	20,000	(8.2点)	30.2	61.0

表 3.1.15.B 心理的安全性の状況

		(単位:%)			
	N	平均	5～10点 (低い)	11～15点 (やや低い)	16～20点 (やや高い)
全体	20,000	(15.3点)	11.6	46.5	32.2

表 3.1.15.C 抑うつ・不安傾向(K6)の状況

		(単位:%)			
	N	平均	0～4点 (抑うつ・不安 傾向なし)	5～9点 (抑うつ・不安 傾向あり)	10～12点 (抑うつ・不安 障害疑い)
全体	20,000	(6.0点)	50.3	20.6	15.2

表 3.1.15.D 主観的健康感の状況

		(単位:%)				
	N	よくない	あまりよくない	ふつう	まあよい	よい
全体	20,000	3.6	18.0	49.6	21.2	7.6

表 3.1.15.E 主観的幸福感の状況

(単位:%)												
N	平均	0点 (とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)
全体	20,000 (6.2点)	2.5	1.5	3.2	5.5	5.3	15.9	15.2	18.6	19.6	7.5	5.4

3.1.16 睡眠の状況、疲労の回復状況

『睡眠の状況』を表 3.1.16.A～表 3.1.16.H、「疲労の回復状況」を表 3.1.16.Iに示す。

『仕事のある日の睡眠時間』は、「6 時間以上 7 時間未満」(33.5%)の回答割合が最も高く、6 時間未満と回答した者が 45.7%であった。

『仕事のない日の睡眠時間』は、「6 時間以上 7 時間未満」(31.6%)の回答割合が最も高く、6 時間未満と回答した者が 23.9%であった。

『仕事のある日の理想の睡眠時間』は、「7 時間以上 8 時間未満」(40.9%)の回答割合が最も高かった。

『仕事のない日の理想の睡眠時間』は、「7 時間以上 8 時間未満」(42.6%)の回答割合が最も高かった。

『理想の睡眠時間との乖離(仕事のある日)』は、「1 時間の不足」(37.5%)の回答割合が最も高く、「理想時間以上」の割合は 36.8%であった。

『理想の睡眠時間との乖離(仕事のない日)』は、「理想時間以上」の割合は 56.6%であった。

『睡眠休息感』を測定するために、本調査では 1 項目の質問(「過去 1 か月において、ふだんの睡眠で休養が取れていると思いますか⁷⁾」)を用い、「1: 全く取れていない」～「4: 充分取れている」の 4 段階で回答を求めた。『睡眠休息感』を表 3.1.16.Gに示す。睡眠休息感は、「まあ取れている」(44.0%)、「あまり取れていない」

⁷⁾ 栗山健一. 睡眠時間指標を補填し国民の健康増進に資する「睡眠の質」指標の探索. 令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)「健康づくりのための睡眠指針 2014」のブラッシュアップ・アップデートを目指した「睡眠の質」の評価及び向上手法確立のための研究－総括研究報告書. 2020: 1-15.

(37.9%)、「全く取れていない」(10.5%)の順に回答割合が高く、「全く取れていない」・「あまり取れていない」と回答した者が48.4%、「まあ取れている」・「充分取れている」と回答した者が51.6%であった。

『睡眠の質』を測定するために、本調査では1項目の質問(「過去1か月において、ご自分の睡眠の質を全体としてどのように評価しますか⁷⁾」)を用い、「1: 非常に悪い」～「4: 非常によい」の4段階で回答を求めた。『睡眠の質』を表3.1.16.Hに示す。『睡眠の質』は、「かなりよい」(44.3%)、「かなり悪い」(42.8%)、「非常に悪い」(8.9%)の順に回答割合が高く、「非常に悪い」・「かなり悪い」と回答した者51.7%、「かなりよい」・「非常によい」と回答した者が48.3%であった。

『疲労の回復状況』は、「翌朝に前日の疲労を持ちこすことがときどきある」(43.2%)の回答割合が最も高かった。

表 3.1.16 睡眠の状況

表 3.1.16.A 仕事のある日の睡眠時間

(単位:%)

	N	5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間以上 7時間未満	7時間以上 8時間未満	8時間以上 9時間未満	9時間以上
全体	20,000	13.0	32.7	33.5	16.4	3.5	0.9

表 3.1.16.B 仕事のない日の睡眠時間

(単位:%)

	N	5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間以上 7時間未満	7時間以上 8時間未満	8時間以上 9時間未満	9時間以上
全体	20,000	5.8	18.1	31.6	28.7	11	4.8

表 3.1.16.C 仕事のある日の理想の睡眠時間

(単位:%)

	N	5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間以上 7時間未満	7時間以上 8時間未満	8時間以上 9時間未満	9時間以上
全体	20,000	2.9	9.2	30.2	40.9	13.1	3.7

表 3.1.16.D 仕事のない日の理想の睡眠時間

(単位:%)							
	N	5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間以上 7時間未満	7時間以上 8時間未満	8時間以上 9時間未満	9時間以上
全体	20,000	2.3	6.7	23.0	42.6	18.8	6.5

表 3.1.16.E 理想の睡眠時間との乖離(仕事のある日)

(単位:%)							
	N	5時間の 不足	4時間の 不足	3時間の 不足	2時間の 不足	1時間の 不足	理想時間 以上
全体	20,000	0.4	1.5	5.1	18.7	37.5	36.8

表 3.1.16.F 理想の睡眠時間との乖離(仕事のない日)

(単位:%)							
	N	5時間の 不足	4時間の 不足	3時間の 不足	2時間の 不足	1時間の 不足	理想時間 以上
全体	20,000	0.2	0.8	2.7	9.7	30.0	56.6

表 3.1.16.G 睡眠休息感

(単位:%)					
	N	全く取れて いない	あまり取れて いない	まあ取れて いる	充分取れて いる
全体	20,000	10.5	37.9	44.0	7.6

表 3.1.16.H 睡眠の質

(単位:%)					
	N	非常に悪い	かなり悪い	かなりよい	非常によい
全体	20,000	8.9	42.8	44.3	4.0

表 3.1.16.I 疲労の回復状況

(単位:%)

	N	一晩睡眠をと ればだいたい疲 労は回復する	翌朝に前日の 疲労を持ちこ すことがときど きある	翌朝に前日の 疲労を持ちこ すことがよくある	翌朝に前日の 疲労をいつも 持ちこしている
全体	20,000	30.1	43.2	17.3	9.4

3.1.17 ハラスメントの状況、ハラスメントへの取り組み

『ハラスメントの状況』を表 3.1.17.A、表 3.1.17.B、表 3.1.17.C に示す。パワーハラスメントの『暴行・傷害(身体的な攻撃)』等の 6 類型の行為とセクシュアルハラスメント行為とその他のハラスメント類似行為の経験を行行為者別に尋ねた。事業場等への申告を行っていたり裁判の判決等で認定を受けたもの等の基準は設けておらず、各行為の例示を読み、自身が該当する行為を過去 1 年以内に経験したと主観的に考えるかの回答を求めた。回答者によってハラスメント行為との認識の基準にずれが生じており、実際の発生割合とは異なるという限界点があるため、結果の解釈には注意が必要である。

顧客・取引先からのその他の行為を除く経験についての回答を『カスタマーハラスメント』と定義し、セクシャルハラスメント行為の経験についての回答を『セクシャルハラスメント』と定義し、パワーハラスメントの『暴行・傷害(身体的な攻撃)』等の 6 類型を顧客以外から経験についての回答を『パワーハラスメント』と定義し、その他のハラスメント類似行為についての回答は『その他』と定義した。複数回答を許容し、各経験割合は調査回答者 20,000 名を母数として導出した。

各ハラスメントの経験率は、『パワーハラスメント』(21.0%)、『セクシャルハラスメント』(8.0%)、『その他』(6.3%)、『カスタマーハラスメント』(6.1%)の順で経験回答割合が高く、何れか一つ以上経験を回答した者は 24.1%であった。

『暴行・傷害(身体的な攻撃)』は、「受けたことがある」と回答した者が 6.4%であり、ハラスメント行為を行った者は「上司(役員以外)」(1.6%)の回答割合が最も高かった。

『脅迫・名誉毀損・侮辱・ひどい暴言(精神的な攻撃)』は、「受けたことがある」と回答した者が 15.8%であり、ハラスメント行為を行った者は「上司(役員以外)」(6.0%)の回答割合が最も高かった。

『隔離・仲間外し・無視(人間関係からの切り離し)』は、「受けたことがある」と回答した者が 11.0%であり、ハラスメント行為を行った者は「同僚」(4.5%)の回答割合が最も高かった。

『業務上明らかに不要なこと、遂行不可能なことの強制、仕事の妨害(過大な要求)』は、「受けたことがある」と回答した者が 11.7%であり、ハラスメント行為を行った者は「上司(役員以外)」(4.5%)の回答割合が最も高かった。

『業務上の合理性なく、能力や経験とかけ離れた程度の低い仕事を命じることや仕事を与えないこと(過小な要求)』は、「受けたことがある」と回答した者が 9.0%であり、ハラスメント行為を行った者は「上司(役員以外)」(3.3%)の回答割合が最も高かった。

『私的なことに過度に立ち入ること(個の侵害)』は、「受けたことがある」と回答した者が 10.5%であり、ハラスメント行為を行った者は「上司(役員以外)」(3.4%)の回答割合が最も高かった。

『セクシュアルハラスメント(セクハラ)』は、「受けたことがある」と回答した者が 8.0%であり、ハラスメント行為を行った者は「同僚」(2.1%)の回答割合が最も高かった。

『その他』は、「受けたことがある」と回答した者が 6.3%であり、ハラスメント行為を行った者は「同僚」(1.7%)の回答割合が最も高かった。

以上のように、受けたハラスメントの類型では『脅迫・名誉毀損・侮辱・ひどい暴言(精神的な攻撃)』の経験割合が最も高かった。ハラスメントの行為者は『隔離・仲間外し・無視(人間関係からの切り離し)』『セクシュアルハラスメント(セクハラ)』『その他』においては「同僚」からとの回答割合が最も高く、それ以外の行為は「上司(役員以外)」の回答割合が最も高かった。

『ハラスメントに関する取り組み』は、「特に取り組んでいない」(36.7%)の割合が最も高く、取り組みを回答した者においては「相談窓口の設置」(25.4%)、「従業員

への研修の実施」(24.8%)、「ハラスメントをなくす旨の方針の明確化やトップメッセージの発信」(21.8%)の順に回答割合が高かった。

表 3.1.17.A ハラスメントの経験割合

							(単位:%)
	N	パワー ハラスメント	カスタマー ハラスメント	セクシャル ハラスメント	その他ハラスメ ント類似行為	ハラスメント 経験無し	(再掲)何れ かのハラスメン ト経験
全体	20,000	21.0	6.1	8.0	6.3	75.9	24.1

(注) 複数回答を得た結果。

表 3.1.17.B 各種ハラスメントの状況

表 3.1.17.B.1 暴行・傷害(身体的な攻撃)

									(単位:%)
	N	会社の 幹部 (役員)	上司 (役員 以外)	部下	同僚	派遣元・ 出向元の 従業員・ 役員	顧客・ 取引先	その他	受けたこと はない
全体	20,000	0.8	1.6	0.8	1.4	0.9	1.2	0.6	93.6

(注) 複数回答を得た結果。

表 3.1.17.B.2 脅迫・名誉毀損・侮辱・ひどい暴言(精神的な攻撃)

									(単位:%)
	N	会社の 幹部 (役員)	上司 (役員 以外)	部下	同僚	派遣元・ 出向元の 従業員・ 役員	顧客・ 取引先	その他	受けたこと はない
全体	20,000	2.7	6.0	1.6	4.0	1.3	2.8	0.9	84.2

(注) 複数回答を得た結果。

表 3.1.17.B.3 隔離・仲間外し・無視(人間関係からの切り離し)

(単位:%)

	N	会社の 幹部 (役員)	上司 (役員 以外)	部下	同僚	派遣元・ 出向元の 従業員・ 役員	顧客・ 取引先	その他	受けたこと はない
全体	20,000	1.3	3.3	1.6	4.5	1.1	0.8	0.8	89.0

(注) 複数回答を得た結果。

表 3.1.17.B.4 業務上明らかに不要なこと、遂行不可能なことの強制、仕事の妨害(過大な要求)

(単位:%)

	N	会社の 幹部 (役員)	上司 (役員 以外)	部下	同僚	派遣元・ 出向元の 従業員・ 役員	顧客・ 取引先	その他	受けたこと はない
全体	20,000	2.0	4.5	1.2	2.8	1.1	1.7	0.8	88.3

(注) 複数回答を得た結果。

表 3.1.17.B.5 業務上の合理性なく、能力や経験とかけ離れた程度の低い仕事を命じることや仕事を与えないこと(過小な要求)

(単位:%)

	N	会社の 幹部 (役員)	上司 (役員 以外)	部下	同僚	派遣元・ 出向元の 従業員・ 役員	顧客・ 取引先	その他	受けたこと はない
全体	20,000	1.4	3.3	1.0	2.0	1.3	1.0	0.7	91.0

(注) 複数回答を得た結果。

表 3.1.17.B.6 私的なことに過度に立ち入ること(個の侵害)

(単位:%)

	N	会社の 幹部 (役員)	上司 (役員 以外)	部下	同僚	派遣元・ 出向元の 従業員・ 役員	顧客・ 取引先	その他	受けたこと はない
全体	20,000	1.5	3.4	1.2	2.9	1.3	1.3	0.9	89.5

(注) 複数回答を得た結果。

表 3.1.17.B.7 セクシュアルハラスメント(セクハラ)

(単位:%)

	N	会社の 幹部 (役員)	上司 (役員 以外)	部下	同僚	派遣元・ 出向元の 従業員・ 役員	顧客・ 取引先	その他	受けたこと はない
全体	20,000	1.0	1.9	1.0	2.1	1.1	1.3	0.8	92.0

(注) 複数回答を得た結果。

表 3.1.17.B.8 その他

(単位:%)

	N	会社の 幹部 (役員)	上司 (役員 以外)	部下	同僚	派遣元・ 出向元の 従業員・ 役員	顧客・ 取引先	その他	受けたこと はない
全体	20,000	0.9	1.4	0.9	1.7	1.0	0.6	0.6	93.7

(注) 複数回答を得た結果。

表 3.1.17.C ハラスメントに関する取り組みの状況

(単位:%)

	N	ハラスメントを なくす旨の方 針の明確化 やトップメッセ ジの発信	ハラスメント 行為者に対 する処罰等に 関する就業規 則等での規定	従業員への 研修の実施	管理職への 研修の実施	相談窓口の 設置	相談者等の プライバシー 保護のための 措置の実施 と周知
全体	20,000	21.8	20.0	24.8	18.4	25.4	11.8

	相談したこと 等を理由として 不利益取扱い をされない旨の 定めと周知・ 啓発	産業保健ス タッフ(産業 医、保健師、 看護師等) との連携	その他	特に取り組ん でいない	わからない
全体	10.7	10.8	0.7	36.7	17.3

(注) 複数回答を得た結果。

3.1.18 既往歴、健康診断の実施状況、ストレスチェックの状況、時間外・休日労働時間が月 80 時間超の労働者に対しての医師による面接指導の状況

『既往歴』、『健康診断の実施状況』、『ストレスチェックの受検状況』、『過去 1 年間における時間外・休日労働時間が月 80 時間超の労働者に対しての医師による面接指導の状況』を表 3.1.18.A～表 3.1.18.D に示す。

『既往歴』は、「病気等はない」(52.2%)・「上記以外の病気」(9.7%)を除くと、「高血圧症」(13.5%)、「高脂血症」(7.4%)、「肥満」(6.2%)の順に回答割合が高かった。

『健康診断の実施状況』は、「受けた」が 73.1%、「受けていない」が 24.2%、「覚えていない・分からない」が 2.8%であり、「受けた」の回答割合が高かった。

『ストレスチェックの受検状況』は、「受けていない」が 52.6%、「受けた」が 43.5%、「覚えていない・分からない」が 3.9%であり、「受けていない」の回答割合が高かった。

『医師による面接指導状況』は、「指示を受けなかったし、面接指導も受けなかった」が 75.6%、「指示を受けたかどうかはわからない、覚えていない」が 14.3%、「指示を受けたが、面接指導は受けなかった」が 5.4%であった。『医師による面接指導の指示』を受けた割合は全体の 8.6%であった。「指示を受けたし、面接指導も受けた」の回答割合は全体の 3.2%であった。

表 3.1.18.A 既往歴の状況

(単位:%)											
	N	高血圧症	糖尿病	高脂血症	肥満	痛風・ 高尿酸血症	脳卒中	心臓病	不整脈	肝臓病	腎臓病
全体	20,000	13.5	4.6	7.4	6.2	2.7	0.4	1.0	2.0	0.8	0.6
		十二指腸潰瘍	胃潰瘍	がん	ぜんそく (気管支喘息)	うつ病	不眠症	メタボリック シンドローム	上記以外の 病気	病気等 はない	回答し ない
全体		0.4	0.5	1.2	2.5	3.6	2.9	2.6	9.7	52.2	8.8

(注) 複数回答を得た結果。

表 3.1.18.B 健康診断の実施状況

(単位:%)				
	N	受けた	受けていない	覚えていない・ 分からない
全体	20,000	73.1	24.2	2.8

表 3.1.18.C ストレスチェックの受検状況

(単位:%)						
	N	受けた	受けていない	覚えていない・ 分からない	(再掲) 50人 未満で受けた	(再掲) 50人 以上で受けた
全体	20,000	43.5	52.6	3.9	26.4	69.9

表 3.1.18.D 時間外・休日労働時間が月 80 時間超の労働者に対しての医師による面接指導の状況

(単位:%)						
	N	指示を受けた し、面接指導 も受けた	指示を受けた が、面接指導 は受けなかった	指示を受けな かったが、面接 指導を受けさ せてもらえるよ う申し出た	指示を受けな かったし、面接 指導も受けな かった	指示を受けた かどうかはわか らない、覚えて いない
全体	20,000	3.2	5.4	1.6	75.6	14.3

3.1.19 転職希望

『転職希望』を表 3.1.19 に示す。

『転職希望』は、「今の職場で今後も働きたい」が 38.8%、「機会があれば転職したい」が 38.3%、「わからない」が 22.8%であり、「今の職場で今後も働きたい」と回答した者の割合が高かった。

表 3.1.19 転職希望の状況

(単位:%)				
	N	今の職場で今 後も働きたい	機会があれば 転職したい	わからない
全体	20,000	38.8	38.3	22.8

3.1.20 テレワークの状況

『テレワークの状況』を表 3.1.20 に示す。

『テレワークの状況』は、「自分はテレワークをしていない」(79.7%)、「週 2～3 日程度」(5.7%)、「毎日」(4.3%)の順に回答割合が高かった。

表 3.1.20 テレワークの状況

(単位:%)							
	N	毎日	週4日程度	週2～3日程度	週1日程度	月1～2日程度	自分はテレワークをしていない
全体	20,000	4.3	2.6	5.7	4.2	3.5	79.7

3.1.21 年間収入

『年間収入』を表 3.1.21.A、表 3.1.21.B に示す。

『年間収入(個人)』は、「300～399 万円」(18.2%)、「200～299 万円」(15.4%)、「400～499 万円」(14.1%)の順に回答割合が高かった。

『年間収入(世帯)』は、「300～399 万円」(11.2%)、「400～499 万円」(10.8%)、「500～599 万円」(9.6%)の順に回答割合が高かった。

表 3.1.21.A 年間収入(個人)

(単位:%)									
	N	100万円未満	100～199万円	200～299万円	300～399万円	400～499万円	500～599万円	600～699万円	700～799万円
全体	20,000	3.8	6.8	15.4	18.2	14.1	9.7	5.6	4.2
		800～899万円	900～999万円	1000～1249万円	1250～1499万円	1500～1999万円	2000万円以上	回答しない	
全体		2.7	2	2.4	1	0.5	0.6	13.1	

表 3.1.21.B 年間収入(世帯)

		(単位:%)							
	N	100万円 未満	100～ 199万円	200～ 299万円	300～ 399万円	400～ 499万円	500～ 599万円	600～ 699万円	700～ 799万円
全体	20,000	1.4	2.5	7.8	11.2	10.8	9.6	7.7	7.3
		800～ 899万円	900～ 999万円	1000～ 1249万円	1250～ 1499万円	1500～ 1999万円	2000万円 以上	回答しない	
全体		5.6	5.3	6.2	3.3	1.9	1.4	17.8	

3.1.22 各種習慣

『運動習慣』、『飲酒習慣』、『喫煙習慣』、『ギャンブルの習慣』を表 3.1.22.A～表 3.1.22.D に示す。

『運動習慣』は、「ある」と回答した者は 40.7%であった。

『飲酒習慣』は、「飲む」と回答した者は 60.6%であり、「ほぼ毎日」との回答は 17.3%であった。

『喫煙習慣』は、「吸っている」と回答した者は 22.8%であった。

『ギャンブルの習慣』は、「全然やらない」と回答した者は 71.0%であった。

表 3.1.22.A 運動習慣

		(単位:%)	
	N	はい	いいえ
全体	20,000	40.7	59.3

表 3.1.22.B 飲酒習慣

		(単位:%)				
	N	飲まない	月に1～3日 程度	週1～2日 程度	週3～5日 程度	ほぼ毎日
全体	20,000	39.4	17.7	16.0	9.5	17.3

表 3.1.22.C 喫煙習慣

(単位:%)				
	N	吸わない	やめた(過去 に吸っていた)	吸っている
全体	20,000	59.8	17.4	22.8

表 3.1.22.D ギャンブルの習慣

(単位:%)				
	N	全然やらない	現在はやってい ない(過去に やっていた)	やっている
全体	20,000	71.0	15.5	13.5

3.1.23 最終学歴、配偶者の有無、世帯人数

『最終学歴』、『配偶者の有無』、『世帯人数』を表 3.1.23.A～表 3.1.23.C に示す。

『最終学歴』は、「大学」(45.4%)、「高校」(25.8%)、「専門学校、専修学校」(13.4%)の順に回答割合が高かった。

『配偶者の有無』は、「いる」と回答した者は 50.2%であった。

『世帯人数』は、「2 人」(29.7%)、「1 人」(25.5%)、「3 人」(23.7%)、「4 人以上」(21.1%)の順に回答割合が高かった。

表 3.1.23.A 最終学歴

(単位:%)								
	N	中学校	高校	短大・ 高専	専門学 校、専修 学校	大学	大学院	回答しない
全体	20,000	1.3	25.8	8.5	13.4	45.4	5.1	0.5

表 3.1.23.B 配偶者の有無

(単位:%)				
	N	いる	いない (未婚)	いない(死別・ 離婚)
全体	20,000	50.2	38.6	11.2

表 3.1.23.C 世帯人数

(単位:%)					
	N	1人	2人	3人	4人以上
全体	20,000	25.5	29.7	23.7	21.1

3.1.24 1年前との比較(労働時間・主観的健康感)

1 年前同月と比較して、『本業の労働時間』『主観的健康感』の状況を表 3.1.24.A、表 3.1.24.B に示す。

『労働時間』は、「変化していない」(72.7%)を除くと、「増加した」(8.4%)、「わからない」(6.8%)、「減少した」(5.1 %)の順に回答割合が高く、平均の変化時間は 2 時間の増加であった。

『主観的健康感』は、「変わらない」(71.5%)の回答割合が最も高く、「悪くなった」(15.2%)の回答割合が「よくなった」(10.2%)よりも回答割合が高かった。

表 3.1.24 1 年前との比較

表 3.1.24.A 1 年前との比較(本業の労働時間)

(単位:%)							
	N	平均	とても増加した (週あたり+5 時間以上の増 加)	増加した (週あたり +2.5時間以 上5時間未満 の増加)	変化していな い(±週あたり 2.5時間未満 の変化差の 内)	減少した (週あたり-2.5 時間以上5時 間未満の減 少)	とても減少した (週あたり-5時 間以上の減 少)
全体	17,992	(0.2時間)	4.1	8.4	72.7	5.1	3.0
							6.8

表 3.1.24.B 1 年前との比較(主観的健康感)

(単位:%)				
	N	悪くなった	変わらない	よくなった
全体	20,000	15.2	71.5	10.2
				3.2

3.2 性別とのクロス集計

3.2.1 実労働時間数、所定時間外労働の生じる理由

『性別』と『実労働時間数』・『所定時間外労働が生じる理由』についてクロス集計を行った(表 3.2.1.A、表 3.2.1.B)。

『過去 1 か月の平均的な 1 週間の実労働時間数』で「60 時間以上」と回答した割合は、「男性」(4.8%)、「女性」(2.2%)の順に高かった。

『所定時間外労働が生じる理由』は、「男性」では「業務量が多いため」(36.2%)、「人員が不足しているため」(29.7%)、「仕事の繁閑の差が大きいため」(19.6%)の順に高く、「女性」も「業務量が多いため」(29.9%)、「人員が不足しているため」(28.7%)、「仕事の繁閑の差が大きいため」(19.1%)の順に高かった。

表 3.2.1.A 性別と過去 1 か月の平均的な 1 週間の実労働時間数(総労働)

(単位:%)

	N	20時間未満	20～40時間 未満	40～60時間 未満	60時間以上
男性	9,895	10.0	44.7	40.5	4.8
女性	8,097	14.5	60.2	23.0	2.2
全体	17,992	12.0	51.7	32.6	3.6

表 3.2.1.B 性別と所定時間外労働が生じる理由

(単位:%)

	N	業務量が多い ため	人員が不足し ているため	仕事の繁閑の 差が大きい ため	仕事の特性上、 所定労働時間 外も含めた長時 間の労働を行わ ないといけない仕 事があるため	社員間の業務 の平準化がさ れていないため	ICTや機械化 等による生産 性向上が進ん でいないため	会社や管理職 から所定時間 外労働を求め られるため
男性	10,903	36.2	29.7	19.6	14.3	9.0	3.0	3.7
女性	9,097	29.9	28.7	19.1	9.7	6.3	1.7	2.8
全体	20,000	33.3	29.3	19.4	12.2	7.8	2.4	3.3

	顧客の提示す る納期が短い ため	顧客からの不 規則な要望に 対応する必要 があるため(予 期せぬ仕様変 更等)	受注時の契約 内容が不明確 である(文書 化されていない) ため	労働時間の上 限について規制 がないため	その他	所定時間外労 働はない
男性	4.1	9.2	1.7	1.4	4.5	25.2
女性	2.0	7.4	1.0	0.9	4.8	33.3
全体	3.2	8.4	1.4	1.2	4.6	28.9

(注) 複数回答を得た結果。

3.2.2 抑うつ・不安傾向(K6)

『性別』と『抑うつ・不安傾向(K6)』についてクロス集計を行った(表 3.2.2)。「13点以上(重度の抑うつ・不安障害疑い)」の回答割合は、「女性」(14.3%)、「男性」(13.5%)の順に高かった。

表 3.2.2 性別と抑うつ・不安傾向(K6)のクロス集計

		(単位:%)			
	N	0～4点 (抑うつ・不安傾向なし)	5～9点 (抑うつ・不安傾向あり)	10～12点 (抑うつ・不安障害疑い)	13点以上 (重度の抑うつ・不安障害疑い)
男性	10,903	52.1	19.0	15.4	13.5
女性	9,097	48.1	22.6	15.0	14.3
全体	20,000	50.3	20.6	15.2	13.8

3.2.3 主観的幸福感

『性別』と『主観的幸福感』についてクロス集計を行った(表 3.2.3)。「主観的幸福感」が3点以下の割合は「男性」(13.9%)、「女性」(11.2%)の順に高かった。

表 3.2.3 性別と主観的幸福感のクロス集計

(単位:%)												
	N	0点 (とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点 (とても幸せ)	10点
男性	10,903	2.9	1.7	3.4	5.9	5.4	15.7	15.4	18.7	19.1	7.2	4.6
女性	9,097	2.0	1.3	2.8	5.1	5.1	16.0	14.9	18.5	20.2	7.8	6.3
全体	20,000	2.5	1.5	3.2	5.5	5.3	15.9	15.2	18.6	19.6	7.5	5.4

3.2.4 現在の満足度(職業生活全体)

『性別』と『現在の満足度(職業生活全体)』についてクロス集計を行った(表 3.2.4)。「不満」・「やや不満」の回答割合は、「女性」(37.2%)、「男性」(32.3%)の順に高かった。

表 3.2.4 性別と現在の満足度(職業生活全体)のクロス集計

		(単位:%)				
	N	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
男性	10,903	13.3	19.0	38.5	20.9	8.2
女性	9,097	15.3	21.9	32.8	21.7	8.2
全体	20,000	7.8	12.4	44.9	25.3	9.7

3.2.5 主観的健康感

『性別』と『主観的健康感』についてクロス集計を行った(表 3.2.5)。「よくない」・「あまりよくない」の回答割合は、「女性」(22.0%)、「男性」(21.3%)の順に高かった。

表 3.2.5 性別と主観的健康感のクロス集計

		(単位:%)				
	N	よくない	あまりよくない	ふつう	まあよい	よい
男性	10,903	4.0	17.3	49.6	21.8	7.3
女性	9,097	3.2	18.8	49.6	20.5	7.9
全体	20,000	3.6	18.0	49.6	21.2	7.6

3.2.6 仕事のストレスとサポートの状況

『性別』と『仕事のストレス』・『サポートの状況』についてクロス集計を行った(表 3.2.6.A～表 3.2.6.C)。

『仕事の要求度(量)』について、「高ストレス」の割合は、「女性」(6.8%)、「男性」(6.7%)の順に高かった。

『仕事の裁量度』について、「高ストレス」の割合は、「男性」(6.5%)、「女性」(5.0%)の順に高かった。

『上司のサポート』について、「不良」である割合は、「男性」(21.5%)、「女性」(13.3%)の順に高かった。

表 3.2.6.A 性別と仕事の要求度(量)のクロス集計

(単位:%)			
	N	高ストレス	問題無し
男性	10,903	6.7	93.3
女性	9,097	6.8	93.2
全体	20,000	6.8	93.2

表 3.2.6.B 性別と仕事の裁量度のクロス集計

(単位:%)			
	N	高ストレス	問題無し
男性	10,903	6.5	93.5
女性	9,097	5.0	95.0
全体	20,000	5.8	94.2

表 3.2.6.C 性別と上司のサポート状況のクロス集計

(単位:%)			
	N	不良	問題無し
男性	10,903	21.5	78.5
女性	9,097	13.3	86.7
全体	20,000	17.8	82.2

3.2.7 睡眠の状況

『性別』と『睡眠の状況』についてクロス集計を行った(表 3.2.7.A～表 3.2.7.E)。

『仕事のある日の睡眠時間』は、「男性」では「6 時間以上 7 時間未満」(32.7%)、「女性」では「6 時間以上 7 時間未満」(30.3%)の回答割合が最も高く、6 時間未満と回答した者が「男性」では 24.3%、「女性」では 23.3%であった。

『仕事のある日の理想の睡眠時間』は、「男性」では「7 時間以上 8 時間未満」(40.2%)、「女性」では「7 時間以上 8 時間未満」(41.6%)の回答割合が最も高かった。

『理想の睡眠時間との乖離(仕事のある日)』は、「男性」では「理想時間以上」(40.4%)、「女性」では「1 時間の不足」(38.8%)の回答割合が最も高かった。

『睡眠休息感』は、「全く取れていない」・「あまり取れていない」と回答した者が「男性」では 46.4%、「女性」では 50.9%であった。「まあ取れている」・「充分取れている」と回答した者が「男性」では 53.6%、「女性」では 49.0%であった。

『睡眠の質』は、「非常に悪い」・「かなり悪い」と回答した者が「男性」では 49.6%、「女性」では 54.0%であった。「かなりよい」・「非常によい」と回答した者が「男性」では 50.4%、「女性」では 46.0%であった。

表 3.2.7.A 性別と睡眠時間(平日)のクロス集計

(単位:%)							
	N	5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間以上 7時間未満	7時間以上 8時間未満	8時間以上 9時間未満	9時間以上
男性	10,903	5.6	18.7	32.7	29.2	10.0	3.7
女性	9,097	6.0	17.3	30.3	28.1	12.2	6.1
全体	20,000	13.0	32.7	33.5	16.4	3.5	0.9

表 3.2.7.B 性別と理想の睡眠時間(平日)のクロス集計

(単位:%)							
	N	5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間以上 7時間未満	7時間以上 8時間未満	8時間以上 9時間未満	9時間以上
男性	10,903	3.0	9.9	31.2	40.2	11.9	3.7
女性	9,097	2.8	8.4	29.1	41.6	14.4	3.7
全体	20,000	2.9	9.2	30.2	40.9	13.1	3.7

表 3.2.7.C 性別と理想の睡眠時間との乖離(平日)のクロス集計

(単位:%)

	N	5時間の 不足	4時間の 不足	3時間の 不足	2時間の 不足	1時間の 不足	理想時間 以上
男性	10,903	0.5	1.3	4.4	17.0	36.4	40.4
女性	9,097	0.4	1.6	6.0	20.7	38.8	32.6
全体	20,000	0.4	1.5	5.1	18.7	37.5	36.8

表 3.2.7.D 性別と睡眠休息感のクロス集計

(単位:%)

	N	全く取れて いない	あまり取れて いない	まあ取れて いる	充分取れて いる
男性	10,903	9.9	36.5	45.4	8.2
女性	9,097	11.2	39.7	42.3	6.7
全体	20,000	10.5	37.9	44.0	7.6

表 3.2.7.E 性別と睡眠の質のクロス集計

(単位:%)					
	N	非常に悪い	かなり悪い	かなりよい	非常によい
男性	10,903	8.2	41.4	46.1	4.3
女性	9,097	9.6	44.4	42.3	3.7
全体	20,000	8.9	42.8	44.3	4.0

3.2.8 ワーク・エンゲイジメントの状況

『性別』と『ワーク・エンゲイジメント』についてクロス集計を行った(表 3.2.8)。

「男性」では、「7～11 点(中程度)」(61.3%)、「0～6 点(低い)」(30.0%)、「12～18 点(高い)」(8.7%)の順に回答割合が高かった。

「女性」では、「7～11 点(中程度)」(60.7%)、「0～6 点(低い)」(30.3%)、「12～18 点(高い)」(9.0%)の順に回答割合が高かった。

表 3.2.8 性別とワーク・エンゲイジメントのクロス集計

		(単位:%)		
	N	0～6点 (低い)	7～11点 (中程度)	12～18点 (高い)
男性	10,903	30.0	61.3	8.7
女性	9,097	30.3	60.7	9.0
全体	20,000	30.2	61.0	8.8

3.2.9 心理的安全性の状況

『性別』と『心理的安全性』についてクロス集計を行った(表 3.2.9)。

「男性」では、「11～15 点(やや低い)」(46.4%)、「16～20 点(やや高い)」(33.1%)、「21～25 点(高い)」(10.3%)の順に回答割合が高かった。

「女性」では、「11～15 点(やや低い)」(46.6%)、「16～20 点(やや高い)」(31.0%)、「5～10 点(低い)」(13.3%)の順に回答割合が高かった。

表 3.2.9 性別と心理的安全性のクロス集計

		(単位:%)			
	N	5～10点 (低い)	11～15点 (やや低い)	16～20点 (やや高い)	21～25点 (高い)
男性	10,903	10.1	46.4	33.1	10.3
女性	9,097	13.3	46.6	31.0	9.1
全体	20,000	11.6	46.5	32.2	9.8

3.2.10 ハラスメントの経験状況

『性別』と『ハラスメントの経験状況』についてクロス集計を行った(表 3.2.10)。

「男性」では、「パワーハラスメント」(19.0%)、「セクシャルハラスメント」(7.1%)、「その他のハラスメント」(6.8%)の順に回答割合が高かった。

「女性」では、「パワーハラスメント」(23.4%)、「セクシャルハラスメント」(9.0%)、「カスタマーハラスメント」(6.1%)の順に回答割合が高かった。

表 3.2.10 性別と各種ハラスメント経験率のクロス集計

(単位:%)

パワーハラスメント				カスタマーハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
男性	10,903	19.0	81.0	男性	10,903	6.0	94.0
女性	9,097	23.4	76.6	女性	9,097	6.1	93.9
全体	20,000	21.0	79.0	全体	20,000	6.1	93.9

セクシャルハラスメント				その他ハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
男性	10,903	7.1	92.9	男性	10,903	6.8	93.2
女性	9,097	9.0	91.0	女性	9,097	5.6	94.4
全体	20,000	8.0	92.0	全体	20,000	6.3	93.7

(注) 複数回答を得た結果。

3.3 年齢とのクロス集計

3.3.1 実労働時間数、所定時間外労働が生じる理由

『年齢』と『実労働時間数』・『所定時間外労働が生じる理由』についてクロス集計を行った(表 3.3.1.A、表 3.3.1.B)。

『過去 1 か月の平均的な 1 週間の実労働時間数』で「60 時間以上」と回答した割合は、「40～49 歳」(4.2%)、「30～39 歳」(3.9%)、「20～29 歳」(3.8%)の順に高かった。

『所定時間外労働が生じる理由』は、「40～49 歳」では「業務量が多いため」(38.1%)、「人員が不足しているため」(31.6%)、「仕事の繁閑の差が大きいため」(20.1%)の順に高く、「30～39 歳」では「業務量が多いため」(40.4%)、「人員が不足しているため」(34.3%)、「仕事の繁閑の差が大きいため」(20.2%)の順に高く、「20～29 歳」では「業務量が多いため」(42.0%)、「人員が不足しているため」(36.5%)、「仕事の繁閑の差が大きいため」(19.9%)の順に高かった。

表 3.3.1.A 年齢と過去 1 か月の平均的な 1 週間の実労働時間数(総労働)

(単位:%)

	N	20時間未満	20～40時間 未満	40～60時間 未満	60時間以上
20～29歳	2,183	10.4	53.2	32.6	3.8
30～39歳	3,267	8.6	50.7	36.8	3.9
40～49歳	4,226	9.1	50.0	36.7	4.2
50～59歳	4,439	9.7	50.6	36.2	3.5
60～64歳	1,713	15.5	55.5	25.8	3.2
65～74歳	1,961	25.8	54.7	17.1	2.4
75歳以上	203	36.9	49.8	11.3	2.0
全体	17,992	12.0	51.7	32.6	3.6

表 3.3.1.B 年齢と所定時間外労働が生じる理由

(単位:%)

	N	業務量が多い ため	人員が不足し ているため	仕事の繁閑の 差が大きい ため	仕事の特性上、 所定労働時間外 も含めた長時間 の労働を行わな いとできない仕事 があるため	社員間の業務 の平準化がさ れていないため	ICTや機械化 等による生産 性向上が進ん でいないため	会社や管理職 から所定時間 外労働を求め られるため
20～29歳	2,657	42.0	36.5	19.9	12.8	8.0	3.7	4.5
30～39歳	3,796	40.4	34.3	20.2	12.3	9.3	3.4	3.7
40～49歳	4,745	38.1	31.6	20.1	12.7	9.4	2.9	3.8
50～59歳	4,788	32.1	29.2	19.6	12.8	7.7	1.6	3.0
60～64歳	1,797	22.6	21.4	18.5	10.2	5.5	1.1	2.2
65～74歳	2,009	12.2	14.3	15.9	10.6	3.3	0.9	1.5
75歳以上	208	8.2	6.3	17.8	11.5	1.4	-	-
全体	20,000	33.3	29.3	19.4	12.2	7.8	2.4	3.3

	顧客の提示す る納期が短い ため	顧客からの不 規則な要望に 対応する必要 があるため(予 期せぬ仕様変 更等)	受注時の契約 内容が不明確 である(文書 化されていない) ため	労働時間の上 限について規 制がないため	その他	所定時間外 労働はない
20～29歳	3.8	8.4	1.9	0.3	3.0	21.8
30～39歳	3.5	8.4	1.9	0.5	3.7	24.8
40～49歳	3.4	8.8	1.5	1.0	4.3	24.8
50～59歳	2.8	8.6	0.9	1.2	5.2	28.0
60～64歳	2.4	7.1	0.8	2.1	6.2	36.9
65～74歳	2.7	8.1	0.9	3.1	6.0	48.0
75歳以上	3.4	7.7	1.4	2.9	9.1	53.8
全体	3.2	8.4	1.4	1.2	4.6	28.9

(注) 複数回答を得た結果。

3.3.2 抑うつ・不安傾向(K6)

『年齢』と『抑うつ・不安傾向(K6)』についてクロス集計を行った(表 3.3.2)。

「13 点以上(重度の抑うつ・不安障害疑い)」の回答割合は、「20～29 歳」(21.0%)、「30～39 歳」(18.9%)、「40～49 歳」(15.7%)の順に高かった。

表 3.3.2 年齢と抑うつ・不安傾向(K6)のクロス集計

(単位:%)					
	N	0～4点 (抑うつ・不安傾向なし)	5～9点 (抑うつ・不安傾向あり)	10～12点 (抑うつ・不安障害疑い)	13点以上 (重度の抑うつ・不安障害疑い)
20～29歳	2,657	34.0	23.0	22.0	21.0
30～39歳	3,796	39.3	22.9	18.9	18.9
40～49歳	4,745	46.5	21.3	16.6	15.7
50～59歳	4,788	55.3	20.2	13.4	11.1
60～64歳	1,797	63.0	19.5	10.0	7.5
65～74歳	2,009	74.8	15.0	6.4	3.8
75歳以上	208	83.7	10.1	4.8	1.4
全体	20,000	50.3	20.6	15.2	13.8

3.3.3 主観的幸福感

『年齢』と『主観的幸福感』についてクロス集計を行った(表 3.3.3)。『主観的幸福感』が 3 点以下の割合は「40～49 歳」(15.4%)、「50～59 歳」(14.7%)、「30～39 歳」(13.6%)の順に高かった。

表 3.3.3 年齢と主観的幸福感のクロス集計

	N	(単位:%)										
		0点 (とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)
20～29歳	2,657	2.2	1.1	2.3	4.8	6.5	16.2	16.6	20.7	15.8	6.2	7.6
30～39歳	3,796	3.0	1.5	3.3	5.8	6.3	17.6	16.6	18.5	16.6	5.7	5.1
40～49歳	4,745	3.1	1.8	4.0	6.5	5.7	17.9	15.3	17.3	17.1	6.3	4.9
50～59歳	4,788	2.8	1.9	3.7	6.3	5.0	15.2	15.1	18.2	19.8	7.4	4.7
60～64歳	1,797	2.2	1.4	2.4	4.8	3.4	14.7	13.5	19.0	24.8	8.8	4.9
65～74歳	2,009	0.4	0.6	1.4	3.1	3.1	10.6	12.4	19.7	29.3	13.2	6.1
75歳以上	208	0.5	0.5	0.5	1.4	2.9	7.7	9.1	18.3	35.6	17.3	6.3
全体	20,000	2.5	1.5	3.2	5.5	5.3	15.9	15.2	18.6	19.6	7.5	5.4

3.3.4 現在の満足度(職業生活全体)

『年齢』と『現在の満足度(職業生活全体)』についてクロス集計を行った(表 3.3.4)。「不満」・「やや不満」の回答割合は、「20～29 歳」(24.7%)、「30～39 歳」(21.9%)、「40～49 歳」(21.7%)の順に高かった。

表 3.3.4 年齢と現在の満足度(職業生活全体)のクロス集計

	(単位:%)						
	N	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足	
20～29歳	2,657		9.0	15.7	40.2	25.7	9.5
30～39歳	3,796		8.6	13.3	46.7	23.6	7.7
40～49歳	4,745		9.2	12.5	46.7	23.7	7.9
50～59歳	4,788		8.2	12.4	45.3	25.2	8.9
60～64歳	1,797		5.4	11.7	43.9	27.2	11.9
65～74歳	2,009		2.8	7.2	43.3	30.3	16.4
75歳以上	208		3.4	4.8	46.6	22.6	22.6
全体	20,000		7.8	12.4	44.9	25.3	9.7

3.3.5 主観的健康感

『年齢』と『主観的健康感』についてクロス集計を行った(表 3.3.5)。「よくない」・「あまりよくない」の回答割合は、「40～49 歳」(23.3%)、「60～64 歳」(22.3%)、「30～39 歳」(21.8%)の順に高かった。

表 3.3.5 年齢と主観的健康感のクロス集計

		(単位:%)				
	N	よくない	あまりよくない	ふつう	まあよい	よい
20～29歳	2,657	4.0	16.9	48.9	20.5	9.7
30～39歳	3,796	3.9	17.9	51.3	19.4	7.5
40～49歳	4,745	3.9	19.4	49.9	19.3	7.5
50～59歳	4,788	3.7	18.0	50.4	21.0	6.9
60～64歳	1,797	3.5	18.8	49.6	22.2	5.9
65～74歳	2,009	2.2	15.2	46.1	28.5	7.9
75歳以上	208	1.0	20.2	38.9	31.3	8.7
全体	20,000	3.6	18.0	49.6	21.2	7.6

3.3.6 仕事のストレスとサポートの状況

『年齢』と『仕事のストレス』・『サポートの状況』についてクロス集計を行った(表 3.3.6.A～表 3.3.6.C)。

『仕事の要求度(量)』について、「高ストレス」の割合は、「20～29 歳」(9.9%)、「30～39 歳」(8.3%)、「40～49 歳」及び「50～59 歳」(各々8.2%)の順に高かった。

『仕事の裁量度』について、「高ストレス」の割合は、「40～49 歳」(6.6%)、「50～59 歳」及び「60～64 歳」(各々5.9%)、「20～29 歳」(5.7%)の順に高かった。

『上司のサポート』について、サポート状況が「不良」の割合は、「75 歳以上」(33.2%)、「65～74 歳」(23.5%)、「60～64 歳」(19.8%)の順に高かった。

表 3.3.6.A 年齢と仕事の要求度(量)のクロス集計

(単位:%)			
	N	高ストレス	問題無し
20～29歳	2,657	9.9	90.1
30～39歳	3,796	8.3	91.7
40～49歳	4,745	8.2	91.8
50～59歳	4,788	8.2	91.8
60～64歳	1,797	6.2	93.8
65～74歳	2,009	4.9	95.1
75歳以上	208	2.9	97.1
全体	20,000	6.8	93.2

表 3.3.6.B 年齢と仕事の裁量度のクロス集計

(単位:%)			
	N	高ストレス	問題無し
20～29歳	2,657	5.7	94.3
30～39歳	3,796	5.5	94.5
40～49歳	4,745	6.6	93.4
50～59歳	4,788	5.9	94.1
60～64歳	1,797	5.9	94.1
65～74歳	2,009	4.4	95.6
75歳以上	208	5.3	94.7
全体	20,000	5.8	94.2

表 3.3.6.C 年齢と上司のサポート状況のクロス集計

(単位:%)			
	N	不良	問題無し
20～29歳	2,657	11.9	88.1
30～39歳	3,796	15.8	84.2
40～49歳	4,745	17.9	82.1
50～59歳	4,788	18.5	81.5
60～64歳	1,797	19.8	80.2
65～74歳	2,009	23.5	76.5
75歳以上	208	33.2	66.8
全体	20,000	17.8	82.2

3.3.7 ワーク・エンゲイジメントの状況

『年齢』と『ワーク・エンゲイジメント』についてクロス集計を行った(表 3.3.7)。

『ワーク・エンゲイジメント』を「高い」と回答した者の割合は、「75 歳以上」(23.6%)、「65～74 歳」(12.5%)、「60～64 歳」(10.1%)の順に高かった。

「低い」と回答した者の割合は、「30～39 歳」(35.3%)、「40～49 歳」(34.2%)、「20～29 歳」(33.6%)の順に高かった。

表 3.3.7 年齢とワーク・エンゲイジメントのクロス集計

(単位:%)				
	N	0～6点 (低い)	7～11点 (中程度)	12～18点 (高い)
20～29歳	2,657	33.6	58.8	7.6
30～39歳	3,796	35.3	57.3	7.4
40～49歳	4,745	34.2	57.8	8.0
50～59歳	4,788	29.1	62.2	8.8
60～64歳	1,797	24.8	65.1	10.1
65～74歳	2,009	15.5	72.0	12.5
75歳以上	208	13.5	63.0	23.6
全体	20,000	30.2	61.0	8.8

3.3.8 心理的安全性の状況

『年齢』と『心理的安全性』についてクロス集計を行った(表 3.3.8)。

『心理的安全性』を「低い」と回答した割合は、「40～49 歳」(13.8%)、「50～59 歳」(12.9%)、「30～39 歳」(12.2%)の順に高かった。

表 3.3.8 年齢と心理的安全性のクロス集計

(単位:%)					
	N	5～10点 (低い)	11～15点 (やや低い)	16～20点 (やや高い)	21～25点 (高い)
20～29歳	2,657	9.5	50.2	32.6	7.7
30～39歳	3,796	12.2	50.2	31.3	6.3
40～49歳	4,745	13.8	47.8	30.4	7.9
50～59歳	4,788	12.9	47.4	30.4	9.3
60～64歳	1,797	10.2	42.2	34.6	13.0
65～74歳	2,009	6.2	35.2	38.7	19.9
75歳以上	208	6.7	26.9	39.4	26.9
全体	20,000	11.6	46.5	32.2	9.8

3.3.9 ハラスメントの経験状況

『年齢』と『ハラスメントの経験状況』についてクロス集計を行った(表 3.3.9)。

「パワーハラスメント」の経験割合は、「20～29 歳」(25.8%)、「40～49 歳」(23.0%)、「30～39 歳」(22.6%)の順に高かった。

「セクシャルハラスメント」の経験割合は、「20～29 歳」(15.1%)、「30～39 歳」(10.1%)、「40～49 歳」(7.7%)の順に高かった。

「カスタマーハラスメント」の経験割合は、「20～29 歳」(9.6%)、「30～39 歳」(6.7%)、「40～49 歳」(6.0%)の順に高かった。

表 3.3.9 年齢と各種ハラスメント経験率のクロス集計

(単位:%)

パワーハラスメント				カスタマーハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
20～29歳	2,657	25.8	74.2	20～29歳	2,657	9.6	90.4
30～39歳	3,796	22.6	77.4	30～39歳	3,796	6.7	93.3
40～49歳	4,745	23.0	77.0	40～49歳	4,745	6.0	94.0
50～59歳	4,788	21.4	78.6	50～59歳	4,788	5.6	94.4
60～64歳	1,797	18.3	81.7	60～64歳	1,797	4.2	95.8
65～74歳	2,009	10.2	89.8	65～74歳	2,009	3.5	96.5
75歳以上	208	4.8	95.2	75歳以上	208	1.4	98.6
全体	20,000	21.0	79.0	全体	20,000	6.1	93.9

セクシャルハラスメント				その他ハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
20～29歳	2,657	15.1	84.9	20～29歳	2,657	10.8	89.2
30～39歳	3,796	10.1	89.9	30～39歳	3,796	6.9	93.1
40～49歳	4,745	7.7	92.3	40～49歳	4,745	5.7	94.3
50～59歳	4,788	6.3	93.7	50～59歳	4,788	5.8	94.2
60～64歳	1,797	4.3	95.7	60～64歳	1,797	4.2	95.8
65～74歳	2,009	3.1	96.9	65～74歳	2,009	4.0	96.0
75歳以上	208	0.5	99.5	75歳以上	208	1.0	99.0
全体	20,000	8.0	92.0	全体	20,000	6.3	93.7

(注) 複数回答を得た結果。

3.4 業種とのクロス集計

3.4.1 実労働時間数、所定時間外労働の生じる理由

『業種』と『実労働時間数』・『所定時間外労働が生じる理由』についてクロス集計を行った(表 3.4.1.A、表 3.4.1.B)。

『過去 1 か月の平均的な 1 週間の実労働時間数』で「60 時間以上」と回答した割合は、「宿泊業、飲食サービス業」(7.7%)、「運輸業、郵便業」(6.5%)、「複合サービス事業」(4.5%)の順に高かった。

『所定時間外労働が生じる理由』は、「業務量が多いため」の回答割合は、「情報通信業」(46.7%)、「金融業、保険業」(42.3%)、「製造業」(42.0%)の順に高かった。「人員が不足しているため」の回答割合は、「宿泊業、飲食サービス業」(40.3%)、「医療、福祉」(36.5%)、「複合サービス事業」(35.8%)の順に高かった。「仕事の繁閑の差が大きいため」の回答割合は、「学術研究、専門・技術サービス業」(25.7%)、「農業・林業」(23.9%)、「金融業、保険業」(23.2%)の順に高かった。

表 3.4.1.A 業種と過去 1 か月の平均的な 1 週間の実労働時間数(総労働)

(単位: %)

	N	20時間未満	20～40時間 未満	40～60時間 未満	60時間以上
農業・林業	462	23.2	50.9	21.9	4.1
漁業	24	45.8	16.7	33.3	4.2
鉱業、採石業、砂利採取業	33	9.1	45.5	45.5	-
建設業	1,349	9.0	47.1	40.1	3.8
製造業	2,964	7.1	50.4	39.8	2.7
電気・ガス・熱供給・水道業	83	7.2	61.4	27.7	3.6
情報通信業	790	5.2	50.1	42.3	2.4
運輸業、郵便業	1,009	9.8	43.9	39.7	6.5
卸売業、小売業	2,930	12.3	52.6	31.8	3.3
金融業、保険業	445	8.5	58.4	29.9	3.1
不動産業、物品賃貸業	408	20.1	52.7	24.8	2.5
学術研究、専門・技術サービス業	753	11.0	49.8	35.3	3.9
宿泊業、飲食サービス業	988	17.6	41.5	33.2	7.7
生活関連サービス業、娯楽業	654	18.7	44.5	33.0	3.8
教育、学習支援業	992	18.4	50.6	26.8	4.1
医療、福祉	2,632	9.3	63.8	24.4	2.5
複合サービス事業	133	10.5	52.6	32.3	4.5
サービス業（他に分類されないもの）	1,343	19.9	50.8	25.6	3.7
全体	17,992	12.0	51.7	32.6	3.6

表 3.4.1.B 業種と所定時間外労働が生じる理由

(単位:%)

	N	業務量が多い ため	人員が不足し ているため	仕事の繁閑の 差が大きい ため	仕事の特性上、 所定労働時間外 も含めた長時間 の労働を行わな いとできない仕事 があるため	社員間の業務 の平準化がさ れていないため	ICTや機械化 等による生産 性向上が進ん でいないため	会社や管理職 から所定時間 外労働を求め られるため
農業・林業	490	16.9	12.9	23.9	11.6	2.0	2.0	1.2
漁業	30	36.7	20.0	16.7	-	3.3	3.3	6.7
鉱業、採石業、砂利採取業	38	15.8	21.1	10.5	10.5	2.6	-	5.3
建設業	1,530	32.5	28.6	19.9	14.2	7.9	2.3	3.1
製造業	3,361	42.0	30.1	21.6	11.5	11.1	3.5	4.4
電気・ガス・熱供給・水道業	89	33.7	28.1	19.1	10.1	10.1	5.6	2.2
情報通信業	887	46.7	27.2	20.7	10.8	9.9	3.0	3.5
運輸業、郵便業	1,106	31.9	31.4	20.7	20.3	6.2	1.4	4.3
卸売業、小売業	3,273	31.7	31.0	21.9	9.7	8.2	2.5	3.1
金融業、保険業	496	42.3	27.0	23.2	9.5	9.9	2.8	3.4
不動産業、物品賃貸業	441	22.0	15.0	17.2	6.6	6.3	1.4	1.8
学術研究、専門・技術サービス業	810	39.3	19.6	25.7	15.3	8.0	3.1	3.2
宿泊業、飲食サービス業	1,085	29.5	40.3	21.2	13.2	5.5	1.3	2.6
生活関連サービス業、娯楽業	712	21.3	22.9	17.8	12.9	6.5	2.4	5.1
教育、学習支援業	1,094	32.4	24.8	16.5	14.8	6.7	2.3	3.7
医療、福祉	2,951	32.8	36.5	13.2	12.6	6.5	2.1	2.6
複合サービス事業	151	30.5	35.8	21.9	11.9	8.6	0.7	0.7
サービス業（他に分類されないもの）	1,456	24.2	23.3	14.4	9.8	5.9	1.3	2.5
全体	20,000	33.3	29.3	19.4	12.2	7.8	2.4	3.3

	顧客の提示す る納期が短い ため	顧客からの不 規則な要望に 対応する必要 があるため（予 期せぬ仕様変 更等）	受注時の契約 内容が不明確 である（文書 化されていない） ため	労働時間の上 限について規 制がないため	その他	所定時間外 労働はない
農業・林業	1.0	1.8	1.0	7.1	9.0	40.6
漁業	-	3.3	3.3	-	3.3	26.7
鉱業、採石業、砂利採取業	2.6	5.3	-	-	7.9	34.2
建設業	5.6	8.4	2.1	1.7	4.8	27.3
製造業	5.4	7.8	1.9	0.1	3.5	23.5
電気・ガス・熱供給・水道業	3.4	3.4	-	-	3.4	30.3
情報通信業	8.9	13.4	2.4	0.7	3.3	21.6
運輸業、郵便業	1.4	7.7	1.0	0.5	6.5	22.7
卸売業、小売業	2.2	9.9	1.6	1.1	4.0	29.7
金融業、保険業	1.8	10.7	0.6	0.6	2.6	24.8
不動産業、物品賃貸業	0.9	10.0	0.9	0.5	2.7	46.9
学術研究、専門・技術サービス業	7.3	13.6	2.5	3.1	3.6	28.3
宿泊業、飲食サービス業	1.6	6.7	1.0	2.8	3.6	25.1
生活関連サービス業、娯楽業	1.0	10.4	1.1	2.8	5.3	38.3
教育、学習支援業	1.2	6.1	0.5	1.0	3.3	35.6
医療、福祉	1.2	6.5	0.5	0.4	6.0	28.2
複合サービス事業	2.0	9.9	3.3	-	5.3	25.8
サービス業（他に分類されないもの）	2.9	8.1	1.2	1.6	6.8	37.4
全体	3.2	8.4	1.4	1.2	4.6	28.9

(注) 複数回答を得た結果。

3.4.2 抑うつ・不安傾向(K6)

『業種』と『抑うつ・不安傾向(K6)』についてクロス集計を行った(表 3.4.2)。「13点以上(重度の抑うつ・不安障害疑い)」の回答割合は、「漁業」(23.3%)、「鉱業、採石業、砂利採取業」(21.1%)、「医療、福祉」(15.3%)の順に高かった。

表 3.4.2 業種と抑うつ・不安傾向(K6)のクロス集計

		(単位:%)			
	N	0～4点 (抑うつ・不安傾向なし)	5～9点 (抑うつ・不安傾向あり)	10～12点 (抑うつ・不安障害疑い)	13点以上 (重度の抑うつ・不安障害疑い)
農業・林業	490	60.0	18.0	11.4	10.6
漁業	30	36.7	20.0	20.0	23.3
鉱業、採石業、砂利採取業	38	39.5	26.3	13.2	21.1
建設業	1,530	48.4	18.6	18.0	15.1
製造業	3,361	48.8	20.6	16.5	14.1
電気・ガス・熱供給・水道業	89	50.6	25.8	14.6	9.0
情報通信業	887	49.2	22.2	14.2	14.4
運輸業、郵便業	1,106	53.5	20.3	13.7	12.5
卸売業、小売業	3,273	50.0	21.6	14.8	13.5
金融業、保険業	496	51.0	19.2	16.5	13.3
不動産業、物品賃貸業	441	56.5	18.8	13.6	11.1
学術研究、専門・技術サービス業	810	57.0	20.2	10.6	12.1
宿泊業、飲食サービス業	1,085	49.1	21.0	15.2	14.7
生活関連サービス業、娯楽業	712	53.8	19.9	13.9	12.4
教育、学習支援業	1,094	51.3	19.2	15.2	14.4
医療、福祉	2,951	45.9	22.2	16.5	15.3
複合サービス事業	151	49.0	22.5	14.6	13.9
サービス業（他に分類されないもの）	1,456	53.4	19.2	14.4	13.0
全体	20,000	50.3	20.6	15.2	13.8

3.4.3 主観的幸福感

『業種』と『主観的幸福感』についてクロス集計を行った(表 3.4.3)。『主観的幸福感』が 3 点以下の割合は「電気・ガス・熱供給・水道業」(20.3%)、「情報通信業」(17.3%)、「漁業」(16.6%)の順に高かった。

表 3.4.3 業態と主観的幸福感のクロス集計

		(単位:%)										
	N	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
		(とても不幸)										
		(とても幸せ)										
農業・林業	490	1.8	1.2	3.1	4.1	4.3	15.5	12.2	16.5	24.3	9.6	7.3
漁業	30	-	3.3	-	13.3	3.3	20.0	10.0	23.3	16.7	10.0	-
鉱業、採石業、砂利採取業	38	-	7.9	-	2.6	-	23.7	13.2	26.3	23.7	2.6	-
建設業	1,530	1.4	1.4	2.9	5.2	4.6	16.8	15.4	19.5	20.1	7.5	5.2
製造業	3,361	2.9	1.7	3.3	6.0	5.4	16.8	15.9	18.6	18.5	6.1	4.8
電気・ガス・熱供給・水道業	89	4.5	3.4	3.4	9.0	2.2	13.5	15.7	11.2	22.5	11.2	3.4
情報通信業	887	2.4	1.8	4.5	8.6	6.5	16.3	14.9	17.2	17.9	6.1	3.7
運輸業、郵便業	1,106	2.9	2.1	4.2	6.1	5.6	15.9	14.5	18.7	18.5	5.6	6.0
卸売業、小売業	3,273	2.3	1.2	3.5	5.9	5.4	15.7	14.8	17.9	20.7	7.6	5.2
金融業、保険業	496	3.0	1.4	3.2	6.7	4.0	12.9	17.5	17.7	19.8	9.5	4.2
不動産業、物品賃貸業	441	3.2	2.5	2.7	3.2	6.3	14.3	13.4	17.2	22.7	8.6	5.9
学術研究、専門・技術サービス業	810	2.1	1.4	3.2	5.8	6.0	14.4	15.2	19.6	21.0	6.9	4.3
宿泊業、飲食サービス業	1,085	3.7	2.3	2.9	4.1	5.3	14.7	14.2	20.6	16.9	8.0	7.4
生活関連サービス業、娯楽業	712	2.0	1.3	3.1	6.2	4.9	14.7	12.4	17.6	22.2	7.9	7.9
教育、学習支援業	1,094	2.6	1.2	1.9	3.8	4.4	13.3	14.5	20.8	20.6	10.5	6.4
医療、福祉	2,951	1.9	1.3	2.8	4.9	5.4	16.9	16.3	18.6	19.0	7.6	5.3
複合サービス事業	151	2.6	0.7	4.6	5.3	3.3	13.2	16.6	21.2	19.9	6.6	6.0
サービス業（他に分類されないもの）	1,456	3.4	1.3	2.9	5.4	5.5	16.5	15.9	18.1	18.3	7.8	4.9
全体	20,000	2.5	1.5	3.2	5.5	5.3	15.9	15.2	18.6	19.6	7.5	5.4

3.4.4 現在の満足度(職業生活全体)

『業種』と『現在の満足度(職業生活全体)』についてクロス集計を行った(表 3.4.4)。「不満」・「やや不満」の回答割合は、「医療、福祉」(24.3%)、「鉱業、採石業、砂利採取業」、「製造業」、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」(各々 21.1%)、「卸売業、小売業」(20.5%)の順に高かった。

表 3.4.4 業種と現在の満足度(職業生活全体)のクロス集計

		(単位:%)				
	N	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
農業・林業	490	6.5	8.2	53.7	19.2	12.4
漁業	30	3.3	3.3	60.0	23.3	10.0
鉱業、採石業、砂利採取業	38	7.9	13.2	42.1	34.2	2.6
建設業	1,530	7.0	11.1	47.4	24.4	10.1
製造業	3,361	8.2	12.9	45.2	25.5	8.2
電気・ガス・熱供給・水道業	89	5.6	5.6	46.1	32.6	10.1
情報通信業	887	6.2	12.1	44.8	29.2	7.8
運輸業、郵便業	1,106	8.5	12.6	43.2	26.9	8.8
卸売業、小売業	3,273	7.9	12.6	45.3	25.2	9.0
金融業、保険業	496	5.2	10.5	43.5	29.8	10.9
不動産業、物品賃貸業	441	5.9	10.7	42.9	27.2	13.4
学術研究、専門・技術サービス業	810	4.9	11.7	43.8	29.0	10.5
宿泊業、飲食サービス業	1,085	9.4	11.7	44.6	22.7	11.6
生活関連サービス業、娯楽業	712	7.9	11.4	45.8	23.6	11.4
教育、学習支援業	1,094	7.2	12.4	40.6	28.1	11.7
医療、福祉	2,951	9.3	15.0	43.8	23.1	8.7
複合サービス事業	151	4.0	11.3	55.6	20.5	8.6
サービス業（他に分類されないもの）	1,456	7.9	11.2	44.9	24.7	11.3
全体	20,000	7.8	12.4	44.9	25.3	9.7

3.4.5 主観的健康感

『業種』と『主観的健康感』についてクロス集計を行った(表 3.4.5)。「よくない」・「あまりよくない」の回答割合は、「複合サービス事業」(26.5%)、「宿泊業、飲食サービス業」(23.9%)、「漁業」及び「医療、福祉」(各々23.3%)の順に高かった。

表 3.4.5 業種と主観的健康感のクロス集計

	N	よくない	あまりよくない	ふつう	まあよい	よい
農業・林業	490	3.5	17.6	46.7	23.1	9.2
漁業	30	3.3	20.0	46.7	23.3	6.7
鉱業、採石業、砂利採取業	38	5.3	15.8	52.6	21.1	5.3
建設業	1,530	2.5	17.2	53.9	20.0	6.3
製造業	3,361	3.8	18.0	50.8	20.1	7.3
電気・ガス・熱供給・水道業	89	5.6	16.9	48.3	20.2	9.0
情報通信業	887	3.6	16.2	50.1	22.9	7.2
運輸業、郵便業	1,106	2.9	18.1	50.3	21.0	7.8
卸売業、小売業	3,273	3.6	17.6	48.9	22.2	7.7
金融業、保険業	496	4.6	15.3	49.6	22.2	8.3
不動産業、物品賃貸業	441	2.5	16.3	52.2	21.1	7.9
学術研究、専門・技術サービス業	810	4.0	17.5	46.9	24.2	7.4
宿泊業、飲食サービス業	1,085	4.5	19.4	47.2	20.0	8.9
生活関連サービス業、娯楽業	712	4.2	14.9	46.6	24.3	10.0
教育、学習支援業	1,094	3.3	18.3	45.8	24.3	8.3
医療、福祉	2,951	3.5	19.8	50.5	19.6	6.6
複合サービス事業	151	5.3	21.2	48.3	18.5	6.6
サービス業（他に分類されないもの）	1,456	3.8	18.8	49.7	20.0	7.8
全体	20,000	3.6	18.0	49.6	21.2	7.6

3.4.6 仕事のストレスとサポートの状況

『業種』と『仕事のストレス』・『サポートの状況』についてクロス集計を行った(表 3.4.6.A～表 3.4.6.C)。

『仕事の要求度(量)』について、「高ストレス」の割合は、「医療、福祉」(14.8%)、「教育、学習支援業」(12.7%)、「学術研究、専門・技術サービス業」(12.6%)の順に高かった。

『仕事の裁量度』について、「高ストレス」の割合は、「運輸業、郵便業」(9.1%)、「鉱業、採石業、砂利採取業」(7.9%)、「漁業」、「製造業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「サービス業(他に分類されないもの)」(各々6.7%)の順に高かった。

『上司のサポート』について、サポート状況が「不良」の割合は、「農業・林業」(34.9%)、「漁業」(26.7%)、「不動産業、物品賃貸業」(26.3%)の順に高かった。

表 3.4.6.A 業種と仕事の要求度(量)のクロス集計

	(単位:%)		
	N	高ストレス	問題無し
農業・林業	490	4.3	95.7
漁業	30	3.3	96.7
鉱業、採石業、砂利採取業	38	2.6	97.4
建設業	1,530	5.8	94.2
製造業	3,361	6.2	93.8
電気・ガス・熱供給・水道業	89	3.4	96.6
情報通信業	887	6.8	93.2
運輸業、郵便業	1,106	5.1	94.9
卸売業、小売業	3,273	4.5	95.5
金融業、保険業	496	11.9	88.1
不動産業、物品賃貸業	441	3.6	96.4
学術研究、専門・技術サービス業	810	12.6	87.4
宿泊業、飲食サービス業	1,085	6.5	93.5
生活関連サービス業、娯楽業	712	8.1	91.9
教育、学習支援業	1,094	12.7	87.3
医療、福祉	2,951	14.8	85.2
複合サービス事業	151	6.6	93.4
サービス業（他に分類されないもの）	1,456	6.9	93.1
全体	20,000	6.8	93.2

表 3.4.6.B 業種と仕事の裁量度のクロス集計

		(単位:%)	
	N	高ストレス	問題無し
農業・林業	490	4.1	95.9
漁業	30	6.7	93.3
鉱業、採石業、砂利採取業	38	7.9	92.1
建設業	1,530	4.6	95.4
製造業	3,361	6.7	93.3
電気・ガス・熱供給・水道業	89	6.7	93.3
情報通信業	887	5.9	94.1
運輸業、郵便業	1,106	9.1	90.9
卸売業、小売業	3,273	5.1	94.9
金融業、保険業	496	6.0	94.0
不動産業、物品賃貸業	441	4.5	95.5
学術研究、専門・技術サービス業	810	3.0	97.0
宿泊業、飲食サービス業	1,085	6.1	93.9
生活関連サービス業、娯楽業	712	5.1	94.9
教育、学習支援業	1,094	4.0	96.0
医療、福祉	2,951	6.3	93.7
複合サービス事業	151	5.3	94.7
サービス業（他に分類されないもの）	1,456	6.7	93.3
全体	20,000	5.8	94.2

表 3.4.6.C 業種と上司のサポート状況のクロス集計

	(単位:%)		
	N	不良	問題無し
農業・林業	490	34.9	65.1
漁業	30	26.7	73.3
鉱業、採石業、砂利採取業	38	15.8	84.2
建設業	1,530	18.2	81.8
製造業	3,361	16.3	83.7
電気・ガス・熱供給・水道業	89	15.7	84.3
情報通信業	887	16.8	83.2
運輸業、郵便業	1,106	16.3	83.7
卸売業、小売業	3,273	16.1	83.9
金融業、保険業	496	13.7	86.3
不動産業、物品賃貸業	441	26.3	73.7
学術研究、専門・技術サービス業	810	22.5	77.5
宿泊業、飲食サービス業	1,085	17.9	82.1
生活関連サービス業、娯楽業	712	25.6	74.4
教育、学習支援業	1,094	16.7	83.3
医療、福祉	2,951	13.4	86.6
複合サービス事業	151	11.9	88.1
サービス業（他に分類されないもの）	1,456	22.8	77.2
全体	20,000	17.8	82.2

3.4.7 睡眠の状況

『業種』と『睡眠の状況』についてクロス集計を行った(表 3.4.7)。

『仕事のある日の睡眠時間』は、6 時間未満と回答した者の割合は「宿泊業、飲食サービス業」(50.6%)、「運輸業、郵便業」(50.4%)、「複合サービス事業」(50.3%)の順に高かった。

表 3.4.7 業種と睡眠時間(平日)のクロス集計

		(単位:%)					
	N	5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間以上 7時間未満	7時間以上 8時間未満	8時間以上 9時間未満	9時間以上
農業・林業	490	8.6	24.1	34.3	25.3	5.1	2.7
漁業	30	16.7	20.0	33.3	26.7	3.3	-
鉱業、採石業、砂利採取業	38	15.8	26.3	26.3	18.4	7.9	5.3
建設業	1,530	11.0	32.9	33.7	17.8	3.6	1.0
製造業	3,361	12.8	35.3	33.7	14.6	3.0	0.6
電気・ガス・熱供給・水道業	89	12.4	28.1	31.5	21.3	5.6	1.1
情報通信業	887	11.6	30.3	37.5	16.3	3.5	0.7
運輸業、郵便業	1,106	16.6	33.8	31.2	14.4	3.5	0.5
卸売業、小売業	3,273	12.5	32.1	34.8	16.8	2.9	0.8
金融業、保険業	496	12.1	35.3	36.5	13.7	1.6	0.8
不動産業、物品賃貸業	441	9.3	30.8	36.1	19.7	3.4	0.7
学術研究、専門・技術サービス業	810	13.3	28.1	37.2	17.0	3.8	0.5
宿泊業、飲食サービス業	1,085	16.6	34.0	28.3	15.1	4.7	1.3
生活関連サービス業、娯楽業	712	11.8	33.0	31.6	17.6	4.2	1.8
教育、学習支援業	1,094	11.6	31.7	33.0	18.4	4.3	1.0
医療、福祉	2,951	13.8	33.4	32.5	15.6	3.5	1.1
複合サービス事業	151	15.2	35.1	29.8	11.3	6.0	2.6
サービス業（他に分類されないもの）	1,456	14.6	31.5	32.8	16.1	4.2	0.9
全体	20,000	13.0	32.7	33.5	16.4	3.5	0.9

3.4.8 ワーク・エンゲイジメントの状況

『業種』と『ワーク・エンゲイジメント』についてクロス集計を行った(表 3.4.8)。

『ワーク・エンゲイジメント』を「高い」と回答した者の割合は、「宿泊業、飲食サービス業」(14.1%)、「農業・林業」及び「生活関連サービス業、娯楽業」(各々13.5%)、「漁業」(13.3%)の順に高かった。

「低い」と回答した者の割合は、「電気・ガス・熱供給・水道業」(42.7%)、「情報通信業」(34.5%)、「鉱業、採石業、砂利採取業」(34.2%)の順に高かった。

表 3.4.8 業種とワーク・エンゲイジメントのクロス集計

		(単位:%)		
	N	0～6点 (低い)	7～11点 (中程度)	12～18点 (高い)
農業・林業	490	23.9	62.7	13.5
漁業	30	26.7	60.0	13.3
鉱業、採石業、砂利採取業	38	34.2	60.5	5.3
建設業	1,530	28.6	62.9	8.5
製造業	3,361	33.9	58.9	7.3
電気・ガス・熱供給・水道業	89	42.7	53.9	3.4
情報通信業	887	34.5	59.6	5.9
運輸業、郵便業	1,106	33.5	59.2	7.2
卸売業、小売業	3,273	30.3	62.1	7.7
金融業、保険業	496	33.1	57.7	9.3
不動産業、物品賃貸業	441	31.3	61.0	7.7
学術研究、専門・技術サービス業	810	25.4	65.4	9.1
宿泊業、飲食サービス業	1,085	26.2	59.7	14.1
生活関連サービス業、娯楽業	712	24.6	61.9	13.5
教育、学習支援業	1,094	22.4	64.7	12.9
医療、福祉	2,951	30.6	61.7	7.8
複合サービス事業	151	33.8	60.3	6.0
サービス業（他に分類されないもの）	1,456	30.8	59.1	10.2
全体	20,000	30.2	61.0	8.8

3.4.9 心理的安全性の状況

『業種』と『心理的安全性』についてクロス集計を行った(表 3.4.9)。

『心理的安全性』を「低い」と回答した割合は、「運輸業、郵便業」(13.7%)、「医療、福祉」(13.3%)、「製造業」(12.6%)の順に高かった。

表 3.4.9 業種と心理的安全性のクロス集計

(単位:%)					
	N	5～10点 (低い)	11～15点 (やや低い)	16～20点 (やや高い)	21～25点 (高い)
農業・林業	490	8.6	37.6	32.2	21.6
漁業	30	3.3	46.7	43.3	6.7
鉱業、採石業、砂利採取業	38	10.5	57.9	31.6	-
建設業	1,530	9.4	48.6	32.3	9.7
製造業	3,361	12.6	47.6	32.2	7.7
電気・ガス・熱供給・水道業	89	10.1	50.6	33.7	5.6
情報通信業	887	10.5	47.0	33.7	8.8
運輸業、郵便業	1,106	13.7	47.1	31.7	7.4
卸売業、小売業	3,273	11.1	45.8	33.2	9.9
金融業、保険業	496	10.5	48.2	34.9	6.5
不動産業、物品賃貸業	441	11.8	43.3	30.8	14.1
学術研究、専門・技術サービス業	810	10.5	41.1	33.0	15.4
宿泊業、飲食サービス業	1,085	11.5	41.7	33.5	13.4
生活関連サービス業、娯楽業	712	10.0	43.8	33.6	12.6
教育、学習支援業	1,094	10.1	44.0	33.9	12.0
医療、福祉	2,951	13.3	51.0	28.9	6.8
複合サービス事業	151	11.3	44.4	35.1	9.3
サービス業（他に分類されないもの）	1,456	12.2	46.3	30.9	10.6
全体	20,000	11.6	46.5	32.2	9.8

3.4.10 ハラスメントの経験状況

『業種』と『ハラスメントの経験状況』についてクロス集計を行った(表 3.4.10)。

「パワーハラスメント」の経験割合は、「漁業」(40.0%)、「鉱業、採石業、砂利採取業」(36.8%)、「医療、福祉」(26.8%)の順に高かった。

「セクシャルハラスメント」の経験割合は、「漁業」(33.3%)、「鉱業、採石業、砂利採取業」(21.1%)、「建設業」(10.3%)の順に高かった。

「カスタマーハラスメント」の経験割合は、「漁業」(30.0%)、「複合サービス事業」(11.9%)、「鉱業、採石業、砂利採取業」(10.5%)の順に高かった。

表 3.4.10 業種と各種ハラスメント経験率のクロス集計

(単位: %)

パワーハラスメント				カスタマーハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
農業・林業	490	15.5	84.5	農業・林業	490	3.5	96.5
漁業	30	40.0	60.0	漁業	30	30.0	70.0
鉱業、採石業、砂利採取業	38	36.8	63.2	鉱業、採石業、砂利採取業	38	10.5	89.5
建設業	1,530	21.6	78.4	建設業	1,530	7.0	93.0
製造業	3,361	22.3	77.7	製造業	3,361	3.9	96.1
電気・ガス・熱供給・水道業	89	18.0	82.0	電気・ガス・熱供給・水道業	89	6.7	93.3
情報通信業	887	14.5	85.5	情報通信業	887	3.5	96.5
運輸業、郵便業	1,106	19.5	80.5	運輸業、郵便業	1,106	5.5	94.5
卸売業、小売業	3,273	20.1	79.9	卸売業、小売業	3,273	6.4	93.6
金融業、保険業	496	19.0	81.0	金融業、保険業	496	7.9	92.1
不動産業、物品賃貸業	441	17.9	82.1	不動産業、物品賃貸業	441	5.4	94.6
学術研究、専門・技術サービス業	810	18.3	81.7	学術研究、専門・技術サービス業	810	5.8	94.2
宿泊業、飲食サービス業	1,085	20.2	79.8	宿泊業、飲食サービス業	1,085	8.3	91.7
生活関連サービス業、娯楽業	712	19.4	80.6	生活関連サービス業、娯楽業	712	7.2	92.8
教育、学習支援業	1,094	20.9	79.1	教育、学習支援業	1,094	4.6	95.4
医療、福祉	2,951	26.8	73.2	医療、福祉	2,951	7.9	92.1
複合サービス事業	151	21.9	78.1	複合サービス事業	151	11.9	88.1
サービス業（他に分類されないもの）	1,456	18.9	81.1	サービス業（他に分類されないもの）	1,456	5.8	94.2
全体	20,000	21.0	79.0	全体	20,000	6.1	93.9

セクシャルハラスメント				その他ハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
農業・林業	490	6.9	93.1	農業・林業	490	6.7	93.3
漁業	30	33.3	66.7	漁業	30	30.0	70.0
鉱業、採石業、砂利採取業	38	21.1	78.9	鉱業、採石業、砂利採取業	38	21.1	78.9
建設業	1,530	10.3	89.7	建設業	1,530	9.2	90.8
製造業	3,361	8.3	91.7	製造業	3,361	6.9	93.1
電気・ガス・熱供給・水道業	89	7.9	92.1	電気・ガス・熱供給・水道業	89	4.5	95.5
情報通信業	887	5.6	94.4	情報通信業	887	5.0	95.0
運輸業、郵便業	1,106	6.4	93.6	運輸業、郵便業	1,106	5.5	94.5
卸売業、小売業	3,273	6.9	93.1	卸売業、小売業	3,273	5.2	94.8
金融業、保険業	496	7.3	92.7	金融業、保険業	496	5.6	94.4
不動産業、物品賃貸業	441	7.0	93.0	不動産業、物品賃貸業	441	6.3	93.7
学術研究、専門・技術サービス業	810	5.2	94.8	学術研究、専門・技術サービス業	810	3.8	96.2
宿泊業、飲食サービス業	1,085	9.9	90.1	宿泊業、飲食サービス業	1,085	6.8	93.2
生活関連サービス業、娯楽業	712	8.1	91.9	生活関連サービス業、娯楽業	712	4.9	95.1
教育、学習支援業	1,094	6.9	93.1	教育、学習支援業	1,094	4.9	95.1
医療、福祉	2,951	9.4	90.6	医療、福祉	2,951	6.7	93.3
複合サービス事業	151	9.3	90.7	複合サービス事業	151	9.9	90.1
サービス業（他に分類されないもの）	1,456	7.3	92.7	サービス業（他に分類されないもの）	1,456	6.2	93.8
全体	20,000	8.0	92.0	全体	20,000	6.3	93.7

(注) 複数回答を得た結果。

3.5 雇用形態とのクロス集計

3.5.1 実労働時間数、所定時間外労働の生じる理由

『雇用形態』と『実労働時間数』・『所定時間外労働が生じる理由』についてクロス集計を行った(表 3.5.1.A、表 3.5.1.B)。

『過去 1 か月の平均的な 1 週間の実労働時間数』で「60 時間以上」と回答した割合は、「自営業主(雇い人あり)」(8.7%)、「会社などの役員」(6.0%)、「自家営業の手伝い」(5.3%)の順に高かった。

『所定時間外労働が生じる理由』は、「業務量が多いため」の回答割合は、「正社員・正職員」(40.1%)、「臨時・日雇社員」(30.0%)、「労働者派遣事業所の派遣社員」(29.9%)の順に高かった。「人員が不足しているため」の回答割合は、「正社員・正職員」(34.5%)、「契約社員・嘱託」(26.7%)、「パート・アルバイト」(25.5%)の順に高かった。「仕事の繁閑の差が大きいため」の回答割合は、「臨時・日雇社員」(30.0%)、「正社員・正職員」(20.5%)、「契約社員・嘱託」及び「自営業主(雇い人あり)」(各々19.8%)の順に高かった。

表 3.5.1.A 雇用形態と過去 1 か月の平均的な 1 週間の実労働時間数(総労働)

(単位:%)

	N	20時間未満	20～40時間 未満	40～60時間 未満	60時間以上
正社員・正職員	11,335	1.6	53.4	41.2	3.8
契約社員・嘱託	2,062	20.6	60.7	17.0	1.7
パート・アルバイト	1,143	48.3	44.6	5.1	2.0
臨時・日雇社員	30	56.7	26.7	13.3	3.3
労働者派遣事業所の派遣社員	659	22.6	63.7	13.1	0.6
会社などの役員	415	21.4	41.7	30.8	6.0
自営業主（雇い人あり）	506	25.1	34.2	32.0	8.7
自営業主（雇い人なし）	1,558	33.4	39.2	22.9	4.6
自家営業の手伝い	284	37.7	35.2	21.8	5.3
全体	17,992	12.0	51.7	32.6	3.6

表 3.5.1.B 雇用形態と所定時間外労働が生じる理由

(単位:%)

	N	業務量が多い ため	人員が不足し ているため	仕事の繁閑の 差が大きい ため	仕事の特性上、 所定労働時間外 も含めた長時間 の労働を行わな いとできない仕事 があるため	社員間の業務 の平準化がさ れていないため	ICTや機械化 等による生産 性向上が進ん でいないため	会社や管理職 から所定時間 外労働を求め られるため
正社員・正職員	13,343	40.1	34.5	20.5	13.7	10.1	3.1	4.0
契約社員・嘱託	2,062	25.8	26.7	19.8	10.5	5.4	1.2	2.8
パート・アルバイト	1,143	16.7	25.5	12.9	6.3	2.4	0.9	2.2
臨時・日雇社員	30	30.0	16.7	30.0	6.7	3.3	3.3	3.3
労働者派遣事業所の派遣社員	659	29.9	21.7	19.6	6.7	3.5	1.1	2.7
会社などの役員	415	21.2	19.5	16.1	13.0	4.1	1.2	2.9
自営業主（雇い人あり）	506	17.2	15.4	19.8	14.8	1.8	1.4	0.8
自営業主（雇い人なし）	1,558	11.4	4.7	14.6	8.3	0.4	0.6	0.5
自家営業の手伝い	284	11.6	11.6	19.4	6.3	1.1	0.7	-
全体	20,000	33.3	29.3	19.4	12.2	7.8	2.4	3.3

	顧客の提示す る納期が短い ため	顧客からの不 規則な要望に 対応する必要 があるため（予 期せぬ仕様変 更等）	受注時の契約 内容が不明確 である（文書 化されていな い）ため	労働時間の上 限について規 制がないため	その他	所定時間外 労働はない
正社員・正職員	3.6	9.0	1.6	-	3.9	22.0
契約社員・嘱託	1.8	7.1	0.8	-	5.7	35.3
パート・アルバイト	1.2	5.2	0.9	-	3.5	46.8
臨時・日雇社員	3.3	10.0	6.7	-	16.7	20.0
労働者派遣事業所の派遣社員	2.7	5.8	0.5	-	3.9	41.1
会社などの役員	4.3	9.6	1.9	-	3.4	40.7
自営業主（雇い人あり）	4.9	11.7	2.4	9.5	4.9	37.9
自営業主（雇い人なし）	2.9	8.0	0.8	10.8	9.4	51.2
自家営業の手伝い	-	4.2	0.7	7.0	9.2	52.1
全体	3.2	8.4	1.4	1.2	4.6	28.9

(注) 複数回答を得た結果。

3.5.2 抑うつ・不安傾向(K6)

『雇用形態』と『抑うつ・不安傾向(K6)』についてクロス集計を行った(表 3.5.2)。「13 点以上(重度の抑うつ・不安障害疑い)」の回答割合は、「臨時・日雇社員」(23.3%)、「労働者派遣事業所の派遣社員」(15.5%)、「正社員・正職員」(15.4%)の順に高かった。

表 3.5.2 雇用形態と抑うつ・不安傾向(K6)のクロス集計

		(単位:%)			
	N	0～4点 (抑うつ・不安傾向なし)	5～9点 (抑うつ・不安傾向あり)	10～12点 (抑うつ・不安障害疑い)	13点以上 (重度の抑うつ・不安障害疑い)
正社員・正職員	13,343	46.7	21.2	16.8	15.4
契約社員・嘱託	2,062	56.1	20.3	12.8	10.8
パート・アルバイト	1,143	53.9	19.6	15.0	11.5
臨時・日雇社員	30	36.7	23.3	16.7	23.3
労働者派遣事業所の派遣社員	659	49.2	22.6	12.7	15.5
会社などの役員	415	67.7	14.2	9.9	8.2
自営業主 (雇い人あり)	506	60.7	19.2	11.9	8.3
自営業主 (雇い人なし)	1,558	64.1	17.5	9.6	8.8
自家営業の手伝い	284	48.6	26.4	12.0	13.0
全体	20,000	50.3	20.6	15.2	13.8

3.5.3 主観的幸福感

『雇用形態』と『主観的幸福感』についてクロス集計を行った(表 3.5.3)。『主観的幸福感』が 3 点以下の割合は「労働者派遣事業所の派遣社員」(20.0%)、「自家営業の手伝い」(13.4%)、「正社員・正職員」(13.1%)の順に高かった。

表 3.5.3 雇用形態と主観的幸福感のクロス集計

	N	0点 (とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)
正社員・正職員	13,343	2.5	1.6	3.1	5.9	5.6	16.2	16.1	18.7	18.6	6.7	5.1
契約社員・嘱託	2,062	2.6	1.6	3.1	5.1	5.0	16.3	15.4	17.2	21.9	7.6	4.3
パート・アルバイト	1,143	2.0	1.0	3.1	4.4	5.4	14.7	13.0	19.3	20.6	10.2	6.1
臨時・日雇社員	30	6.7	3.3	-	-	3.3	20.0	10.0	30.0	13.3	10.0	3.3
労働者派遣事業所の派遣社員	659	3.6	3.2	4.9	8.3	6.8	18.2	14.0	16.4	14.9	4.9	4.9
会社などの役員	415	1.7	0.7	1.7	2.4	1.7	10.4	8.4	19.0	31.6	14.0	8.4
自営業主 (雇い人あり)	506	2.2	1.6	2.6	3.6	2.8	10.5	11.3	20.2	25.9	10.1	9.5
自営業主 (雇い人なし)	1,558	2.2	0.9	3.2	4.9	4.2	14.6	12.6	18.7	21.4	10.4	6.9
自家営業の手伝い	284	3.2	1.1	4.9	4.2	2.8	18.3	13.4	20.1	19.4	8.5	4.2
全体	20,000	2.5	1.5	3.2	5.5	5.3	15.9	15.2	18.6	19.6	7.5	5.4

3.5.4 現在の満足度(職業生活全体)

『雇用形態』と『現在の満足度(職業生活全体)』についてクロス集計を行った(表 3.5.4)。「不満」・「やや不満」の回答割合は、「臨時・日雇社員」(30.0%)、「正社員・正職員」(22.5%)、「労働者派遣事業所の派遣社員」(20.5%)の順に高かった。

表 3.5.4 雇用形態と現在の満足度(職業生活全体)のクロス集計

		(単位:%)				
	N	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
正社員・正職員	13,343	8.9	13.6	43.8	25.5	8.3
契約社員・嘱託	2,062	7.1	12.6	44.0	28.0	8.3
パート・アルバイト	1,143	5.8	10.1	46.5	25.6	12.1
臨時・日雇社員	30	13.3	16.7	40.0	23.3	6.7
労働者派遣事業所の派遣社員	659	6.2	14.3	47.2	23.8	8.5
会社などの役員	415	1.9	5.5	37.1	31.1	24.3
自営業主(雇い人あり)	506	3.2	8.3	44.9	26.3	17.4
自営業主(雇い人なし)	1,558	4.6	7.2	53.5	19.1	15.6
自家営業の手伝い	284	6.3	6.3	56.7	21.5	9.2
全体	20,000	7.8	12.4	44.9	25.3	9.7

3.5.5 主観的健康感

『雇用形態』と『主観的健康感』についてクロス集計を行った(表 3.5.5)。「よくない」・「あまりよくない」の回答割合は、「臨時・日雇社員」(26.6%)、「労働者派遣事業所の派遣社員」(22.3%)、「正社員・正職員」(22.2%)の順に高かった。

表 3.5.5 雇用形態と主観的健康感のクロス集計

		(単位:%)				
	N	よくない	あまりよくない	ふつう	まあよい	よい
正社員・正職員	13,343	3.7	18.5	50.0	20.2	7.6
契約社員・嘱託	2,062	2.9	18.6	49.8	23.0	5.8
パート・アルバイト	1,143	3.8	18.0	49.3	22.2	6.6
臨時・日雇社員	30	3.3	23.3	50.0	16.7	6.7
労働者派遣事業所の派遣社員	659	3.9	18.4	53.1	18.7	5.9
会社などの役員	415	3.4	13.5	47.5	25.5	10.1
自営業主(雇い人あり)	506	3.4	17.8	46.2	22.5	10.1
自営業主(雇い人なし)	1,558	3.5	14.7	46.4	25.7	9.8
自家営業の手伝い	284	3.5	15.5	48.9	24.3	7.7
全体	20,000	3.6	18.0	49.6	21.2	7.6

3.5.6 仕事のストレスとサポートの状況

『雇用形態』と『仕事のストレス』・『サポートの状況』についてクロス集計を行った(表 3.5.6.A～表 3.5.6.C)。

『仕事の要求度(量)』について、「高ストレス」の割合は、「正社員・正職員」(8.2%)、「パート・アルバイト」(5.1%)、「労働者派遣事業所の派遣社員」(4.4%)の順に高かった。

『仕事の裁量度』について、「高ストレス」の割合は、「臨時・日雇社員」(10.0%)、「労働者派遣事業所の派遣社員」(9.6%)、「パート・アルバイト」(8.9%)の順に高かった。

『上司のサポート』について、サポート状況が「不良」の割合は、「自営業主(雇い人なし)」(54.9%)、「自営業主(雇い人あり)」(28.1%)、「会社などの役員」(23.4%)の順に高かった。

表 3.5.6.A 雇用形態と仕事の要求度(量)のクロス集計

	(単位:%)		
	N	高ストレス	問題無し
正社員・正職員	13,343	8.2	91.8
契約社員・嘱託	2,062	3.6	96.4
パート・アルバイト	1,143	5.1	94.9
臨時・日雇社員	30	3.3	96.7
労働者派遣事業所の派遣社員	659	4.4	95.6
会社などの役員	415	4.3	95.7
自営業主(雇い人あり)	506	3.8	96.2
自営業主(雇い人なし)	1,558	3.0	97.0
自家営業の手伝い	284	3.2	96.8
全体	20,000	6.8	93.2

表 3.5.6.B 雇用形態と仕事の裁量度のクロス集計

		(単位:%)	
	N	高ストレス	問題無し
正社員・正職員	13,343	5.9	94.1
契約社員・嘱託	2,062	6.6	93.4
パート・アルバイト	1,143	8.9	91.1
臨時・日雇社員	30	10.0	90.0
労働者派遣事業所の派遣社員	659	9.6	90.4
会社などの役員	415	1.7	98.3
自営業主（雇い人あり）	506	2.2	97.8
自営業主（雇い人なし）	1,558	2.8	97.2
自家営業の手伝い	284	4.9	95.1
全体	20,000	5.8	94.2

表 3.5.6.C 雇用形態と上司のサポート状況のクロス集計

		(単位:%)	
	N	不良	問題無し
正社員・正職員	13,343	13.8	86.2
契約社員・嘱託	2,062	12.8	87.2
パート・アルバイト	1,143	13.4	86.6
臨時・日雇社員	30	13.3	86.7
労働者派遣事業所の派遣社員	659	19.3	80.7
会社などの役員	415	23.4	76.6
自営業主（雇い人あり）	506	28.1	71.9
自営業主（雇い人なし）	1,558	54.9	45.1
自家営業の手伝い	284	22.9	77.1
全体	20,000	17.8	82.2

3.5.7 睡眠の状況

『雇用形態』と『睡眠の状況』についてクロス集計を行った(表 3.5.7)。

『仕事のある日の睡眠時間』は、6 時間未満と回答した者の割合は「労働者派遣事業所の派遣社員」(51.6%)、「契約社員・嘱託」(50.0%)、「正社員・正職員」(46.8%)の順に高かった。

表 3.5.7 雇用形態と睡眠時間(平日)のクロス集計

		(単位:%)					
	N	5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間以上 7時間未満	7時間以上 8時間未満	8時間以上 9時間未満	9時間以上
正社員・正職員	13,343	13.4	33.4	33.8	15.5	3.1	0.8
契約社員・嘱託	2,062	15.8	34.2	31.8	14.0	3.4	0.8
パート・アルバイト	1,143	11.8	31.1	32.8	17.9	4.5	1.8
臨時・日雇社員	30	6.7	36.7	30.0	13.3	10.0	3.3
労働者派遣事業所の派遣社員	659	14.1	37.5	32.8	14.0	1.4	0.3
会社などの役員	415	9.4	31.8	35.7	17.3	4.8	1.0
自営業主(雇い人あり)	506	11.1	29.6	31.0	20.9	5.9	1.4
自営業主(雇い人なし)	1,558	8.4	25.5	34.1	23.7	6.1	2.1
自家営業の手伝い	284	11.6	28.5	33.5	20.8	5.3	0.4
全体	20,000	13.0	32.7	33.5	16.4	3.5	0.9

3.5.8 ワーク・エンゲイジメントの状況

『雇用形態』と『ワーク・エンゲイジメント』についてクロス集計を行った(表 3.5.8)。

『ワーク・エンゲイジメント』を「高い」と回答した者の割合は、「自営業主(雇い人あり)」(25.1%)、「会社などの役員」(18.6%)、「自営業主(雇い人なし)」(17.5%)の順に高かった。

「低い」と回答した者の割合は、「臨時・日雇社員」(43.3%)、「労働者派遣事業所の派遣社員」(38.5%)、「正社員・正職員」(33.1%)の順に高かった。

表 3.5.8 雇用形態とワーク・エンゲイジメントのクロス集計

		(単位:%)		
	N	0～6点 (低い)	7～11点 (中程度)	12～18点 (高い)
正社員・正職員	13,343	33.1	59.6	7.3
契約社員・嘱託	2,062	29.0	63.5	7.5
パート・アルバイト	1,143	24.1	67.7	8.2
臨時・日雇社員	30	43.3	50.0	6.7
労働者派遣事業所の派遣社員	659	38.5	55.1	6.4
会社などの役員	415	15.2	66.3	18.6
自営業主(雇い人あり)	506	11.5	63.4	25.1
自営業主(雇い人なし)	1,558	17.7	64.8	17.5
自家営業の手伝い	284	29.2	64.4	6.3
全体	20,000	30.2	61.0	8.8

3.5.9 心理的安全性の状況

『雇用形態』と『心理的安全性』についてクロス集計を行った(表 3.5.9)。

『心理的安全性』を「低い」と回答した割合は、「労働者派遣事業所の派遣社員」(17.3%)、「パート・アルバイト」(13.5%)、「正社員・正職員」(12.3%)の順に高かった。

表 3.5.9 雇用形態と心理的安全性のクロス集計

		(単位:%)			
	N	5～10点 (低い)	11～15点 (やや低い)	16～20点 (やや高い)	21～25点 (高い)
正社員・正職員	13,343	12.3	48.6	31.9	7.1
契約社員・嘱託	2,062	12.0	48.3	32.9	6.8
パート・アルバイト	1,143	13.5	45.4	32.9	8.2
臨時・日雇社員	30	6.7	56.7	36.7	-
労働者派遣事業所の派遣社員	659	17.3	49.8	28.5	4.4
会社などの役員	415	3.6	30.1	36.1	30.1
自営業主（雇い人あり）	506	3.6	30.2	37.5	28.7
自営業主（雇い人なし）	1,558	6.7	36.3	30.4	26.6
自家営業の手伝い	284	5.3	37.7	37.7	19.4
全体	20,000	11.6	46.5	32.2	9.8

3.5.10 ハラスメントの経験状況

『雇用形態』と『ハラスメントの経験状況』についてクロス集計を行った(表 3.5.10)。

「パワーハラスメント」の経験割合は、「臨時・日雇社員」(43.3%)、「正社員・正職員」(24.0%)、「契約社員・嘱託」(21.3%)の順に高かった。

「セクシャルハラスメント」の経験割合は、「臨時・日雇社員」(20.0%)、「正社員・正職員」(9.5%)、「パート・アルバイト」(7.6%)の順に高かった。

「カスタマーハラスメント」の経験割合は、「臨時・日雇社員」(13.3%)、「自営業主(雇い人あり)」(7.7%)、「正社員・正職員」(6.5%)の順に高かった。

表 3.5.10 雇用形態と各種ハラスメント経験率のクロス集計

(単位:%)

パワーハラスメント				カスタマーハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
正社員・正職員	13,343	24.0	76.0	正社員・正職員	13,343	6.5	93.5
契約社員・嘱託	2,062	21.3	78.7	契約社員・嘱託	2,062	5.4	94.6
パート・アルバイト	1,143	20.6	79.4	パート・アルバイト	1,143	5.3	94.7
臨時・日雇社員	30	43.3	56.7	臨時・日雇社員	30	13.3	86.7
労働者派遣事業所の派遣社員	659	19.6	80.4	労働者派遣事業所の派遣社員	659	3.2	96.8
会社などの役員	415	8.9	91.1	会社などの役員	415	4.8	95.2
自営業主(雇い人あり)	506	7.3	92.7	自営業主(雇い人あり)	506	7.7	92.3
自営業主(雇い人なし)	1,558	5.5	94.5	自営業主(雇い人なし)	1,558	4.9	95.1
自家営業の手伝い	284	9.2	90.8	自家営業の手伝い	284	1.8	98.2
全体	20,000	21.0	79.0	全体	20,000	6.1	93.9

セクシャルハラスメント				その他ハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
正社員・正職員	13,343	9.5	90.5	正社員・正職員	13,343	7.3	92.7
契約社員・嘱託	2,062	5.8	94.2	契約社員・嘱託	2,062	5.6	94.4
パート・アルバイト	1,143	7.6	92.4	パート・アルバイト	1,143	6.8	93.2
臨時・日雇社員	30	20.0	80.0	臨時・日雇社員	30	23.3	76.7
労働者派遣事業所の派遣社員	659	4.2	95.8	労働者派遣事業所の派遣社員	659	3.8	96.2
会社などの役員	415	2.4	97.6	会社などの役員	415	2.9	97.1
自営業主(雇い人あり)	506	4.2	95.8	自営業主(雇い人あり)	506	2.6	97.4
自営業主(雇い人なし)	1,558	3.1	96.9	自営業主(雇い人なし)	1,558	1.7	98.3
自家営業の手伝い	284	2.8	97.2	自家営業の手伝い	284	2.5	97.5
全体	20,000	8.0	92.0	全体	20,000	6.3	93.7

(注) 複数回答を得た結果。

3.6 実労働時間数とのクロス集計

3.6.1 所定時間外労働の生じる理由

『実労働時間数』と『所定時間外労働が生じる理由』についてクロス集計を行った(表 3.6.1)。

『所定時間外労働が生じる理由』は、「60 時間以上」における回答割合は、「業務量が多いため」(46.1%)、「人員が不足しているため」(42.8%)、「仕事の特性上、所定労働時間外も含めた長時間の労働を行わないとできない仕事があるため」(23.4%)の順に高かった。「40～60 時間未満」における回答割合は、「業務量が多いため」(49.1%)、「人員が不足しているため」(39.1%)、「仕事の繁閑の差が大きいため」(22.3%)の順に高かった。

表 3.6.1 実労働時間数と所定時間外労働が生じる理由

(単位:%)

	N	業務量が多い ため	人員が不足し ているため	仕事の繁閑の 差が大きいため	仕事の特性上、 所定労働時間外 も含めた長時間 の労働を行わな いとできない仕事 があるため	社員間の業務 の平準化がさ れていないため	ICTや機械化 等による生産 性向上が進ん でいないため	会社や管理職 から所定時間 外労働を求め られるため
20時間未満	2,318	16.7	19.1	14.5	7.9	3.5	1.3	2.0
20～40時間未満	9,736	27.4	24.7	18.9	9.6	5.9	1.8	2.8
40～60時間未満	5,433	49.1	39.1	22.3	18.1	12.6	3.4	4.1
60時間以上	505	46.1	42.8	22.8	23.4	8.3	3.2	5.9
全体	20,000	33.3	29.3	19.4	12.2	7.8	2.4	3.3

	顧客の提示す る納期が短い ため	顧客からの不 規則な要望に 対応する必要 があるため(予 期せぬ仕様変 更等)	受注時の契約 内容が不明確 である(文書 化されていな い)ため	労働時間の上 限について規 制がないため	その他	所定時間外 労働はない
20時間未満	1.9	7.1	1.3	2.8	5.8	46.0
20～40時間未満	2.6	7.2	1.0	0.8	4.6	35.3
40～60時間未満	4.5	11.0	1.8	1.2	4.4	12.6
60時間以上	3.8	11.7	2.6	5.5	5.3	15.8
全体	3.2	8.4	1.4	1.2	4.6	28.9

(注) 複数回答を得た結果。

3.6.2 抑うつ・不安傾向(K6)

『実労働時間数』と『抑うつ・不安傾向(K6)』についてクロス集計を行った(表 3.6.2)。「13 点以上(重度の抑うつ・不安障害疑い)」の回答割合は、「60 時間以上」(21.2%)、「40～60 時間未満」(14.5%)、「20～40 時間未満」(12.7%)の順に高かった。

表 3.6.2 実労働時間数と抑うつ・不安傾向(K6)のクロス集計

		(単位:%)			
	N	0～4点 (抑うつ・不安傾向なし)	5～9点 (抑うつ・不安傾向あり)	10～12点 (抑うつ・不安障害疑い)	13点以上 (重度の抑うつ・不安障害疑い)
20時間未満	2,318	54.7	19.5	14.0	11.9
20～40時間未満	9,736	52.5	20.4	14.5	12.7
40～60時間未満	5,433	49.2	21.4	14.9	14.5
60時間以上	505	41.8	19.6	17.4	21.2
全体	20,000	50.3	20.6	15.2	13.8

3.6.3 主観的幸福感

『実労働時間数』と『主観的幸福感』についてクロス集計を行った(表 3.6.3)。「主観的幸福感」が 3 点以下の割合は「60 時間以上」(22.4%)、「40～60 時間未満」(14.4%)、「20～40 時間未満」(12.0%)の順に高かった。

表 3.6.3 実労働時間数と主観的幸福感のクロス集計

		(単位:%)										
	N	0点 (とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)
20時間未満	2,318	2.0	1.4	2.7	4.5	4.2	14.9	13.3	18.6	21.2	10.2	7.1
20～40時間未満	9,736	2.2	1.5	2.9	5.4	5.1	15.2	15.3	18.5	20.6	7.7	5.6
40～60時間未満	5,433	2.7	1.7	3.9	6.1	5.9	16.3	15.7	19.0	18.2	6.5	3.9
60時間以上	505	6.9	3.4	4.4	7.7	6.1	17.6	12.7	17.0	12.5	6.5	5.1
全体	20,000	2.5	1.5	3.2	5.5	5.3	15.9	15.2	18.6	19.6	7.5	5.4

3.6.4 現在の満足度(職業生活全体)

『実労働時間数』と『現在の満足度(職業生活全体)』についてクロス集計を行った(表 3.6.4)。「不満」・「やや不満」の回答割合は、「60 時間以上」(28.3%)、「40～60 時間未満」(23.2%)、「20～40 時間未満」(18.3%)の順に高かった。

表 3.6.4 実労働時間数と現在の満足度(職業生活全体)のクロス集計

		(単位:%)				
	N	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
20時間未満	2,318	6.7	9.2	47.5	24.3	12.3
20～40時間未満	9,736	6.3	12.0	44.9	26.3	10.5
40～60時間未満	5,433	9.1	14.1	44.3	25.3	7.3
60時間以上	505	15.0	13.3	40.6	20.0	11.1
全体	20,000	7.8	12.4	44.9	25.3	9.7

3.6.5 主観的健康感

『実労働時間数』と『主観的健康感』についてクロス集計を行った(表 3.6.5)。「よくない」・「あまりよくない」の回答割合は、「60 時間以上」(30.5%)、「40～60 時間未満」(22.9%)、「20 時間未満」(20.8%)の順に高かった。

表 3.6.5 実労働時間数と主観的健康感のクロス集計

		(単位:%)				
	N	よくない	あまりよくない	ふつう	まあよい	よい
20時間未満	2,318	4.1	16.7	48.0	23.0	8.2
20～40時間未満	9,736	3.1	17.3	49.7	21.9	8.0
40～60時間未満	5,433	3.6	19.3	50.5	20.0	6.6
60時間以上	505	7.5	23.0	43.4	18.6	7.5
全体	20,000	3.6	18.0	49.6	21.2	7.6

3.6.6 仕事のストレスとサポートの状況

『実労働時間数』と『仕事のストレス』・『サポートの状況』についてクロス集計を行った(表 3.6.6.A～表 3.6.6.C)。

『仕事の要求度(量)』について、「高ストレス」の割合は、「60 時間以上」(19.6%)、「40～60 時間未満」(10.3%)、「20 時間未満」(4.5%)の順に高かった。

『仕事の裁量度』について、「高ストレス」の割合は、「60 時間以上」(10.7%)、「20 時間未満」(5.9%)、「40～60 時間未満」(5.7%)の順に高かった。

『上司のサポート』について、サポート状況が「不良」の割合は、「60 時間以上」(25.5%)、「20 時間未満」(24.8%)、「40～60 時間未満」(18.1%)の順に高かった。

表 3.6.6.A 実労働時間数と仕事の要求度(量)のクロス集計

	(単位:%)		
	N	高ストレス	問題無し
20時間未満	2,318	4.5	95.5
20～40時間未満	9,736	4.4	95.6
40～60時間未満	5,433	10.3	89.7
60時間以上	505	19.6	80.4
全体	20,000	6.8	93.2

表 3.6.6.B 実労働時間数と仕事の裁量度のクロス集計

	(単位:%)		
	N	高ストレス	問題無し
20時間未満	2,318	5.9	94.1
20～40時間未満	9,736	5.5	94.5
40～60時間未満	5,433	5.7	94.3
60時間以上	505	10.7	89.3
全体	20,000	5.8	94.2

表 3.6.6.C 実労働時間数と上司のサポート状況のクロス集計

		(単位:%)	
	N	不良	問題無し
20時間未満	2,318	24.8	75.2
20～40時間未満	9,736	16.2	83.8
40～60時間未満	5,433	18.1	81.9
60時間以上	505	25.5	74.5
全体	20,000	17.8	82.2

3.6.7 睡眠の状況

『実労働時間数』と『睡眠の状況』についてクロス集計を行った(表 3.6.7.A～表 3.6.7.E)。

『仕事のある日の睡眠時間』は、「60 時間以上」では「5 時間以上 6 時間未満」(33.5%)、「40 時間～60 時間未満」では「5 時間以上 6 時間未満」(36.4%)、「20 時間～40 時間未満」では「6 時間以上 7 時間未満」(35.3%)の回答割合が最も高く、6 時間未満と回答した者が「60 時間以上」では 61.0%、「40 時間～60 時間未満」では 51.5%、「20 時間～40 時間未満」では 43.2%あった。

『仕事のある日の理想の睡眠時間』は、「60 時間以上」では「7 時間以上 8 時間未満」(37.0%)、「40 時間～60 時間未満」では「7 時間以上 8 時間未満」(40.8%)の回答割合が最も高かった。

『理想の睡眠時間との乖離(仕事のある日)』は、「60 時間以上」では「理想時間以上」(33.9%)、「40 時間～60 時間未満」では「1 時間の不足」(38.3%)、「20 時間～40 時間未満」では「1 時間の不足」(39.1%)の回答割合が最も高かった。

『睡眠休息感』は、「全く取れていない」・「あまり取れていない」と回答した者が「60 時間以上」では 63.8%、「40 時間～60 時間未満」では 54.9%、「20 時間～40 時間未満」では 45.1%であった。「まあ取れている」・「充分取れている」と回答した者が「60 時間以上」では 36.2%、「40 時間～60 時間未満」では 45.1%、「20 時間～40 時間未満」では 54.9%であった。

『睡眠の質』は、「非常に悪い」・「かなり悪い」と回答した者が「60 時間以上」では 60.2%、「40 時間～60 時間未満」では 57.1%、「20 時間～40 時間未満」では 49.2%であった。「かなりよい」・「非常によい」と回答した者が「60 時間以上」では 39.8%、「40 時間～60 時間未満」では 42.9%、「20 時間～40 時間未満」では 50.8%であった。

表 3.6.7.A 実労働時間数と睡眠時間(平日)のクロス集計

(単位:%)

	N	5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間以上 7時間未満	7時間以上 8時間未満	8時間以上 9時間未満	9時間以上
20時間未満	2,318	12.2	27.0	33.0	20.3	5.6	1.9
20～40時間未満	9,736	11.2	32.0	35.3	17.1	3.5	0.9
40～60時間未満	5,433	15.1	36.4	31.9	13.6	2.5	0.5
60時間以上	505	27.5	33.5	23.0	11.1	3.0	2.0
全体	20,000	13.0	32.7	33.5	16.4	3.5	0.9

表 3.6.7.B 実労働時間数と理想の睡眠時間(平日)のクロス集計

(単位:%)

	N	5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間以上 7時間未満	7時間以上 8時間未満	8時間以上 9時間未満	9時間以上
20時間未満	2,318	4.1	8.8	29.3	40.2	13.8	3.9
20～40時間未満	9,736	2.4	8.7	30.3	41.9	13.1	3.6
40～60時間未満	5,433	2.5	9.4	31.1	40.8	12.5	3.7
60時間以上	505	7.1	8.9	28.7	37.0	13.1	5.1
全体	20,000	2.9	9.2	30.2	40.9	13.1	3.7

表 3.6.7.C 実労働時間数と理想の睡眠時間との乖離(平日)のクロス集計

(単位:%)

	N	5時間の 不足	4時間の 不足	3時間の 不足	2時間の 不足	1時間の 不足	理想時間 以上
20時間未満	2,318	0.3	1.3	3.6	14.3	34.0	46.5
20～40時間未満	9,736	0.2	1.3	4.6	17.9	39.1	36.9
40～60時間未満	5,433	0.6	1.7	6.5	21.8	38.3	31.1
60時間以上	505	1.6	3.8	8.1	24.2	28.5	33.9
全体	20,000	0.4	1.5	5.1	18.7	37.5	36.8

表 3.6.7.D 実労働時間数と睡眠休息感のクロス集計

(単位:%)

	N	全く取れて いない	あまり取れて いない	まあ取れて いる	充分取れて いる
20時間未満	2,318	8.9	30.6	48.4	12.0
20～40時間未満	9,736	8.7	36.4	46.7	8.2
40～60時間未満	5,433	12.2	42.7	40.1	5.0
60時間以上	505	22.4	41.4	30.5	5.7
全体	20,000	10.5	37.9	44.0	7.6

表 3.6.7.E 実労働時間数と睡眠の質のクロス集計

		(単位:%)			
	N	非常に悪い	かなり悪い	かなりよい	非常によい
20時間未満	2,318	8.2	36.7	49.5	5.7
20～40時間未満	9,736	7.7	41.5	46.5	4.3
40～60時間未満	5,433	10.2	46.9	40.1	2.8
60時間以上	505	16.6	43.6	36.8	3.0
全体	20,000	8.9	42.8	44.3	4.0

3.6.8 ワーク・エンゲイジメントの状況

『実労働時間数』と『ワーク・エンゲイジメント』についてクロス集計を行った(表 3.6.8)。

『ワーク・エンゲイジメント』を「高い」と回答した者の割合は、「60 時間以上」(14.1%)、「20 時間未満」(12.6%)、「40～60 時間未満」(8.5%)の順に高かった。

「低い」と回答した者の割合は、「20～40 時間未満」(31.2%)、「40～60 時間未満」(29.5%)、「60 時間以上」(26.5%)の順に高かった。

表 3.6.8 実労働時間数とワーク・エンゲイジメントのクロス集計

		(単位:%)		
	N	0～6点 (低い)	7～11点 (中程度)	12～18点 (高い)
20時間未満	2,318	24.5	62.9	12.6
20～40時間未満	9,736	31.2	60.5	8.2
40～60時間未満	5,433	29.5	62.0	8.5
60時間以上	505	26.5	59.4	14.1
全体	20,000	30.2	61.0	8.8

3.6.9 心理的安全性の状況

『実労働時間数』と『心理的安全性』についてクロス集計を行った(表 3.6.9)。

『心理的安全性』を「低い」と回答した割合は、「60 時間以上」(17.2%)、「40～60 時間未満」(12.0%)、「20～40 時間未満」(11.0%)の順に高かった。

表 3.6.9 実労働時間数と心理的安全性のクロス集計

(単位:%)					
	N	5～10点 (低い)	11～15点 (やや低い)	16～20点 (やや高い)	21～25点 (高い)
20時間未満	2,318	10.7	42.3	32.4	14.6
20～40時間未満	9,736	11.0	46.8	32.7	9.6
40～60時間未満	5,433	12.0	46.3	32.6	9.1
60時間以上	505	17.2	41.8	29.3	11.7
全体	20,000	11.6	46.5	32.2	9.8

3.6.10 ハラスメントの経験状況

『実労働時間数』と『ハラスメントの経験状況』についてクロス集計を行った(表 3.6.10)。

「パワーハラスメント」の経験割合は、「60 時間以上」(26.3%)、「40～60 時間未満」(22.6%)、「20～40 時間未満」(19.3%)の順に高かった。

「セクシャルハラスメント」の経験割合は、「60 時間以上」(8.3%)、「40～60 時間未満」(7.4%)、「20 時間未満」(7.3%)の順に高かった。

「カスタマーハラスメント」の経験割合は、「60 時間以上」(8.1%)、「40～60 時間未満」(6.6%)、「20 時間未満」(6.0%)の順に高かった。

表 3.6.10 実労働時間数と各種ハラスメント経験率のクロス集計

(単位:%)

パワーハラスメント				カスタマーハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
20時間未満	2,318	16.7	83.3	20時間未満	2,318	6.0	94.0
20～40時間未満	9,736	19.3	80.7	20～40時間未満	9,736	5.0	95.0
40～60時間未満	5,433	22.6	77.4	40～60時間未満	5,433	6.6	93.4
60時間以上	505	26.3	73.7	60時間以上	505	8.1	91.9
全体	20,000	21.0	79.0	全体	20,000	6.1	93.9

セクシャルハラスメント				その他ハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
20時間未満	2,318	7.3	92.7	20時間未満	2,318	6.5	93.5
20～40時間未満	9,736	7.0	93.0	20～40時間未満	9,736	5.4	94.6
40～60時間未満	5,433	7.4	92.6	40～60時間未満	5,433	5.6	94.4
60時間以上	505	8.3	91.7	60時間以上	505	7.9	92.1
全体	20,000	8.0	92.0	全体	20,000	6.3	93.7

(注) 複数回答を得た結果。

3.7 上司のサポート状況とのクロス集計

3.7.1 実労働時間数、所定時間外労働の生じる理由

『上司のサポート状況』と『実労働時間数』・『所定時間外労働が生じる理由』についてクロス集計を行った(表 3.7.1.A、表 3.7.1.B)。

『過去 1 か月の平均的な 1 週間の実労働時間数』で「60 時間以上」と回答した割合は、「不良」(4.9%)、「問題無し」(3.3%)の順に高かった。

『所定時間外労働が生じる理由』は、「不良」では「業務量が多いため」(29.0%)、「人員が不足しているため」(23.8%)、「仕事の繁閑の差が大きいため」(16.6%)の順に高く、「問題無し」では「業務量が多いため」(34.2%)、「人員が不足しているため」(30.4%)、「仕事の繁閑の差が大きいため」(20.0%)の順に高かった。

表 3.7.1.A 上司のサポート状況と過去 1 か月の平均的な 1 週間の実労働時間数
(総労働)

(単位:%)

	N	20時間未満	20～40時間 未満	40～60時間 未満	60時間以上
不良	3,267	16.6	46.5	31.9	4.9
問題無し	14,725	11.0	52.8	32.8	3.3
全体	17,992	12.0	51.7	32.6	3.6

表 3.7.1.B 上司のサポート状況と所定時間外労働が生じる理由

(単位:%)

N	業務量が多い ため	人員が不足し ているため	仕事の繁閑の 差が大きいため	仕事の特性上、 所定労働時間外 も含めた長時間 の労働を行わな いとできない仕事 があるため	社員間の業務 の平準化がさ れていないため	ICTや機械化 等による生産 性向上が進ん でいないため	会社や管理職 から所定時間 外労働を求め られるため
不良	3,552	29.0	23.8	16.6	11.1	7.9	2.4
問題無し	16,448	34.2	30.4	20.0	12.4	7.7	2.4
全体	20,000	33.3	29.3	19.4	12.2	7.8	2.4

	顧客の提示す る納期が短い ため	顧客からの不 規則な要望に 対応する必要 があるため（予 期せぬ仕様変 更等）	受注時の契約 内容が不明確 である（文書 化されていな い）ため	労働時間の上 限について規 制がないため	その他	所定時間外 労働はない
不良	3.0	8.1	1.8	2.9	5.6	37.1
問題無し	3.2	8.5	1.3	0.8	4.4	27.1
全体	3.2	8.4	1.4	1.2	4.6	28.9

(注) 複数回答を得た結果。

3.7.2 抑うつ・不安傾向(K6)

『上司のサポート状況』と『抑うつ・不安傾向(K6)』についてクロス集計を行った(表 3.7.2)。「13 点以上(重度の抑うつ・不安障害疑い)」の回答割合は、「不良」(23.5%)、「問題無し」(11.7%)の順に高かった。

表 3.7.2 上司のサポート状況と抑うつ・不安傾向(K6)のクロス集計

(単位:%)					
	N	0～4点 (抑うつ・不安傾向なし)	5～9点 (抑うつ・不安傾向あり)	10～12点 (抑うつ・不安障害疑い)	13点以上 (重度の抑うつ・不安障害疑い)
不良	3,552	42.9	18.0	15.6	23.5
問題無し	16,448	51.9	21.2	15.2	11.7
全体	20,000	50.3	20.6	15.2	13.8

3.7.3 主観的幸福感

『上司のサポート状況』と『主観的幸福感』についてクロス集計を行った(表 3.7.3)。「主観的幸福感」が 3 点以下の割合は「不良」(26.0%)、「問題無し」(9.8%)の順に高かった。

表 3.7.3 上司のサポート状況と主観的幸福感のクロス集計

(単位:%)											
	N	0点 (とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点 10点 (とても幸せ)
不良	3,552	7.6	3.8	6.2	8.4	6.6	18.8	13.2	13.9	13.0	4.6 3.9
問題無し	16,448	1.4	1.0	2.5	4.9	4.9	15.2	15.6	19.6	21.0	8.1 5.7
全体	20,000	2.5	1.5	3.2	5.5	5.3	15.9	15.2	18.6	19.6	7.5 5.4

3.7.4 現在の満足度(職業生活全体)

『上司のサポート状況』と『現在の満足度(職業生活全体)』についてクロス集計を行った(表 3.7.4)。「不満」・「やや不満」の回答割合は、「不良」(35.9%)、「問題無し」(16.8%)の順に高かった。

表 3.7.4 上司のサポート状況と現在の満足度(職業生活全体)のクロス集計

		(単位:%)				
	N	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足
不良	3,552	20.8	15.1	46.9	10.6	6.5
問題無し	16,448	5.0	11.8	44.5	28.4	10.4
全体	20,000	7.8	12.4	44.9	25.3	9.7

3.7.5 主観的健康感

『上司のサポート状況』と『主観的健康感』についてクロス集計を行った(表 3.7.5)。「よくない」・「あまりよくない」の回答割合は、「不良」(30.2%)、「問題無し」(19.7%)の順に高かった。

表 3.7.5 上司のサポート状況と主観的健康感のクロス集計

		(単位:%)				
	N	よくない	あまりよくない	ふつう	まあよい	よい
不良	3,552	8.1	22.1	48.5	15.6	5.7
問題無し	16,448	2.6	17.1	49.9	22.4	8.0
全体	20,000	3.6	18.0	49.6	21.2	7.6

3.7.6 仕事のストレスとサポートの状況

『上司のサポート状況』と『仕事のストレス』についてクロス集計を行った(表 3.7.6.A、表 3.7.6.B)。

『仕事の要求度(量)』について、「不良」(12.3%)、「問題無し」(5.6%)の順に高かった。

『仕事の裁量度』について、「不良」(13.4%)、「問題無し」(4.2%)の順に高かった。

表 3.7.6.A 上司のサポート状況と仕事の要求度(量)のクロス集計

(単位:%)			
	N	高ストレス	問題無し
不良	3,552	12.3	87.7
問題無し	16,448	5.6	94.4
全体	20,000	6.8	93.2

表 3.7.6.B 上司のサポート状況と仕事の裁量度のクロス集計

(単位:%)			
	N	高ストレス	問題無し
不良	3,552	13.4	86.6
問題無し	16,448	4.2	95.8
全体	20,000	5.8	94.2

3.7.7 ワーク・エンゲイジメントの状況

『上司のサポート状況』と『ワーク・エンゲイジメント』についてクロス集計を行った(表 3.7.7)。

「不良」では、「0～6 点(低い)」(48.2%)、「7～11 点(中程度)」(44.2%)、「12～18 点(高い)」(7.6%)の順に回答割合が高かった。

「問題無し」では、「7～11 点(中程度)」(64.7%)、「0～6 点(低い)」(26.3%)、「12～18 点(高い)」(9.1%)の順に回答割合が高かった。

表 3.7.7 上司のサポート状況とワーク・エンゲイジメントのクロス集計

(単位:%)				
	N	0～6点 (低い)	7～11点 (中程度)	12～18点 (高い)
不良	3,552	48.2	44.2	7.6
問題無し	16,448	26.3	64.7	9.1
全体	20,000	30.2	61.0	8.8

3.7.8 心理的安全性の状況

『上司のサポート状況』と『心理的安全性』についてクロス集計を行った(表 3.7.8)。

「不良」では、「11～15 点(やや低い)」(42.7%)、「5～10 点(低い)」(32.4%)、「16～20 点(やや高い)」(15.5%)の順に回答割合が高かった。

「問題無し」では、「11～15 点(やや低い)」(47.3%)、「16～20 点(やや高い)」(35.7%)、「21～25 点(高い)」(9.9%)の順に回答割合が高かった。

表 3.7.8 上司のサポート状況と心理的安全性のクロス集計

(単位:%)					
	N	5～10点 (低い)	11～15点 (やや低い)	16～20点 (やや高い)	21～25点 (高い)
不良	3,552	32.4	42.7	15.5	9.5
問題無し	16,448	7.1	47.3	35.7	9.9
全体	20,000	11.6	46.5	32.2	9.8

3.7.9 ハラスメントの経験状況

『上司のサポート状況』と『ハラスメントの経験状況』についてクロス集計を行った(表 3.7.9)。

「不良」では、「パワーハラスメント」(29.9%)、「セクシャルハラスメント」(8.4%)、「その他のハラスメント」(6.7%)の順に回答割合が高かった。

「問題無し」では、「パワーハラスメント」(19.1%)、「セクシャルハラスメント」(7.9%)、「その他のハラスメント」(6.2%)の順に回答割合が高かった。

表 3.7.9 上司のサポート状況と各種ハラスメント経験率のクロス集計

(単位:%)

パワーハラスメント				カスタマーハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
不良	3,552	29.9	70.1	不良	3,552	5.9	94.1
問題無し	16,448	19.1	80.9	問題無し	16,448	6.1	93.9
全体	20,000	21.0	79.0	全体	20,000	6.1	93.9

セクシャルハラスメント				その他ハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
不良	3,552	8.4	91.6	不良	3,552	6.7	93.3
問題無し	16,448	7.9	92.1	問題無し	16,448	6.2	93.8
全体	20,000	8.0	92.0	全体	20,000	6.3	93.7

(注) 複数回答を得た結果。

3.8 各状況や尺度とのクロス集計

3.8.1 睡眠時間と抑うつ・不安傾向(K6)

『睡眠時間』と『抑うつ・不安傾向(K6)』についてクロス集計を行った(表 3.8.1)。「13 点以上(重度の抑うつ・不安障害疑い)」の回答割合は、「5 時間未満」(22.2%)、「9 時間以上」(20.2%)、「8 時間以上 9 時間未満」(16.4%)の順に高かった。

表 3.8.1 睡眠時間と抑うつ・不安傾向(K6)のクロス集計

		(単位:%)			
	N	0～4点 (抑うつ・不安傾向なし)	5～9点 (抑うつ・不安傾向あり)	10～12点 (抑うつ・不安障害疑い)	13点以上 (重度の抑うつ・不安障害疑い)
5時間未満	2,603	38.8	22.2	16.7	22.2
5時間以上6時間未満	6,531	49.3	22.6	15.0	13.2
6時間以上7時間未満	6,699	53.7	19.6	15.2	11.5
7時間以上8時間未満	3,270	54.0	18.9	14.7	12.4
8時間以上9時間未満	709	53.9	15.9	13.8	16.4
9時間以上	188	44.7	16.5	18.6	20.2
全体	20,000	50.3	20.6	15.2	13.8

3.8.2 ワーク・エンゲイジメントの状況

各状況・尺度と『ワーク・エンゲイジメント』についてクロス集計を行った(表 3.8.2.A～3.8.2.C)。

『睡眠時間』別に『ワーク・エンゲイジメント』を「高い」と回答した者の割合は、「9 時間以上」(21.8%)、「8 時間以上 9 時間未満」(16.1%)、「7 時間以上 8 時間未満」(10.4%)の順に高かった。「低い」と回答した者の割合は、「5 時間未満」(39.4%)、「9 時間以上」(31.9%)、「5 時間以上 6 時間未満」(30.8%)の順に高かった。

『主観的幸福感』別に『ワーク・エンゲイジメント』を「高い」と回答した者の割合は、「10 点」(34.0%)、「9 点」(21.2%)、「8 点」(11.3%)の順に高かった。「低い」と回答した者の割合は、「0 点」(69.1%)、「1 点」(60.1%)、「2 点」(55.0%)の順に高かった。

『抑うつ・不安傾向(K6)』別に『ワーク・エンゲイジメント』を「高い」と回答した者の割合は、「0～4点(抑うつ・不安傾向なし)」(12.1%)、「13点以上(重度の抑うつ・不安障害疑い)」(7.0%)、「5～9点(抑うつ・不安傾向あり)」(5.5%)の順に高かった。「低い」と回答した者の割合は、「13点以上(重度の抑うつ・不安障害疑い)」(46.1%)、「10～12点(抑うつ・不安障害疑い)」(34.3%)、「5～9点(抑うつ・不安傾向あり)」(32.6%)の順に高かった。

表 3.8.2.A 睡眠時間とワーク・エンゲイジメントのクロス集計

		(単位:%)		
	N	0～6点 (低い)	7～11点 (中程度)	12～18点 (高い)
5時間未満	2,603	39.4	52.6	8.0
5時間以上6時間未満	6,531	30.8	61.4	7.8
6時間以上7時間未満	6,699	28.0	63.8	8.2
7時間以上8時間未満	3,270	26.9	62.7	10.4
8時間以上9時間未満	709	25.5	58.4	16.1
9時間以上	188	31.9	46.3	21.8
全体	20,000	30.2	61.0	8.8

表 3.8.2.B 主観的幸福感とワーク・エンゲイジメントのクロス集計

		(単位:%)		
	N	0～6点 (低い)	7～11点 (中程度)	12～18点 (高い)
0点 (とても不幸)	499	69.1	24.8	6.0
1点	303	60.1	36.6	3.3
2点	633	55.0	41.7	3.3
3点	1,107	50.1	46.2	3.7
4点	1,050	43.0	54.0	3.0
5点	3,170	40.4	55.7	3.8
6点	3,034	31.1	64.5	4.4
7点	3,722	22.2	71.1	6.7
8点	3,918	18.0	70.6	11.3
9点	1,492	13.0	65.8	21.2
10点 (とても幸せ)	1,072	18.4	47.7	34.0
全体	20,000	30.2	61.0	8.8

表 3.8.2.C 抑うつ・不安傾向(K6)とワーク・エンゲイジメントのクロス集計

		(単位:%)		
	N	0～6点 (低い)	7～11点 (中程度)	12～18点 (高い)
0～4点 (抑うつ・不安傾向なし)	10,059	23.5	64.3	12.1
5～9点 (抑うつ・不安傾向あり)	4,126	32.6	61.9	5.5
10～12点 (抑うつ・不安障害疑い)	3,047	34.3	61.9	3.9
13点以上 (重度の抑うつ・不安障害疑い)	2,768	46.1	46.9	7.0
全体	20,000	30.2	61.0	8.8

3.8.3 心理的安全性の状況

各状況・尺度と『心理的安全性』についてクロス集計を行った(表 3.8.3A～表 3.8.3.D)。

『睡眠時間』別には、「低い」と回答した割合は、「5 時間未満」(19.9%)、「5 時間以上 6 時間未満」(12.8%)、「9 時間以上」(11.2%)の順に高かった。

『主観的幸福感』別には、「低い」と回答した割合は、「0 点」(69.1%)、「1 点」(60.1%)、「2 点」(55.0%)の順に高かった。

『ワーク・エンゲイジメント』別には、「低い」と回答した割合は、「0 点」(24.8%)、「1 点」(6.1%)、「12～18 点(高い)」(4.2%)の順に高かった。

『抑うつ・不安傾向(K6)』別には、「低い」と回答した割合は、「13 点以上(重度の抑うつ・不安障害疑い)」(27.9%)、「5～9 点(抑うつ・不安傾向あり)」(11.6%)、「10～12 点(抑うつ・不安障害疑い)」(10.8%)の順に高かった。

表 3.8.3.A 睡眠時間と心理的安全性のクロス集計

(単位:%)

	N	5～10点 (低い)	11～15点 (やや低い)	16～20点 (やや高い)	21～25点 (高い)
5時間未満	2,603	19.9	47.9	25.0	7.1
5時間以上6時間未満	6,531	12.8	46.9	31.8	8.4
6時間以上7時間未満	6,699	9.0	46.4	34.6	10.0
7時間以上8時間未満	3,270	8.7	45.6	33.7	12.0
8時間以上9時間未満	709	7.6	44.7	32.2	15.5
9時間以上	188	11.2	36.7	28.2	23.9
全体	20,000	11.6	46.5	32.2	9.8

表 3.8.3.B 主観的幸福感と心理的安全性のクロス集計

(単位:%)

	N	0～6点 (低い)	7～11点 (中程度)	12～18点 (高い)
0点 (とても不幸)	499	69.1	24.8	6.0
1点	303	60.1	36.6	3.3
2点	633	55.0	41.7	3.3
3点	1,107	50.1	46.2	3.7
4点	1,050	43.0	54.0	3.0
5点	3,170	40.4	55.7	3.8
6点	3,034	31.1	64.5	4.4
7点	3,722	22.2	71.1	6.7
8点	3,918	18.0	70.6	11.3
9点	1,492	13.0	65.8	21.2
10点 (とても幸せ)	1,072	18.4	47.7	34.0
全体	20,000	30.2	61.0	8.8

表 3.8.3.C ワーク・エンゲイジメントと心理的安全性のクロス集計

(単位:%)

	N	5～10点 (低い)	11～15点 (やや低い)	16～20点 (やや高い)	21～25点 (高い)
0～6点 (低い)	6,032	24.8	54.9	16.8	3.5
7～11点 (中程度)	12,206	6.1	46.4	38.8	8.7
12～18点 (高い)	1,762	4.2	18.4	38.6	38.8
全体	20,000	11.6	46.5	32.2	9.8

表 3.8.3.D 抑うつ・不安傾向(K6)と心理的安全性のクロス集計

		(単位:%)			
	N	5～10点 (低い)	11～15点 (やや低い)	16～20点 (やや高い)	21～25点 (高い)
0～4点 (抑うつ・不安傾向なし)	10,059	7.3	38.0	39.1	15.6
5～9点 (抑うつ・不安傾向あり)	4,126	11.6	53.6	29.5	5.3
10～12点 (抑うつ・不安障害疑い)	3,047	10.8	64.9	22.1	2.3
13点以上 (重度の抑うつ・不安障害疑い)	2,768	27.9	46.6	21.7	3.7
全体	20,000	11.6	46.5	32.2	9.8

3.8.4 ハラスメントの経験状況

各状況・尺度と『ハラスメントの経験状況』についてクロス集計を行った(表 3.8.4.A～表 3.8.4.D)。

睡眠時間別の「パワーハラスメント」の経験割合は、「5 時間未満」(29.6%)、「5 時間以上 6 時間未満」(22.1%)、「9 時間以上」(20.2%)の順に高かった。睡眠時間別の「セクシャルハラスメント」の経験割合は、「9 時間以上」(14.4%)、「5 時間未満」(11.2%)、「8 時間以上 9 時間未満」(9.9%)の順に高かった。睡眠時間別の「カスタマーハラスメント」の経験割合は、「9 時間以上」(9.0%)、「5 時間未満」及び「8 時間以上 9 時間未満」(各々8.0%)、「5 時間以上 6 時間未満」(6.0%)の順に高かった。

主観的幸福感別の「パワーハラスメント」の経験割合は、「1 点」(40.3%)、「0 点」(39.1%)、「2 点」(32.7%)の順に高かった。主観的幸福感別の「セクシャルハラスメント」の経験割合は、「0 点」(14.6%)、「2 点」(11.2%)、「4 点」(10.7%)の順に高かった。主観的幸福感別の「カスタマーハラスメント」の経験割合は、「2 点」(8.5%)、「3 点」(7.9%)、「4 点」(7.5%)の順に高かった。

ワーク・エンゲイジメント別の「パワーハラスメント」の経験割合は、「0～6 点(低い)」(25.7%)、「7～11 点(中程度)」(19.6%)、「12～18 点(高い)」(14.9%)の順に高かった。ワーク・エンゲイジメント別の「セクシャルハラスメント」の経験割合は、「0～6 点(低い)」(8.7%)、「7～11 点(中程度)」(7.9%)、「12～18 点(高い)」(5.7%)の順に高かった。ワーク・エンゲイジメント別の「カスタマーハラスメント」の経験割合は、

「7～11 点(中程度)」及び「12～18 点(高い)」(各々6.4%)、「0～6 点(低い)」(5.4%)の順に高かった。

抑うつ・不安傾向(K6)別の「パワーハラスメント」の経験割合は、「13 点以上(重度の抑うつ・不安障害疑い)」(41.7%)、「10～12 点(抑うつ・不安障害疑い)」(29.7%)、「5～9 点(抑うつ・不安傾向あり)」(25.8%)の順に高かった。抑うつ・不安傾向(K6)別の「セクシャルハラスメント」の経験割合は、「13 点以上(重度の抑うつ・不安障害疑い)」(17.2%)、「10～12 点(抑うつ・不安障害疑い)」(15.0%)、「5～9 点(抑うつ・不安傾向あり)」(9.7%)の順に高かった。抑うつ・不安傾向(K6)別の「カスタマーハラスメント」の経験割合は、「13 点以上(重度の抑うつ・不安障害疑い)」(11.4%)、「10～12 点(抑うつ・不安障害疑い)」(10.3%)、「5～9 点(抑うつ・不安傾向あり)」(6.8%)の順に高かった。

表 3.8.4.A 睡眠時間と各種ハラスメント経験率のクロス集計

(単位:%)

パワーハラスメント				カスタマーハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
5時間未満	2,603	29.6	70.4	5時間未満	2,603	8.0	92.0
5時間以上6時間未満	6,531	22.1	77.9	5時間以上6時間未満	6,531	6.0	94.0
6時間以上7時間未満	6,699	19.1	80.9	6時間以上7時間未満	6,699	5.2	94.8
7時間以上8時間未満	3,270	17.0	83.0	7時間以上8時間未満	3,270	5.9	94.1
8時間以上9時間未満	709	16.8	83.2	8時間以上9時間未満	709	8.0	92.0
9時間以上	188	20.2	79.8	9時間以上	188	9.0	91.0
全体	20,000	21.0	79.0	全体	20,000	6.1	93.9

セクシャルハラスメント				その他ハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
5時間未満	2,603	11.2	88.8	5時間未満	2,603	8.6	91.4
5時間以上6時間未満	6,531	7.7	92.3	5時間以上6時間未満	6,531	5.7	94.3
6時間以上7時間未満	6,699	6.9	93.1	6時間以上7時間未満	6,699	5.6	94.4
7時間以上8時間未満	3,270	7.3	92.7	7時間以上8時間未満	3,270	6.2	93.8
8時間以上9時間未満	709	9.9	90.1	8時間以上9時間未満	709	7.6	92.4
9時間以上	188	14.4	85.6	9時間以上	188	11.7	88.3
全体	20,000	8.0	92.0	全体	20,000	6.3	93.7

(注) 複数回答を得た結果。

表 3.8.4.B 主観的幸福感と各種ハラスメント経験率のクロス集計

(単位:%)

パワーハラスメント				カスタマーハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
0点 (とても不幸)	499	39.1	60.9	0点 (とても不幸)	499	7.2	92.8
1点	303	40.3	59.7	1点	303	5.6	94.4
2点	633	32.7	67.3	2点	633	8.5	91.5
3点	1,107	32.3	67.7	3点	1,107	7.9	92.1
4点	1,050	30.1	69.9	4点	1,050	7.5	92.5
5点	3,170	21.3	78.7	5点	3,170	5.8	94.2
6点	3,034	22.6	77.4	6点	3,034	6.1	93.9
7点	3,722	18.5	81.5	7点	3,722	5.9	94.1
8点	3,918	14.8	85.2	8点	3,918	5.2	94.8
9点	1,492	14.7	85.3	9点	1,492	5.4	94.6
10点 (とても幸せ)	1,072	14.9	85.1	10点 (とても幸せ)	1,072	6.1	93.9
全体	20,000	21.0	79.0	全体	20,000	6.1	93.9

セクシャルハラスメント				その他ハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
0点 (とても不幸)	499	14.6	85.4	0点 (とても不幸)	499	11.4	88.6
1点	303	8.6	91.4	1点	303	6.3	93.7
2点	633	11.2	88.8	2点	633	7.3	92.7
3点	1,107	7.8	92.2	3点	1,107	6.8	93.2
4点	1,050	10.7	89.3	4点	1,050	8.5	91.5
5点	3,170	7.7	92.3	5点	3,170	5.9	94.1
6点	3,034	8.7	91.3	6点	3,034	6.7	93.3
7点	3,722	7.5	92.5	7点	3,722	5.7	94.3
8点	3,918	6.7	93.3	8点	3,918	5.4	94.6
9点	1,492	6.5	93.5	9点	1,492	5.7	94.3
10点 (とても幸せ)	1,072	7.2	92.8	10点 (とても幸せ)	1,072	6.4	93.6
全体	20,000	8.0	92.0	全体	20,000	6.3	93.7

(注) 複数回答を得た結果。

表 3.8.4.C ワーク・エンゲイジメントと各種ハラスメント経験率のクロス集計

(単位:%)

パワーハラスメント				カスタマーハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
0～6点 (低い)	6,032	25.7	74.3	0～6点 (低い)	6,032	5.4	94.6
7～11点 (中程度)	12,206	19.6	80.4	7～11点 (中程度)	12,206	6.4	93.6
12～18点 (高い)	1,762	14.9	85.1	12～18点 (高い)	1,762	6.4	93.6
全体	20,000	21.0	79.0	全体	20,000	6.1	93.9

セクシャルハラスメント				その他ハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
0～6点 (低い)	6,032	8.7	91.3	0～6点 (低い)	6,032	6.8	93.2
7～11点 (中程度)	12,206	7.9	92.1	7～11点 (中程度)	12,206	6.4	93.6
12～18点 (高い)	1,762	5.7	94.3	12～18点 (高い)	1,762	4.0	96.0
全体	20,000	8.0	92.0	全体	20,000	6.3	93.7

(注) 複数回答を得た結果。

表 3.8.4.D 抑うつ・不安傾向(K6)と各種ハラスメント経験率のクロス集計

(単位:%)

パワーハラスメント				カスタマーハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
0～4点（抑うつ・不安傾向なし）	10,059	10.8	89.2	0～4点（抑うつ・不安傾向なし）	10,059	3.0	97.0
5～9点（抑うつ・不安傾向あり）	4,126	25.8	74.2	5～9点（抑うつ・不安傾向あり）	4,126	6.8	93.2
10～12点（抑うつ・不安障害疑い）	3,047	29.7	70.3	10～12点（抑うつ・不安障害疑い）	3,047	10.3	89.7
13点以上（重度の抑うつ・不安障害疑い）	2,768	41.7	58.3	13点以上（重度の抑うつ・不安障害疑い）	2,768	11.4	88.6
全体	20,000	21.0	79.0	全体	20,000	6.1	93.9

セクシャルハラスメント				その他ハラスメント			
	N	経験あり	経験無し		N	経験あり	経験無し
0～4点（抑うつ・不安傾向なし）	10,059	2.6	97.4	0～4点（抑うつ・不安傾向なし）	10,059	2.0	98.0
5～9点（抑うつ・不安傾向あり）	4,126	9.7	90.3	5～9点（抑うつ・不安傾向あり）	4,126	7.6	92.4
10～12点（抑うつ・不安障害疑い）	3,047	15.0	85.0	10～12点（抑うつ・不安障害疑い）	3,047	12.9	87.1
13点以上（重度の抑うつ・不安障害疑い）	2,768	17.2	82.8	13点以上（重度の抑うつ・不安障害疑い）	2,768	12.7	87.3
全体	20,000	8.0	92.0	全体	20,000	6.3	93.7

(注) 複数回答を得た結果。

「労働時間と働き方に関する調査」調査票

Q1. あなたの性別をお答えください。[SA]

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 回答しない |
|-------|-------|----------|

Q2. あなたの年齢をお答えください。[SA]

- | | | |
|--------------|------------|------------|
| 1. 20 歳未満 | 2. 20～29 歳 | 3. 30～39 歳 |
| 4. 40～49 歳 | 5. 50～59 歳 | 6. 60～64 歳 |
| 7. 65 歳～74 歳 | 8. 75 歳以上 | 9. 回答しない |

Q3. あなたは現在、なにか収入になる定常的な仕事※(以下、「仕事」と略)をしていますか。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 仕事をしている | 2. 仕事をしていない |
|------------|-------------|

「2. 仕事をしていない」選択 → 終了文へ

※ ここでの「定常的な仕事」とは、ふだん仕事をしており、今後もしていくこととなっている場合をいいます。

年金、利子・家賃、株等の配当、相続などによる収入や株のデイトレーディング、個人的なネットオークションによる収入、ブログや動画配信サイトのアフィリエイト広告による収入、ネット調査のモニターによる収入等はここでいう仕事には該当しません。

いわゆる主婦(主夫)でも、パートやアルバイト・内職など収入になる仕事をしている場合は「1. 仕事をしている」に該当します。学生の場合は、収入の多寡にかかわらず「2. 仕事をしていない」に該当します。また、自営業の家族の方が家業を手伝い、少しでも収入を得た場合は「1. 仕事をしている」に該当します。

Q4. あなたが現在している仕事は、いくつありますか※。

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 1. 仕事は 1 つだけ | 2. 仕事は 2 つ以上(副業をしている) |
|--------------|-----------------------|

※ 自営業の家族の方が、自分の仕事の合間に家業を手伝い、家業からも収入を得ている場合は、「2. 仕事は2つ以上(副業をしている)」に該当します。

以下では特に断りのない限り、副業をしている方は本業（自分が主たる仕事だと考えている仕事）についてお答えください。

Q5. あなたの業種として該当するものをお答えください。

1. 農業・林業	2. 漁業
3. 鉱業、採石業、砂利採取業	4. 建設業
5. 製造業	6. 電気・ガス・熱供給・水道業
7. 情報通信業	8. 運輸業、郵便業
9. 卸売業、小売業	10. 金融業、保険業
11. 不動産業、物品賃貸業	12. 学術研究、専門・技術サービス業
13. 宿泊業、飲食サービス業	14. 生活関連サービス業、娯楽業
15. 教育、学習支援業	16. 医療、福祉
17. 複合サービス事業	18. サービス業（他に分類されないもの）
19. その他	

Q6.

Q6_1（「4.建設業」を選んだ場合）あなたの職種をお答えください。

1. 管理者	2. 技術者
3. 技能者	4. その他

Q6_2.（「13.宿泊業、飲食サービス業」を選んだ場合）あなたの業職種をお答えください。

1. 外食産業 店長	2. 外食産業 店舗従業員(接客)
3. 外食産業 店舗従業員(調理)	4. その他・宿泊業

Q6_3.（「16.医療、福祉」を選んだ場合）あなたの職種をお答えください。

1. 医師	2. 看護師
3. 介護士	4. その他

Q7. あなたの職種をお答えください。完全に一致しない場合は最も近いものをお答えください。

職業	例
1. 管理的職業従事者	法人・団体等の役員、管理職員
2. 専門的・技術的職業従事者	研究者、技術者、医療従事者、教育職、専門的職業、デザイナーなど
3. 事務従事者	一般事務など
4. 販売従事者	商品販売、営業職など
5. サービス職業従事者	家庭生活支援サービス、理容師・美容師、飲食業、接客・給仕など
6. 保安職業従事者	自衛官、司法警察職員、その他の保安職業従事者
7. 農林漁業従事者	農業・林業・漁業従事者
8. 生産工程従事者	生産設備制御・監視、機械組立、加工、検査など

- | | |
|------------------|----------------|
| 9. 輸送・機械運転従事者 | 鉄道運転、自動車運転など |
| 10. 建設・採掘従事者 | 建設、土木作業、電気工事など |
| 11. 運搬・清掃・包装等従事者 | 運搬、清掃、包装など |
| 12. 分類不能の職業 | |

Q8. あなたの働き方をお答えください。雇われている方は勤め先での呼称をお答えください。

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1. 正社員・正職員 | 2. 契約社員※ ¹ ・嘱託 |
| 3. パート・アルバイト | 4. 臨時・日雇社員 |
| 5. 労働者派遣事業所の派遣社員※ ² | 6. 会社などの役員 |
| 7. 自営業主(雇い人あり) | 8. 自営業主(雇い人なし) |
| 9. 自家営業の手伝い | |

※¹ 契約社員とは、専門的職種に従事させることを目的に契約に基づき雇用される人をいいます。

※² 労働者派遣事業所の派遣社員とは、労働者派遣法などに基づく労働者派遣事業所などに雇用され、そこから派遣される人をいいます。

※¹ 上記以外の派遣されている人(デパートの派遣店員など)は派遣元の事業所における呼称について当てはまるものをお答えください。

Q9. あなたが働いている事業場(働いている場所)の従業員数をお答えください。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 1～9 人 | 2. 10～29 人 | 3. 30～49 人 |
| 4. 50～99 人 | 5. 100～299 人 | 6. 300～999 人 |
| 7. 1,000 人以上 | 8. わからない | |

Q10. あなたが働いている会社全体の従業員数をお答えください。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 1～9 人 | 2. 10～29 人 | 3. 30～49 人 |
| 4. 50～99 人 | 5. 100～299 人 | 6. 300～999 人 |
| 7. 1,000 人以上 | 8. わからない | |

Q11. 現在の職場での通算在職年月数をお答えください。

<div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 2px;"></div> <div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 2px;"></div>	年	<div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 2px;"></div> <div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 2px;"></div>	か月
---	---	---	----

Q12.

Q12_1 あなたの先月における平均的な1週間あたりの実労働時間数はどれくらいですか。(副業のある方は、本業と副業の合計時間数を記載してください。)

【本業】

		時間
--	--	----

【副業・兼業】

		時間
--	--	----

Q12_2 1年前の同月と比べて平均的な1週間あたりの実労働時間数は変わりましたか。(1年前に働いていない等、比較が困難な場合は、「6.わからない」を選択してください。)

【本業】

1. とても増加した(週あたり+5 時間以上の増加)
2. 増加した(週あたり+2.5 時間以上 5 時間未満の増加)
3. 変化していない(±週あたり 2.5 時間未満の変化差の内)
4. 減少した(週あたり-2.5 時間以上 5 時間未満の減少)
5. とても減少した(週あたり-5 時間以上の減少)
6. わからない

【副業・兼業】

1. とても増加した(週あたり+5 時間以上の増加)
2. 増加した(週あたり+2.5 時間以上 5 時間未満の増加)
3. 変化していない(±週あたり 2.5 時間未満の変化差の内)
4. 減少した(週あたり-2.5 時間以上 5 時間未満の減少)
5. とても減少した(週あたり-5 時間以上の減少)
6. わからない

Q12_3 (Q12_2 で「6.わからない」を選んだ場合は非表示)およそ、週で何時間程度変化したかお答えください。

【本業】

±		時間/週
---	--	------

【副業・兼業】

±		時間/週
---	--	------

Q13.あなたの勤務について、あてはまるものをお答えください。

- | | |
|---|-----------------------|
| 1. 固定勤務（例：8:30～17:15 など） | 2. フレックスタイム制 ※1 |
| 3. 変形労働時間制 ※2 | 4. 事業場外労働のみなし労働時間制 ※3 |
| 5. 裁量労働制 ※4 | 6. 交替勤務 |
| 7. 管理監督者等で適用除外者 | 8. 高度プロフェッショナル制度 ※5 |
| 9. 【Q8で1～6を選択した回答者には非表示】
契約で決められていない | 10. その他 |

※1 労働者が各日の始業、終業の時刻を自らの意思で決めて働く制度をいいます。

※2 一定期間を平均して1週間当たりの労働時間が40時間を超えない範囲で、業務の繁閑に応じ労働時間を配分することができる制度をいいます。

※3 事業場で労働する場合で労働時間の算定が困難な場合に、ある一定の時間分労働したものとみなす制度をいいます。

※4 業務の性質上、その遂行方法を大幅に労働者の裁量に委ねる必要がある特定の業務において、労使協定または労使委員会の決議で定めた時間を労働したものとみなす制度（専門業務型裁量労働制・企画業務型裁量労働制）をいいます。

※5 高度の専門的知識等を有し、職務の範囲が明確で一定の年収要件を満たす労働者を対象として、労使委員会の決議及び労働者本人の同意を前提として、年間104日以上の日休確保措置や健康管理時間の状況に応じた健康・福祉確保措置等を講ずることにより、労働基準法に定められた労働時間、休憩、休日及び深夜の割増賃金に関する規定を適用しない制度をいいます。

Q14.あなたの職場における労働時間の把握方法について、あてはまるものを全てお答えください。

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 所属長、上司等が目視で確認 | 2. タイムカード、ICカード |
| 3. PCのログイン・ログアウト | 4. 出勤簿 |
| 5. 労働者(本人)の自己申告 | 6. その他の方法 |
| 7. 把握していない | |

Q15.

Q15_1 あなたの職場における把握されている労働時間の正確性についてお答えください。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. まったく正確に把握されていない | 2. あまり正確に把握されていない |
| 3. おおむね正確に把握されている | 4. 正確に把握されている |
| 5. わからない | |

Q15_2（Q15_1で「1. まったく正確に把握されていない」、「2. あまり正確に把握されていない」を選択した場合に表示）労働時間が正確に把握されていない理由として、あてはまるものを全てお答えください。

- | |
|--|
| 1. 自己申告できる時間外労働の時間数に上限が設けられているため |
| 2. 上司から注意・叱責される可能性を考え、労働時間を過少に申告しているため |
| 3. 査定への影響を考え、労働時間を過少に申告しているため |
| 4. 名目上は休憩等の時間であるものの、実際にはその時間も業務に従事しているため |
| 5. 業務時間外に顧客・取引先から電話やメール等の連絡があるため |
| 6. 業務時間外に上司・同僚から電話やメール等の連絡があるため |
| 7. 持ち帰り残業があり、労働時間が正確に記録されないため |
| 8. 出張や外出（外回り）があり、労働時間が正確に記録されないため |
| 9. 在宅勤務等があり、労働時間が正確に記録されないため |

10. 労働時間が記録されない形での業務が可能であるため
(例: タイムカード打刻前・打刻後の業務、申請なしの休日出勤等)
11. 職場で労働時間を正確に把握できる方法が用いられていないため
12. 職場が労働時間を積極的に把握しようとしていないため
13. 時間外労働手当の定額払い制度(みなし残業制度)が適用されているため
14. その他
15. わからない

Q16. あなたご自身の所定時間外労働(残業)についておたずねします。所定時間外労働が生じる際の理由としてあてはまるものを全てお答えください。
(裁量労働制等みなし労働時間制の方、自営業主、フリーランスの方は実際に仕事をした時間が一日 8 時間を超える理由についてお答えください。)

1. 業務量が多いため
2. 人員が不足しているため
3. 仕事の繁閑の差が大きいため
4. 仕事の特性上、所定労働時間外も含めた長時間の労働を行わないとできない仕事があるため
5. 社員間の業務の平準化がされていないため
6. ICT や機械化等による生産性向上が進んでいないため
7. 会社や管理職から所定時間外労働を求められるため
8. 顧客の提示する納期が短いため
9. 顧客からの不規則な要望に対応する必要があるため(予期せぬ仕様変更等)
10. 受注時の契約内容が不明確である(文書化されていない)ため
11. 【Q8 で 7～9 を選択した回答者に表示】労働時間の上限について規制がないため
12. その他
13. 所定時間外労働はない

Q17. 過去 1 か月の間、以下の時間帯に働くことはどのくらいありましたか。

	全くなかった	月 1 回以上	週 1～2 回	週 3 回以上	ほぼ毎日
19:00-22:00	1	2	3	4	5
22:00-5:00	1	2	3	4	5
5:00-8:00	1	2	3	4	5

Q18. 過去 1 か月の間、所定休日に出勤をした日はどのくらいありましたか。

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 全くなかった | 2. 月 1～2 回 |
| 3. 月 3 回 | 4. 毎週ある |

Q23.現在の満足度について、項目ごとに該当するものを1つ選んでください。

	不 満	やや 不 満	ど ち ら ど も な い	やや 満 足	満 足
仕事の内容・やりがい	1	2	3	4	5
賃金・福利厚生	1	2	3	4	5
労働時間・休日等の労働条件	1	2	3	4	5
人事評価・処遇のあり方	1	2	3	4	5
職場の環境(照明、空調、騒音等)	1	2	3	4	5
職場での指揮命令系統の明確性	1	2	3	4	5
教育訓練・能力開発のあり方	1	2	3	4	5
雇用の安定性	1	2	3	4	5
職業生活全体	1	2	3	4	5

Q24.あなたの仕事についてうかがいます。最もあてはまるものをお答えください。

	そう だ	まあ そう だ	やや 違 う	違 う
1. 非常にたくさんの仕事をしなければならない	1	2	3	4
2. 時間内に仕事が処理しきれない	1	2	3	4
3. 一生懸命働かなければならない	1	2	3	4
4. かなり注意を集中する必要がある	1	2	3	4
5. 高度の知識や技術が必要な難しい仕事だ	1	2	3	4
6. 勤務時間中はいつも仕事のことを考えていなければならない	1	2	3	4
7. からだを大変よく使う仕事だ	1	2	3	4
8. 自分のペースで仕事ができる	1	2	3	4
9. 自分で仕事の順番・やり方を決めることができる	1	2	3	4
10. 職場の仕事の方針に自分の意見を反映できる	1	2	3	4
11. 自分の技能や知識を仕事で使うことが少ない	1	2	3	4
12. 私の部署内で意見のくい違いがある	1	2	3	4
13. 私の部署と他の部署とはうまが合わない	1	2	3	4
14. 私の職場の雰囲気は友好的である	1	2	3	4
15. 私の職場の作業環境(騒音、照明、温度、換気など)はよくない	1	2	3	4
16. 仕事の内容は自分にあっている	1	2	3	4
17. 働きがいのある仕事だ	1	2	3	4

号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	全くない	ほとんど感じない	めったに感じない	時々感じる	よく感じる	とてもよく感じる	いつも感じる
仕事をしていると、活力がみなぎるように感じる	0	1	2	3	4	5	6
仕事に熱心である	0	1	2	3	4	5	6
私は仕事にのめり込んでいる	0	1	2	3	4	5	6

Q30. 以下の項目は、ここ数週間のあなたの職場での様子について尋ねるものです。1を「全く当てはまらない」5を「非常によく当てはまる」とするとあなたはどの程度当てはまりますか。それぞれの文章をよく読み、該当する点数を選んでください。

	全く当てはまらない				非常によく当てはまる
私の職場では、自分の仕事についての本音を話すことができる。	1	2	3	4	5
私の職場では、自分の考えを自由に話すことができる。	1	2	3	4	5
私の職場では、本音を話すことが推奨されている。	1	2	3	4	5
私の職場では、たとえ自分が他の人と異なる意見を持っていても、非難されることはない。	1	2	3	4	5
職場で本音を語ると、自分自身に害が及ぶのではないかと不安を感じる。	1	2	3	4	5
この項目は4にチェックを入れてください。	1	2	3	4	5

Q31. 過去1年間であなたの仕事場において、あなたに対して以下の出来事がありましたか。あなたの感じるままにお答えください。

		出来事							
(あなたとの関係者)		1:身体的な攻撃 (暴行・傷害)	2:精神的な攻撃 (脅迫・名誉毀損・侮辱・暴言)	3:人間関係からの切り離し (隔離・仲間外し・無視)	4:過大な要求 (業務上明らかに不要なことなどを要求)	5:過少な要求 (仕事を与えない等)	6:個の侵害 (私的なことに過度に立ち入ること)	7:セクハラ (性的関係の強要等)	8:なかった
	上司・先輩	○	○	○	○	○	○	○	○
	同僚	○	○	○	○	○	○	○	○
	部下・後輩	○	○	○	○	○	○	○	○

	顧客・取引先	○	○	○	○	○	○	○	○
--	--------	---	---	---	---	---	---	---	---

(注)それぞれの具体的な事例は以下の通りです。あなたの感じ方として、ある 1 つの出来事が複数項目に該当した場合、全てを選択してください。

- 1: 叩く、殴る、蹴る、などの暴行を受ける。丸めたポスターで頭を叩く。
- 2: 同僚の前で叱責される。他の職員も宛先に含めメールで罵倒される。必要以上に長時間、繰返し執拗に叱る。
- 3: 1 人だけ別室に席をうつされる。職場で無視するなどコミュニケーションを取らない。送別会に出席させない。
- 4: 新人で仕事のやり方もわからないのに他の人の仕事までおしつけられ、同僚は、皆先に帰ってしまった。
- 5: 運転手なのに営業所の草むしりだけを命じられた。事務職なのに倉庫業務だけを命じられた。
- 6: 交際相手について執拗に問われる。妻に対する悪口を言われる。
- 7: 人事評価や取引等の職務上の関係から性的関係を強要する。付き合っていると思い込んで執拗にメッセージを送る。

Q32. あなたの勤務先において、ハラスメントに関する取組として実施しているものがあればお答えください(当てはまるもの全て)。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ハラスメントをなくす旨の方針の明確化やトップメッセージの発信 2. ハラスメント行為者に対する処罰等に関する就業規則等での規定 3. 従業員への研修の実施 4. 管理職への研修の実施 5. 相談窓口の設置 6. 相談者等のプライバシー保護のための措置の実施と周知(マニュアルの作成、相談窓口担当者への研修、社内広報資料等への記載・配布等) 7. 相談したこと等を理由として不利益取扱いをされない旨の定めと周知・啓発(就業規則等への文書への規定・周知、社内広報資料への記載・配布等) 8. 産業保健スタッフ(産業医、保健師、看護師等)との連携(メンタルケアのための体制の整備) 9. その他 10. 特に取り組んでいない 11. わからない |
|--|

Q33.あなたは運動習慣がありますか。

1. はい 2. いいえ

※なお、運動習慣の定義は 1 回 30 分以上の運動(ウォーキングやジョギング、スポーツクラブや運動系サークル・スクールでの

活動など意図的な身体活動)を週 2 回以上実施し、1 年以上継続していることとします。

1 回 30 分以上できない回があったり、週 2 回以上できない週があったりする場合でも、ご自身で概ね条件を満たすと考えられる場合は、“運動習慣あり”とお考えください。

Q34.どのくらいの頻度で飲酒をしますか。

1. 飲まない 2. 月に 1～3 回 3. 週 1～2 日程度 4. 週 3～5 日程度 5. ほぼ毎日

Q35.たばこは吸っていますか(電子たばこも含みます)。

1. 吸わない 2. やめた(過去に吸っていた) 3. 吸っている

Q36.あなたは現在ギャンブル(※)をしていますか。

1. 全然やらない 2. 現在はやっていない(過去にやっていた) 3. やっている

※金銭を賭けて行う競馬、競輪、競艇、パチンコ、パチスロ等のことをいいます。

Q37.あなたの過去 1 か月における 1 日あたりの平均睡眠時間についてお答えください。

	5 時間未満	5 時間以上 6 時間未満	6 時間以上 7 時間未満	7 時間以上 8 時間未満	8 時間以上 9 時間未満	9 時間以上
仕事のある日の睡眠時間	1	2	3	4	5	6
仕事のない日の睡眠時間	1	2	3	4	5	6

Q38.あなたにとって理想の睡眠時間についてお答えください。

	5 時間未満	5 時間以上 6 時間未満	6 時間以上 7 時間未満	7 時間以上 8 時間未満	8 時間以上 9 時間未満	9 時間以上
仕事のある日の睡眠時間	1	2	3	4	5	6
仕事のない日の睡眠時間	1	2	3	4	5	6

Q39.ふだん、布団に入ってから眠るまでにどのくらい時間がかかりますか。

1. 10 分以内 2. 11-30 分 3. 31-59 分
4. 1 時間以上 2 時間未満 5. 2 時間以上

Q40.就寝中に途中で目が覚めて、眠りにつけないことはどのくらいありますか。

1. ほとんどない 2. 年数回 3. 月 1 回以上
4. 週 1-2 回 5. 週 3 回以上 6. ほぼ毎日

Q41.朝早く目が覚めて、そのあと、眠れないことはどのくらいありますか。

1. ほとんどない	2. 年数回	3. 月 1 回以上
4. 週 1-2 回	5. 週 3 回以上	6. ほぼ毎日

Q42.過去 1 か月において、ふだんの睡眠で休養が取れていると思いますか。

1. 全く取れていない	2. あまり取れていない
3. まあ取れている	4. 充分取れている

Q43.過去1か月において、ご自分の睡眠の質を全体としてどのように評価しますか。

1. 非常に悪い	2. かなり悪い
3. かなりよい	4. 非常によい

Q44.あなたは仕事や仕事以外で疲れた場合、疲労の回復状況は次のどれにあたりますか？

1. 一晩睡眠をとればだいたい疲労は回復する	2. 翌朝に前日の疲労を持ちこすことがときどきある
3. 翌朝に前日の疲労を持ちこすことがよくある	4. 翌朝に前日の疲労をいつも持ちこしている

Q45.過去30日の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。あてはまる数字に○をつけてください。

		全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも
(A)	神経過敏に感じましたか	0	1	2	3	4
(B)	絶望的だと感じましたか	0	1	2	3	4
(C)	そわそわ、落ち着かなく感じましたか	0	1	2	3	4
(D)	気分が沈みこんで、何か起こっても気が晴れないように感じましたか	0	1	2	3	4
(E)	何をするのも骨折りだと感じましたか	0	1	2	3	4
(F)	自分は価値のない人間だと感じましたか	0	1	2	3	4

Q46.あなたの現在の健康状態はいかがですか。

1. よくない	2. あまりよくない	3. ふつう
4. まあよい	5. よい	

Q47.1 年前と比べてあなたの現在の健康状態は変わりましたか。

1. よくなった	2. 変わらない	3. 悪くなった
4. わからない		

Q48.あなたは過去 1 年間に以下の病気等を指摘されたことや、病院や診療所などで治療を受けたことがありますか。

1. 高血圧症	2. 糖尿病
3. 高脂血症	4. 肥満
5. 痛風・高尿酸血症	6. 脳卒中
7. 心臓病	8. 不整脈
9. 肝臓病	10. 腎臓病
11. 十二指腸潰瘍	12. 胃潰瘍
13. がん	14. ぜんそく(気管支喘息)
15. うつ病	16. 不眠症
17. メタボリックシンドローム	18. 上記以外の病気
19. 病気等はしていない	

Q49.あなたは過去 1 年間に定期健康診断・人間ドックを受けましたか。

1. 受けた	2. 受けていない	3. 覚えていない・分からない
--------	-----------	-----------------

Q50.あなたは過去 1 年間に、会社や取引先などでストレスチェック※を受けましたか。

1. 受けた	2. 受けていない	3. 覚えていない・分からない
--------	-----------	-----------------

※「ストレスチェック」とは、ストレスに関する質問票(選択回答)に労働者が記入し、それを集計・分析することで、自分のストレスがどのような状態にあるのかを調べる簡単な検査です。

Q51.1 か月間の時間外労働時間・休日労働時間が 80 時間超の労働者に対して実施される医師による面接指導について、あなたは過去 1 年間に、会社や取引先から受けるように指示はありましたか。

1. 指示を受けたし、面接指導も受けた
2. 指示を受けたが、面接指導は受けなかった
3. 指示を受けなかったが、面接指導を受けさせてもらえるよう申し出た
4. 指示を受けなかったし、面接指導も受けなかった
5. 指示を受けたかどうかはわからない、覚えていない

Q52.あなたが今よりもより健康になる為に、以下のどの取り組みが重要だと思いますか。すべて選択してください。

1. 労働時間を減少させる	2. 睡眠時間を増加させる
3. 職場でのストレスを減少させる	4. 職場以外でのストレスを減少させる
5. 医師の指導を受ける	6. 食事習慣を見直す
7. 運動習慣を見直す	8. 特に無し

Q53.現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点とすると、何点くらいになると思いますか。

←とても不幸 とても幸せ→

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

Q54.過去 1 か月間のテレワーク※の平均的な頻度をお答えください。

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. 毎日 | 2. 週 4 日程度 |
| 3. 週 2～3 日程度 | 4. 週 1 日程度 |
| 5. 月 1～2 日程度 | 6. 自分はテレワークをしていない |

※ 情報通信機器を利用して行う、普段勤務する事業場以外の場所（自宅、サテライトオフィス、公共施設、宿泊施設など）での勤務をいいます。

Q55.今後の転職希望についてお答えください。

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 今の職場で今後も働きたい | 2. 機会があれば転職したい |
| 3. わからない | |

Q56.あなたの現在の居住地をお答えください。

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| 1. 北海道 | 2. 青森県 | 3. 岩手県 |
| 4. 宮城県 | 5. 秋田県 | 6. 山形県 |
| 7. 福島県 | 8. 茨城県 | 9. 栃木県 |
| 10. 群馬県 | 11. 埼玉県 | 12. 千葉県 |
| 13. 東京都 | 14. 神奈川県 | 15. 新潟県 |
| 16. 富山県 | 17. 石川県 | 18. 福井県 |
| 19. 山梨県 | 20. 長野県 | 21. 岐阜県 |
| 22. 静岡県 | 23. 愛知県 | 24. 三重県 |
| 25. 滋賀県 | 26. 京都府 | 27. 大阪府 |
| 28. 兵庫県 | 29. 奈良県 | 30. 和歌山県 |
| 31. 鳥取県 | 32. 島根県 | 33. 岡山県 |
| 34. 広島県 | 35. 山口県 | 36. 徳島県 |
| 37. 香川県 | 38. 愛媛県 | 39. 高知県 |
| 40. 福岡県 | 41. 佐賀県 | 42. 長崎県 |
| 43. 熊本県 | 44. 大分県 | 45. 宮崎県 |
| 46. 鹿児島県 | 47. 沖縄県 | 48. 回答しない |

Q57.あなたの最終学歴をお答えください。

- | | | |
|--------------|-------|----------|
| 1. 中学校 | 2. 高校 | 3. 短大・高専 |
| 4. 専門学校、専修学校 | 5. 大学 | 6. 大学院 |
| 7. 回答しない | | |

Q58.あなたには、現在、配偶者はいますか。

なお、「配偶者」には、事実上夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない場合も含まれます。[SA]

- | |
|--------|
| 1. いる |
| 2. いない |

Q59.何人暮らしですか(ご自身を含めてください)。

1. 1人	2. 2人	3. 3人
4. 4人以上		

Q60.昨年1年間(2023年1月～12月)の、あなたの年間収入(税込み・公的年金含む)はどのくらいですか。

1. 100万円未満	2. 100～199万円	3. 200～299万円	4. 300～399万円
5. 400～499万円	6. 500～599万円	7. 600～699万円	8. 700～799万円
9. 800～899万円	10. 900～999万円	11. 1000～1249万円	12. 1250～1499万円
13. 1500～1999万円	14. 2000万円以上	15. 回答しない	

Q61.昨年1年間(2023年1月～12月)の、世帯全体の年間収入(税込み・公的年金含む)はどのくらいですか。

1. 100万円未満	2. 100～199万円	3. 200～299万円	4. 300～399万円
5. 400～499万円	6. 500～599万円	7. 600～699万円	8. 700～799万円
9. 800～899万円	10. 900～999万円	11. 1000～1249万円	12. 1250～1499万円
13. 1500～1999万円	14. 2000万円以上	15. 回答しない	

これで調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。